

中央区  
ひとり親家庭実態調査  
調査報告書

令和6(2024)年3月

中央区



# 目次

第1章 調査概要.....	1
1 調査目的.....	3
2 調査対象.....	3
3 調査方法.....	3
4 調査時期.....	3
5 回収数(回収率).....	3
6 調査項目.....	4
第2章 調査結果.....	7
I ひとり親家庭実態調査.....	9
1 回答者.....	9
2 お子さんのこと.....	19
3 お仕事に関すること.....	25
4 養育費.....	41
5 面会交流.....	47
6 子育てについて.....	50
II 質問間クロス集計等.....	85
資料編 アンケート調査票及び集計結果.....	87



# 第1章 調査概要



## 1 調査目的

本調査は、令和7年度から11年度までの5か年度を計画期間とする「第三期中央区子ども・子育て支援事業計画」の策定を令和6年度に予定しており、区内在住のひとり親家庭の生活実態を把握し、ひとり親家庭の自立支援の推進に関わる施策の基礎となる資料を収集するため実施する。

## 2 調査対象

区内在住の児童育成手当受給資格者、801人(悉皆調査。ただし、「子育て支援に関するニーズ調査」の対象者として抽出された者を除く)

## 3 調査方法

郵送配布－郵送回収・インターネット回答(督促礼状1回送付)

## 4 調査時期

令和5(2023)年10月30日(月)～11月24日(金)

## 5 回収数(回収率)

発送数 (票)	回収・回答数 (率)	内訳	
		郵送 回収数(率)	インターネット 回答数(率)
801	296 (37.0%)	145 (18.1%)	151 (18.9%)

## 6 調査項目

項目	問番号	設問
1 回答者について	問1	性別
	問2	年齢
	問3	居住地域
	問4	居住歴・居住年数
	問5	現在の住居形態
	問6(1)	世帯員の人数
	問6(2)	同居者
	問7	現在、生計を立てている収入等
	問8	世帯の年間収入(税込み)
	問9	ひとり親になった事情
	問9-1	どのように離婚が成立したか
	問9-2	離婚成立に要した期間
	問9-3	離婚成立までの期間中の困りごと
2 お子さんのこと	問10	ひとり親になった年齢
	問11	子どもの人数、年齢、性別、通学・就職状況、同別居
	問12	子どもの進学(希望・現実)
	問12-1	子どもの進学の現実の見通しの最大の理由
問13	子どもの多様な経験の状況	
3 お仕事に関する こと	問14	最終学歴
	問15	ひとり親になる前の就業状況
	問15-1	ひとり親になる前の雇用形態
	問15-2	ひとり親になったことによる転職状況
	問15-3	ひとり親になる前に仕事をしていなかった理由
	問16	現在の就労状況
	問17(1)	現在の雇用形態
	問17(2)	週当たりの就労日数／平日の出勤・帰宅時間／22時以降の深夜勤務の有無／土曜日勤務の有無／日曜・祝日勤務の有無／副業の有無
	問17(3)	勤務地
	問17(4)	片道の通勤時間
	問17(5)	現在の仕事の勤務年数
	問17(6)	就職の際の相談窓口等
	問17(7)	仕事を探している時の問題点
	問17(8)	あればよかったと思う就労支援
	問17(9)	転職希望の有無
	問17(10)	転職したい主な理由
	問18	仕事と子育ての両立で大変なこと
	問19	仕事と子育ての両立のために望まれる取り組み
問20	現在、働いていない理由(単回答)	
問21	今後の就業意向	
問22	習得したい資格、技能	



項目	問番号	設問
4 養育費	問 23	養育費についての約束の有無
	問 23-1	養育費について取り決めなかった理由
	問 23-2	養育費の受取状況
	問 23-3	養育費についての約束は守られているか
	問 23-4	養育費を受け取っていない理由
5 面会交流	問 24	面会交流についての約束の有無
	問 24-1	面会交流について取り決めなかった理由
	問 24-2	面会交流の実施状況
	問 24-3	面会交流の実施頻度
6 子育てについて	問 25	子育てをして良かったこと
	問 26	子育てに関する悩み／子どもに関する悩み
	問 27	今の生活の悩み／将来の不安
	問 28	子育てに関する悩みや不安の相談相手・機関
	問 29	毎月の住宅費
	問 30	経済的な理由による困窮経験
	問 31	経済的な困り感
	問 32	中央区が実施するひとり親向け事業の認知度
	問 33	子育てをするうえで足りていないと感じること
	問 34	子どもを保護者に代わってしてくれる親族・知人の有無
	問 35	子どもの預け先
	問 35-1	子どもを預けた理由
	問 35-2	預けた際の不満
	問 36	近所づきあいの程度
	問 37	居留意向
	問 38	子育てに関する情報の入手先
	問 39	子育てに関してほしい情報
	問 40	他のひとり親家庭との交流意向
問 41	必要と思う支援等	
問 42	区のひとり親家庭支援施策についての意見等(自由回答)	

## ※平成 30 年調査の調査概要

調査名	中央区ひとり親家庭実態調査
調査目的	本調査は、「第二期中央区子ども・子育て支援事業計画」策定にあたり、区内在住のひとり親家庭の生活実態を把握し、ひとり親家庭の自立支援の推進に関する施策の基礎資料とするため実施する。
調査対象	区内在住の児童育成手当受給資格者 727 人(悉皆調査。ただし、「子育て支援に関するニーズ調査」の対象者として抽出された者を除く)
調査方法	郵送配布－郵送回収(督促礼状1回送付)
調査時期	平成 30(2018)年 11 月 8 日(木)～11 月 22 日(木)
有効回収数 (有効回収率)	370 (50.9%)



## 第2章 調査結果

### <図表のみかた>

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN(Number of case)、それ以外の場合にはnと表記している。
- 2 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)がある。
- 3 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%にならないことがある。
- 4 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されている。
- 5 クロス集計表は、横に見て第1位の項目を濃い灰色着色・白抜き文字、第2位の項目を濃い灰色で着色、第3位の項目を薄い灰色で着色している(無回答は除く)。

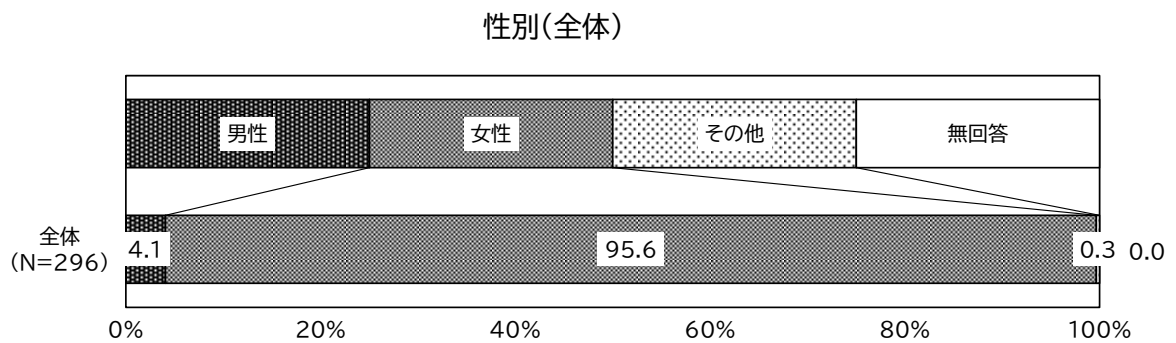


# I ひとり親家庭実態調査

## 1 回答者

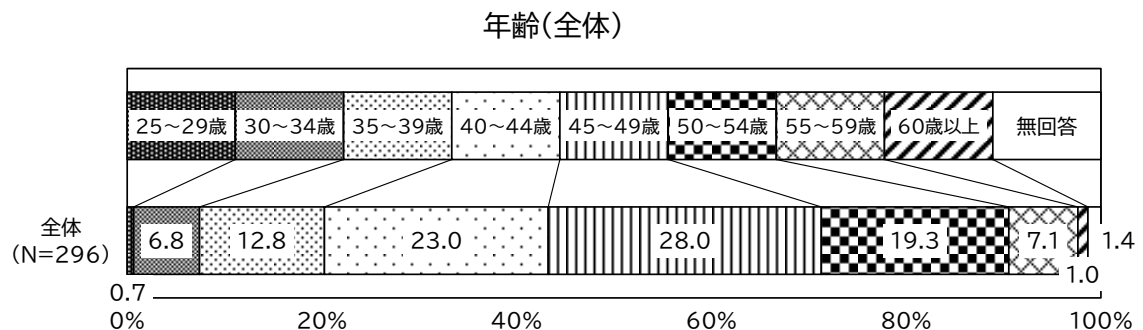
### (1)性別(問1)

性別は、「男性」が4.1%、「女性」が95.6%、「その他」が0.3%となっている。



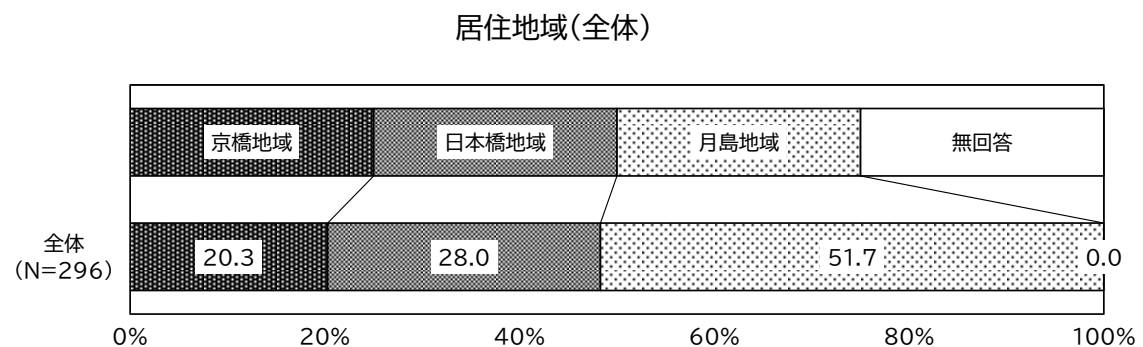
### (2)年齢(問2)

年齢は、「45～49 歳(28.0%)」が最も高く、「40～44 歳(23.0%)」、「50～54 歳(19.3%)」が続いている。平均年齢は45.1歳である。



### (3)居住地域(問3)

居住地域は、「月島地域(51.7%)」が最も高く、「日本橋地域(28.0%)」、「京橋地域(20.3%)」が続いている。

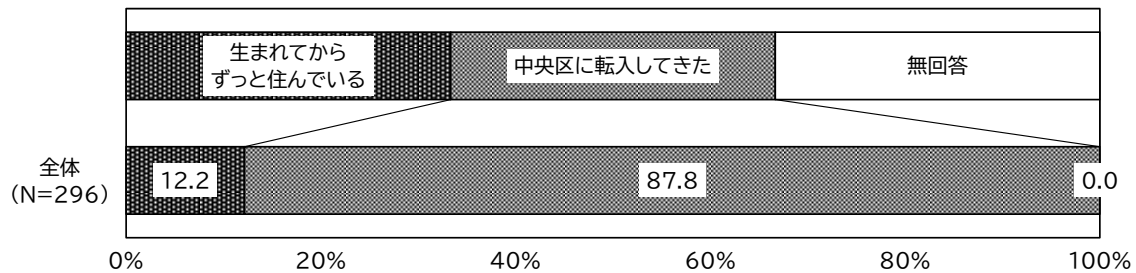


### (4) 居住歴・居住年数(問4)

居住歴・居住年数は、「中央区に転入してきた(87.8%)」が最も高く、「生まれてからずっと住んでいる(12.2%)」が続いている。

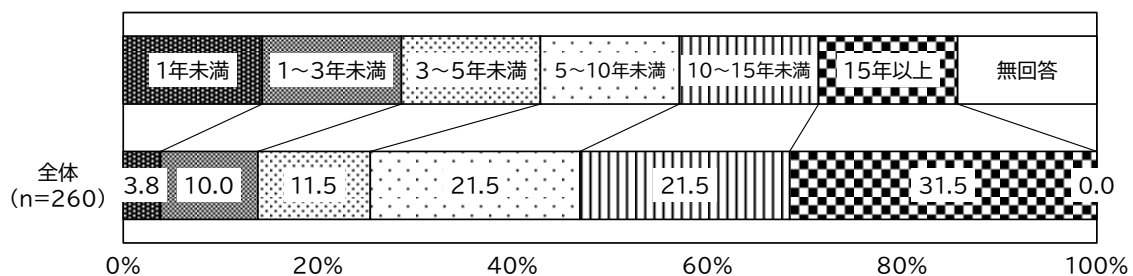
中央区に転入してきたと回答した人に、転入してからの居住歴・居住年数をたずねたところ、「15年以上(31.5%)」が最も高く、「5～10年未満(21.5%)」、「10～15年未満(21.5%)」が続いている。

居住歴・居住年数(全体)



転入してきたからの居住歴・居住年数(全体)

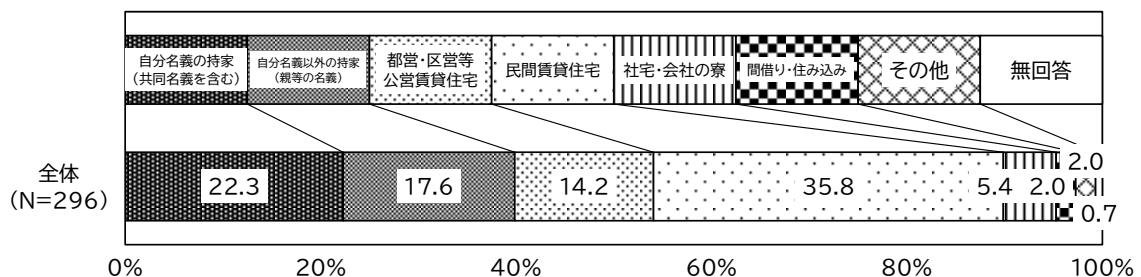
<転入してきた人>



### (5) 現在の住居形態(問5)

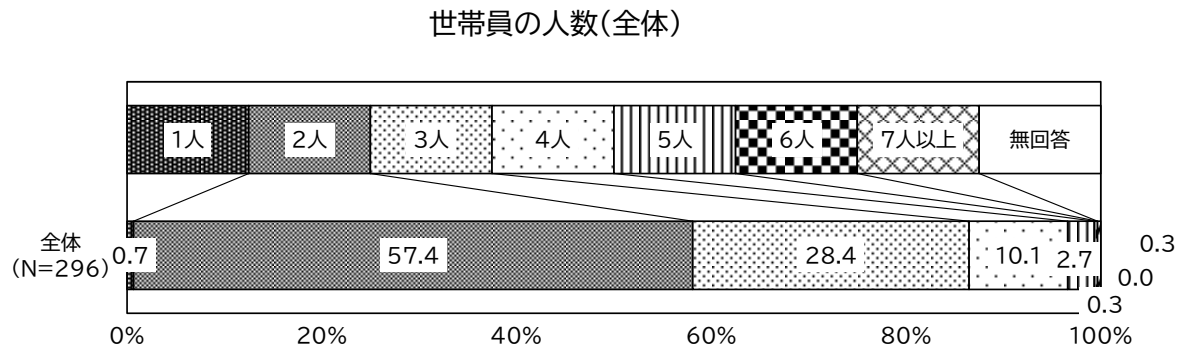
現在の住居形態は、「民間賃貸住宅(35.8%)」が最も高く、「自分名義の持家(共同名義を含む)(22.3%)」、「自分名義以外の持家(親等の名義)(17.6%)」が続いている。

現在の住居形態(全体)



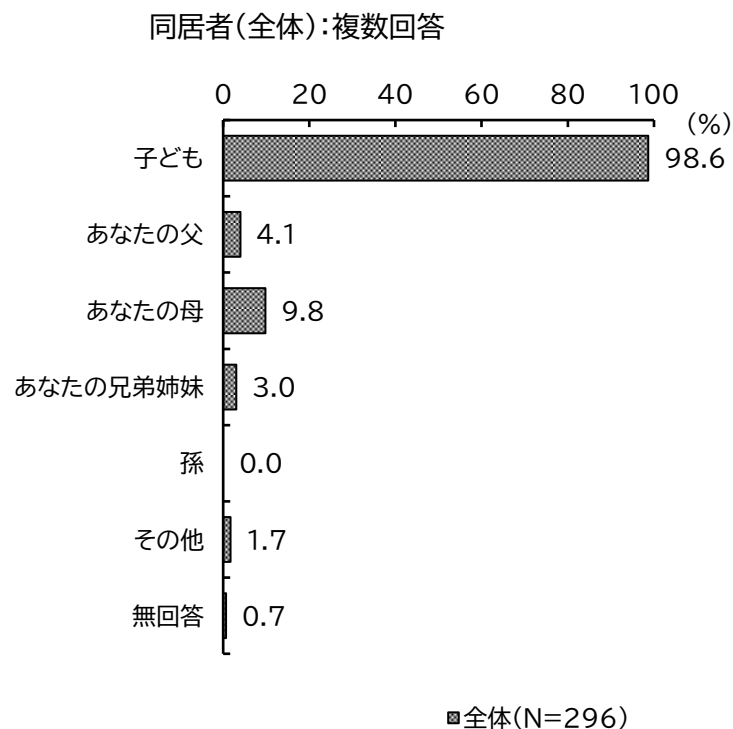
## (6)世帯員の人数(問6(1))

世帯員の人数は、「2人(57.4%)」が最も高く、「3人(28.4%)」、「4人(10.1%)」が続いている。平均は2.6人。



## (7)同居者(問6(2))

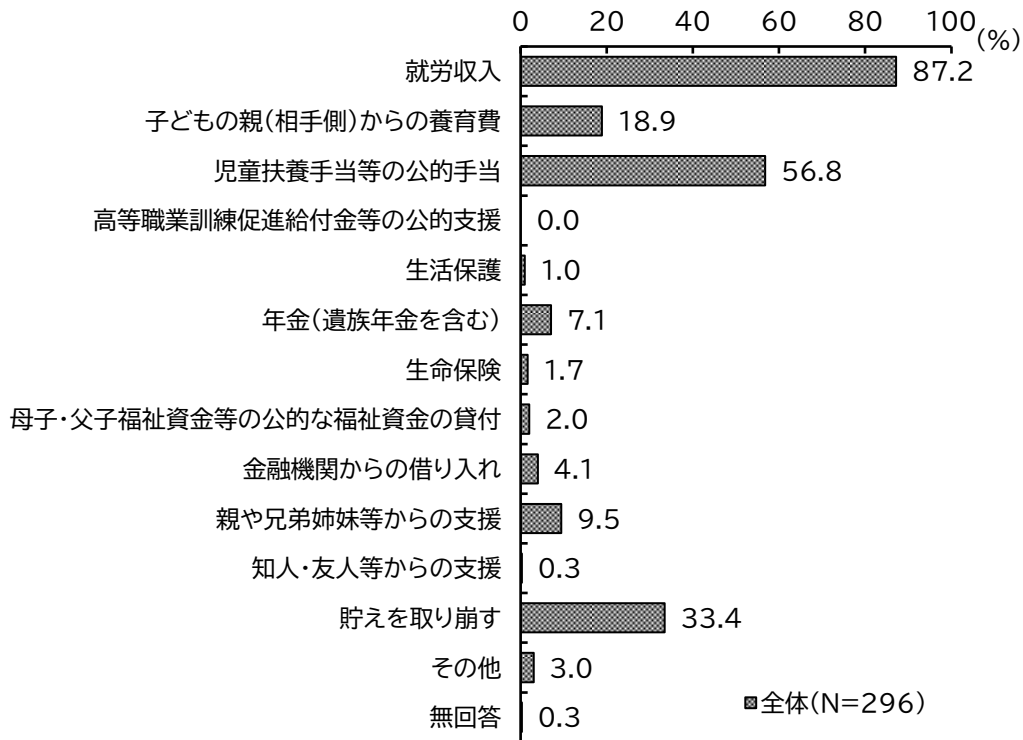
同居者は、「子ども(98.6%)」が最も高く、「あなたの母(9.8%)」、「あなたの父(4.1%)」が続いている。



### (8)現在、生計を立てている収入等(問7)

現在、生計を立てている収入等は、「就労収入(87.2%)」が最も高く、「児童扶養手当等の公的手当(56.8%)」、「貯えを取り崩す(33.4%)」が続いている。

現在、生計を立てている収入等(全体):複数回答



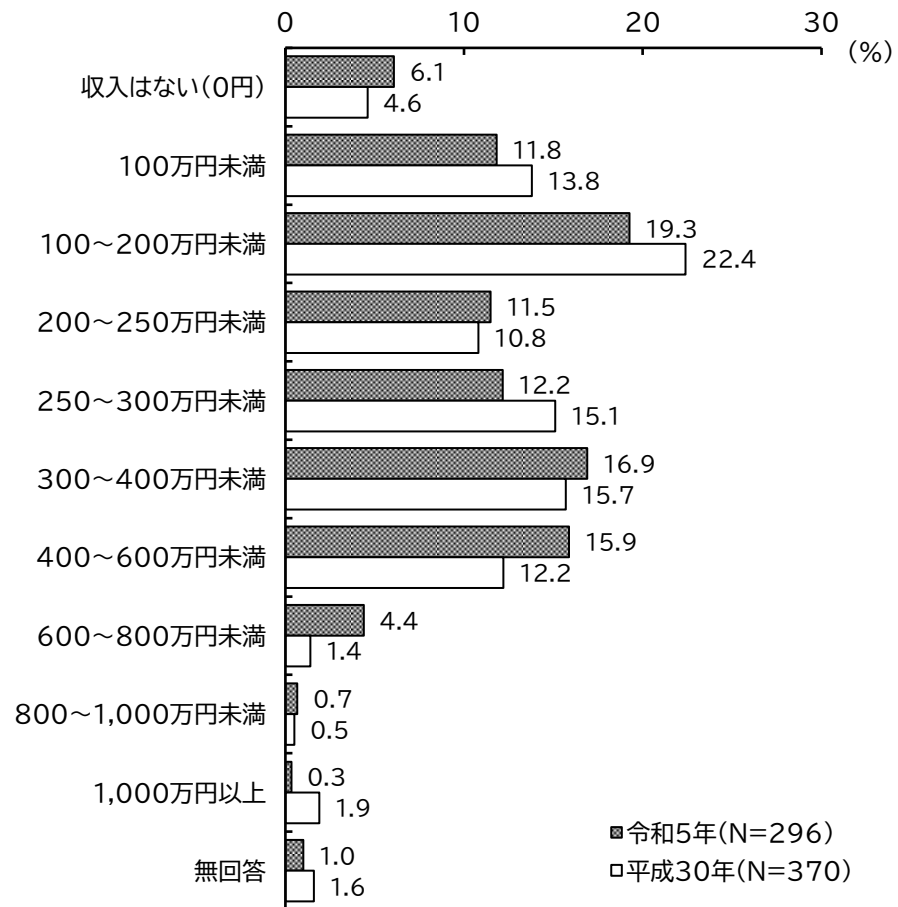


## (9)世帯の年間収入(税込み)(問8)

世帯の年間収入(税込み)は、「100～200万円未満(19.3%)」が最も高く、「300～400万円未満(16.9%)」、「400～600万円未満(15.9%)」が続いている。

平成30年調査では、「100～200万円未満(22.4%)」が最も高く、「300～400万円未満(15.7%)」、「250～300万円未満(15.1%)」が続いている。

世帯の年間収入(税込み)(全体)【経年比較】



※収入には、勤労収入(パート、アルバイトを含む)、事業収入(自営業等)、農業収入、不動産収入、利子・配当金、個人年金、仕送りや元配偶者等からの養育費を含む。

## 第2章 調査結果

性別で見ると、男性、女性ともに「100万円～200万円未満」が最も高くなっている。世帯収入が250万円未満は男性で50.0%、女性で48.5%となっている。

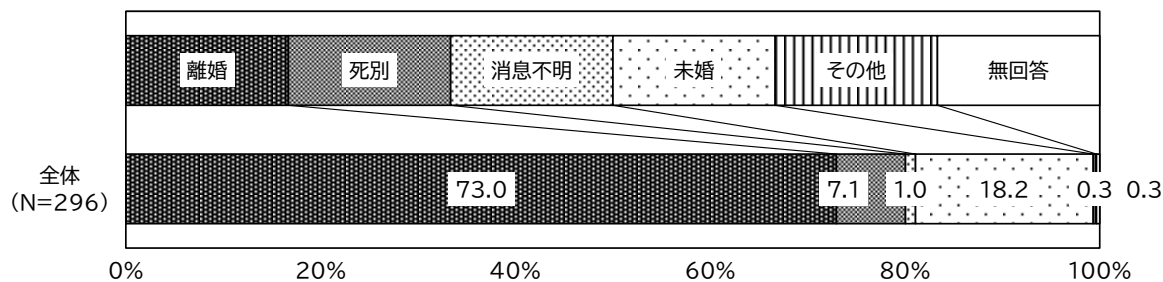
世帯の年間収入(税込み)(全体、性別)

		(%)										
		収入はない(0円)	100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～250万円未満	250万円～300万円未満	300万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
全	体 (N=296)	6.1	11.8	19.3	11.5	12.2	16.9	15.9	4.4	0.7	0.3	1.0
性	別											
	男 性 (n=12)	16.7	0.0	25.0	8.3	8.3	16.7	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0
	女 性 (n=283)	5.3	12.4	19.1	11.7	12.4	17.0	15.9	4.2	0.7	0.4	1.1

### (10)ひとり親になった事情(問9)

ひとり親になった事情は、「離婚(73.0%)」が最も高く、「未婚(18.2%)」、「死別(7.1%)」が続いている。

ひとり親になった事情(全体)



末子の年代別にみると、全ての層で「離婚」が最も高く、0歳～5歳では他の層と比べて「未婚(41.2%)」が高くなっている。

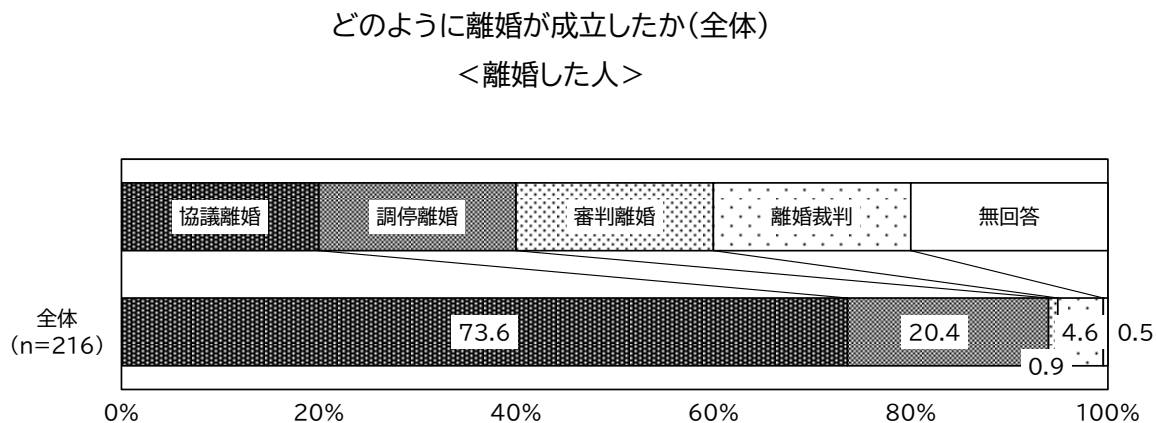
回答者の年代別にみると、20歳代では「未婚(100.0%)」、60歳代以上では「死別(66.7%)」が、最も高くなっており、他の層では「離婚」が最も高くなっている。

ひとり親になった事情(全体、末子の年代別、回答者の年代別)

		離婚	死別	消息不明	未婚	その他	無回答
全 体 (N=296)		73.0	7.1	1.0	18.2	0.3	0.3
末子の年代別	0 歳 ~ 5 歳 (n= 34)	55.9	0.0	2.9	41.2	0.0	0.0
	6 歳 ~ 11 歳 (n= 95)	73.7	5.3	2.1	18.9	0.0	0.0
	12 歳 ~ 14 歳 (n= 61)	78.7	6.6	0.0	14.8	0.0	0.0
	15 歳 ~ 18 歳 (n= 87)	73.6	10.3	0.0	13.8	1.1	1.1
回答者の年代別	20 歳 代 (n= 2)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	30 歳 代 (n= 58)	72.4	1.7	3.4	22.4	0.0	0.0
	40 歳 代 (n=151)	76.2	7.3	0.7	15.9	0.0	0.0
	50 歳 代 (n= 78)	69.2	9.0	0.0	19.2	1.3	1.3
	60 歳 代 以 上 (n= 3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0

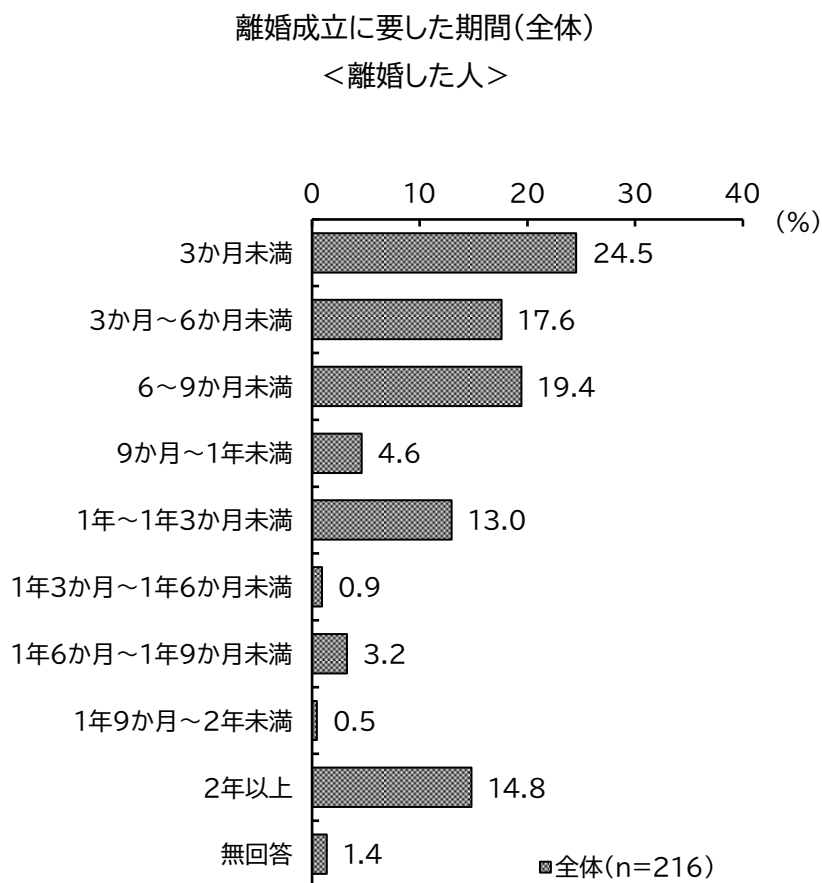
### (11)どのように離婚が成立したか(問9-1)

ひとり親になった事情が離婚と回答した人に、どのように離婚が成立したかたずねたところ、「協議離婚(73.6%)」が最も高く、「調停離婚(20.4%)」、「離婚裁判(4.6%)」が続いている。



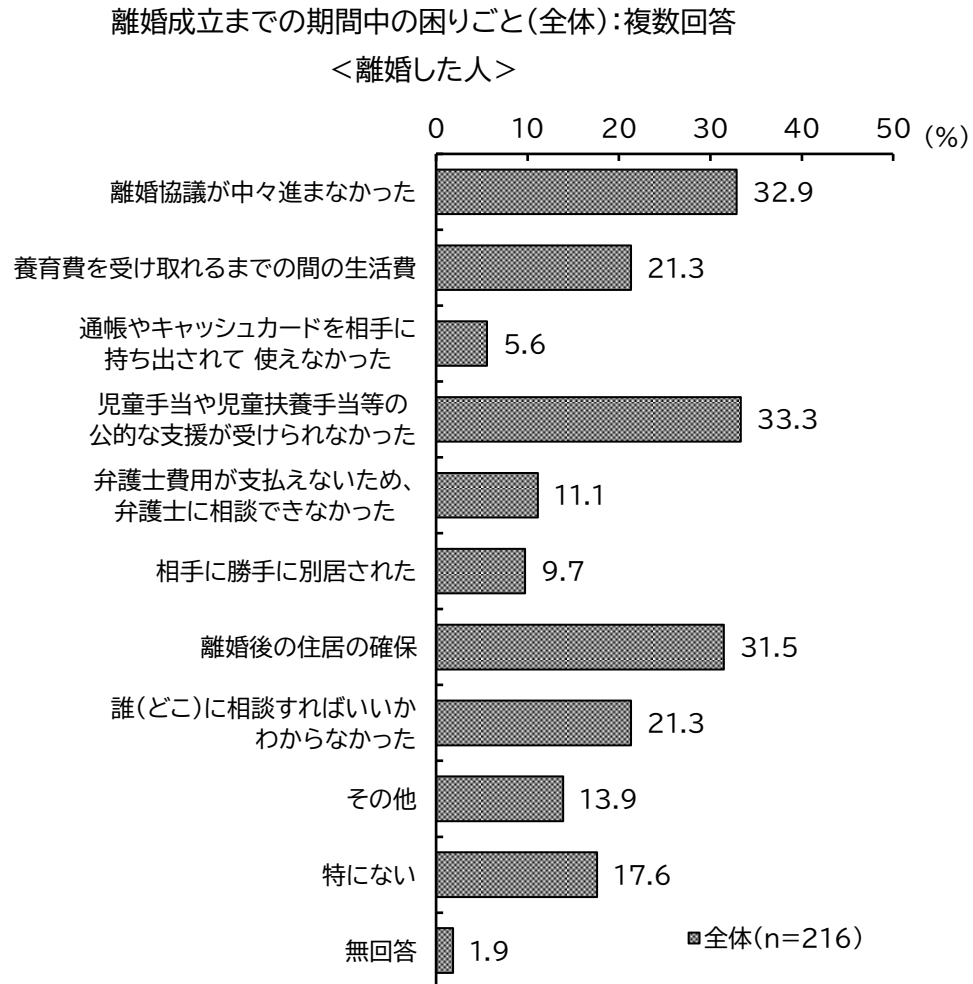
### (12)離婚成立に要した期間(問9-2)

ひとり親になった事情が離婚と回答した人に、離婚成立に要した期間をたずねたところ、「3か月未満(24.5%)」が最も高く、「6～9か月未満(19.4%)」、「3か月～6か月未満(17.6%)」が続いている。平均期間は、10.9か月である。



## (13)離婚成立までの期間中の困りごと(問9-3)

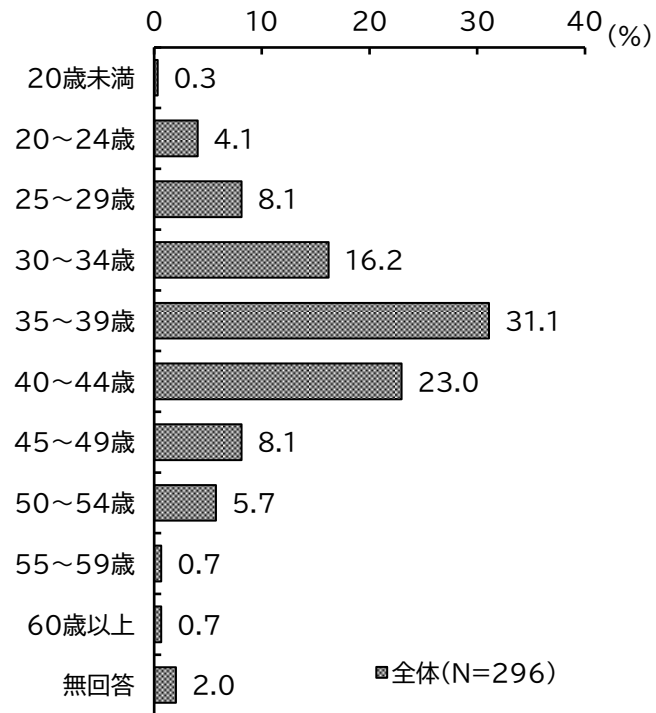
ひとり親になった事情が離婚と回答した人に、離婚成立までの期間中の困りごとをたずねたところ、「児童手当や児童扶養手当等の公的な支援が受けられなかった(33.3%)」が最も高く、「離婚協議が中々進まなかった(32.9%)」、「離婚後の住居の確保(31.5%)」が続いている。



### (14)ひとり親になった年齢(問 10)

ひとり親になった年齢は、「35～39 歳(31.1%)」が最も高く、「40～44 歳(23.0%)」、「30～34 歳(16.2%)」が続いている。平均年齢は 37.9 歳である。

ひとり親になった年齢(全体)



## 2 お子さんのこと

### (1)子どもの状況(問 11)

第1子から第5子を合計した子ども全体(451人)の状況については、平均年齢は 12.7 歳であり、性別は「男」が 50.1%、「女」が 47.9%となっている。

通学・就職状況は、「小学校(31.5%)」が最も高く、「高等学校(22.2%)」、「中学校(17.3%)」が続いている。

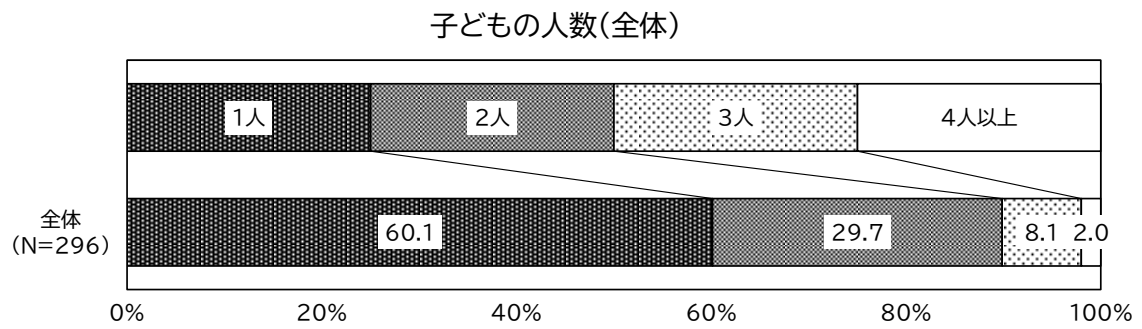
同別居については、「同居」が 66.1%、「別居」が 4.4%となっている。

子どもの年齢、性別、通学・就職状況、同別居(全体)

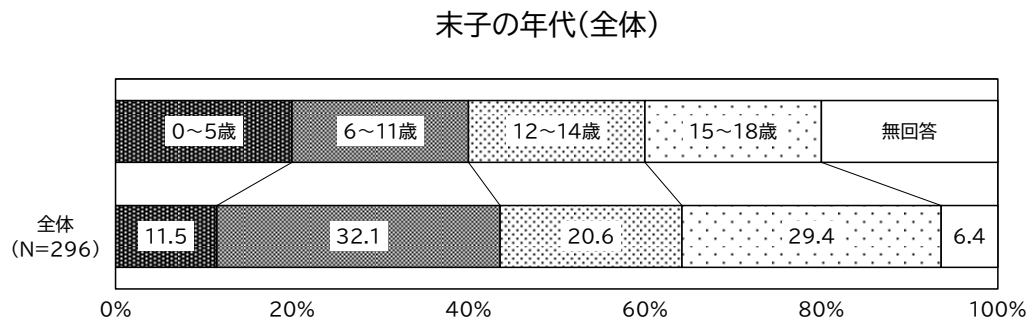
		子ども全体	第1子	第2子	第3子	第4子・第5子
人数		451人	296人	118人	30人	7人
平均年齢		12.7歳	13.1歳	12.3歳	11.0歳	8.4歳
性別	男	50.1%	52.7%	49.2%	33.3%	28.6%
	女	47.9%	45.9%	47.5%	60.0%	71.4%
	無回答	2.2%	1.4%	3.4%	6.7%	0.0%
通学・ 就職 状況	保育所	11.8%	12.5%	9.3%	10.0%	14.3%
	幼稚園	1.8%	1.4%	2.5%	3.3%	0.0%
	小学校	31.5%	29.1%	33.9%	46.7%	28.6%
	中学校	17.3%	16.2%	21.2%	6.7%	42.9%
	高等学校	22.2%	23.0%	20.3%	26.7%	0.0%
	専門学校	1.3%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高等専門学校・短期大学	0.4%	0.3%	0.8%	0.0%	0.0%
	大学	4.7%	6.1%	2.5%	0.0%	0.0%
	大学院	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	常勤の就職	3.3%	3.7%	3.4%	0.0%	0.0%
	パート・アルバイト	1.3%	1.7%	0.8%	0.0%	0.0%
	その他	1.1%	1.4%	0.8%	0.0%	0.0%
	無回答	3.5%	2.7%	4.2%	6.7%	14.3%
同別居	同居	66.1%	66.6%	65.3%	60.0%	71.4%
	別居	4.4%	4.4%	4.2%	3.3%	14.3%
	無回答	29.7%	29.1%	30.5%	36.7%	14.3%

## 第2章 調査結果

家庭ごとの子どもの人数は、1人が60.1%、2人が29.7%、3人が8.1%となっている。



末子の年代は、「6～11歳(32.1%)」が最も高く、「15～18歳(29.4%)」、「12～14歳(20.6%)」が続いている。





## (2)子どもの進学(希望・現実)(問 12)

子どもの進学について、「大学卒業」は希望では76.0%だが、現実の見通しでは30.7%となっている。「わからない」は希望では4.4%だが、現実の見通しでは29.1%となっている。

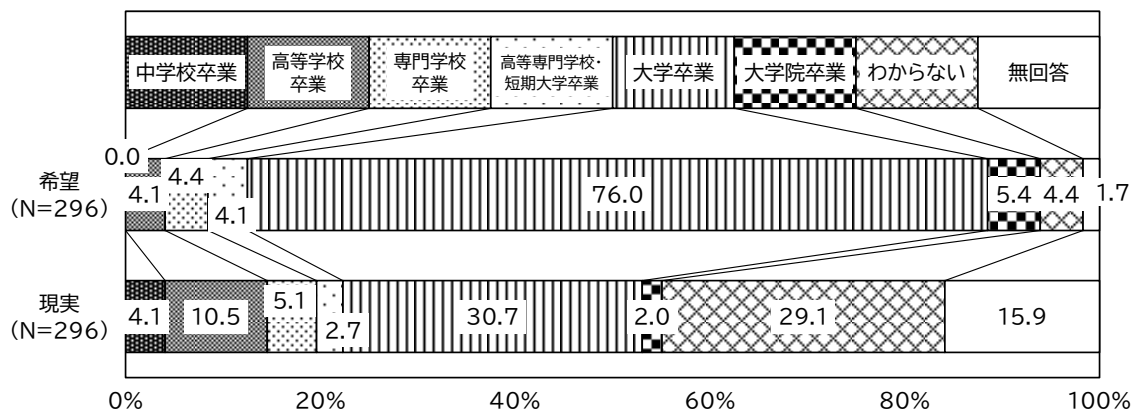
子どもの進学についての希望は、「大学卒業(76.0%)」が最も高く、「大学院卒業(5.4%)」、「専門学校卒業(4.4%)」、「わからない(4.4%)」が続いている。

平成30年調査では、「大学卒業(77.6%)」が最も高く、「高等学校卒業(4.6%)」と「大学院卒業(4.6%)」が同率で続いている。

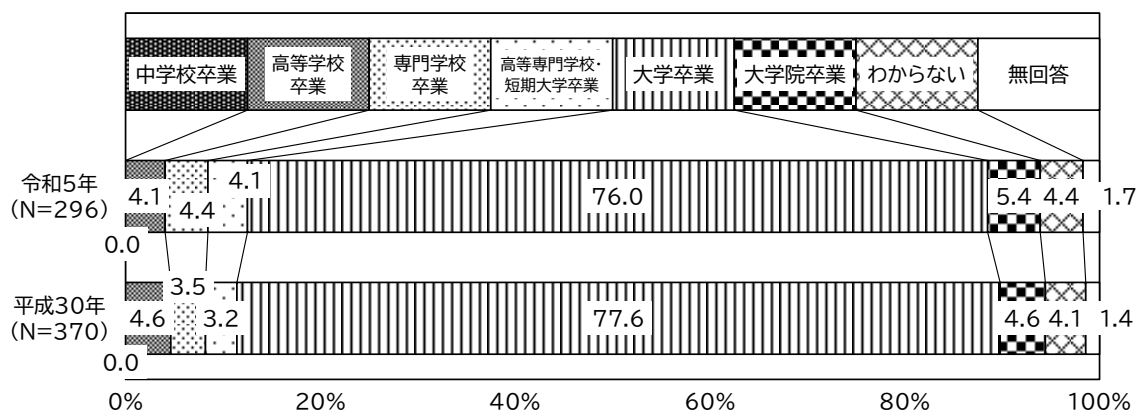
子どもの進学の現実の見通しは、「大学卒業(30.7%)」が最も高く、「わからない(29.1%)」、「高等学校卒業(10.5%)」が続いている。

平成30年調査でも同様に、「大学卒業(27.6%)」が最も高く、「わからない(25.7%)」、「高等学校卒業(15.7%)」が続いている。

子どもの進学について、希望・現実の見通し(全体)

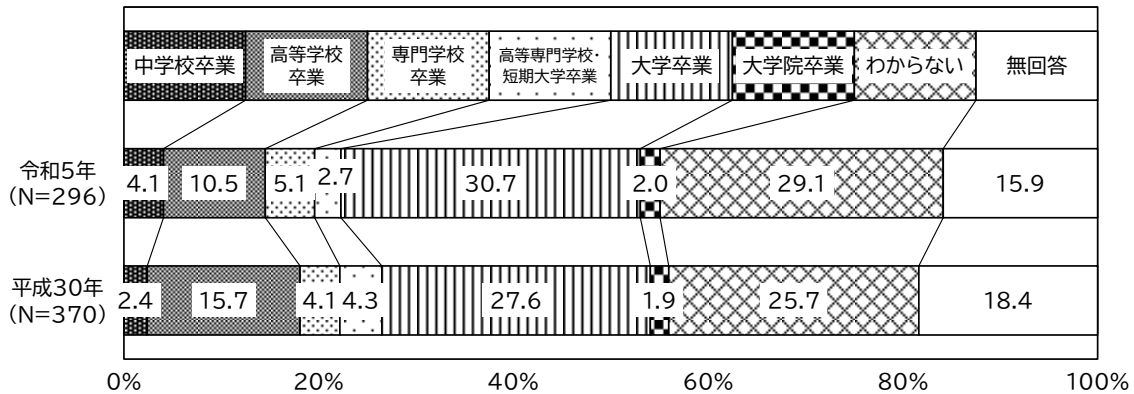


子どもの進学についての希望(全体)【経年比較】



## 第2章 調査結果

### 子どもの進学の実見の見通し(全体)【経年比較】



世帯年収別にみると、進学の希望は 800 万円未満の各層では「大学卒業」が最も高くなっている。しかし、現実の見通しについては、100～200 万円未満と 300～800 万円未満の各層では「大学卒業」が最も高いのに対し、100～200 万円未満を除いた 300 万円未満の各層では「わからない」が最も高くなっている。

### 子どもの進学について、回答者の希望(全体、世帯年収別)

		中学校卒業	高等学校卒業	専門学校卒業	高等専門学校・短期大学卒業	大学卒業	大学院卒業	わからない	無回答
全	体 (N=296)	0.0	4.1	4.4	4.1	76.0	5.4	4.4	1.7
世帯年収別	収入はない(0円) (n=18)	0.0	11.1	5.6	5.6	50.0	5.6	22.2	0.0
	100万円未満 (n=35)	0.0	5.7	5.7	0.0	80.0	5.7	2.9	0.0
	100～200万円未満 (n=57)	0.0	1.8	7.0	3.5	75.4	5.3	3.5	3.5
	200～250万円未満 (n=34)	0.0	5.9	5.9	8.8	76.5	2.9	0.0	0.0
	250～300万円未満 (n=36)	0.0	2.8	2.8	5.6	77.8	5.6	2.8	2.8
	300～400万円未満 (n=50)	0.0	2.0	4.0	4.0	84.0	4.0	0.0	2.0
	400～600万円未満 (n=47)	0.0	4.3	2.1	0.0	78.7	6.4	6.4	2.1
	600～800万円未満 (n=13)	0.0	7.7	0.0	7.7	61.5	15.4	7.7	0.0
	800～1,000万円未満 (n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
1,000万円以上 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

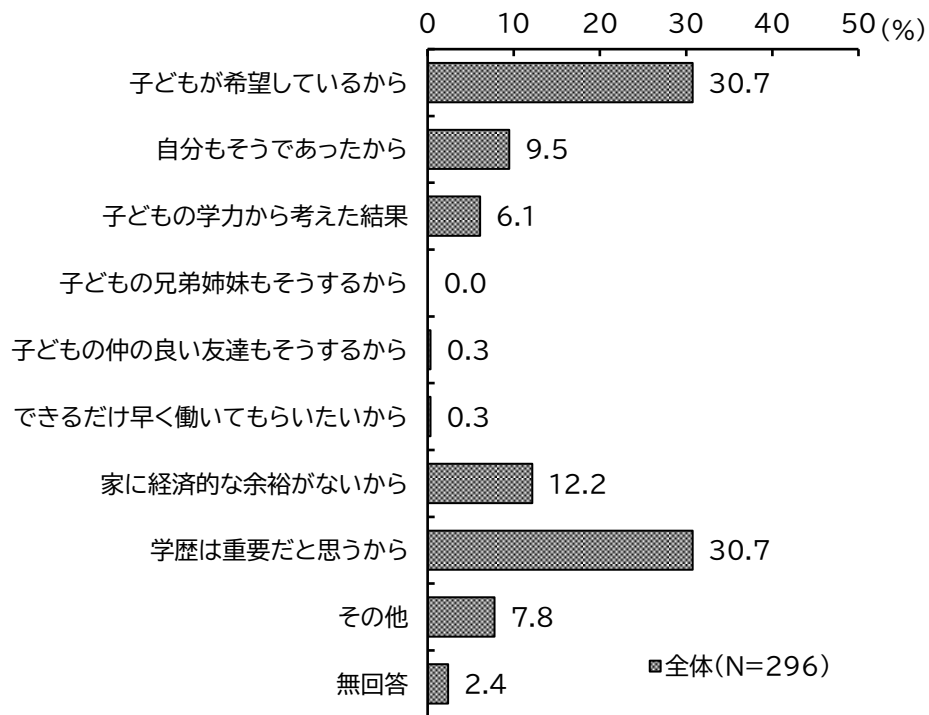
### 子どもの進学の実見の見通し(全体、世帯年収別)

		中学校卒業	高等学校卒業	専門学校卒業	高等専門学校・短期大学卒業	大学卒業	大学院卒業	わからない	無回答
全	体 (N=296)	4.1	10.5	5.1	2.7	30.7	2.0	29.1	15.9
世帯年収別	収入はない(0円) (n=18)	11.1	0.0	5.6	0.0	27.8	0.0	38.9	16.7
	100万円未満 (n=35)	0.0	17.1	2.9	5.7	20.0	0.0	31.4	22.9
	100～200万円未満 (n=57)	8.8	14.0	7.0	1.8	28.1	0.0	24.6	15.8
	200～250万円未満 (n=34)	5.9	8.8	11.8	2.9	20.6	0.0	44.1	5.9
	250～300万円未満 (n=36)	0.0	19.4	8.3	2.8	19.4	5.6	33.3	11.1
	300～400万円未満 (n=50)	2.0	10.0	0.0	4.0	40.0	2.0	26.0	16.0
	400～600万円未満 (n=47)	4.3	2.1	4.3	0.0	42.6	4.3	27.7	14.9
	600～800万円未満 (n=13)	0.0	7.7	0.0	0.0	46.2	7.7	7.7	30.8
	800～1,000万円未満 (n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
1,000万円以上 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

### (3)子どもの進学見通しの最大の理由(問 12-1)

子どもの進学の実見の見通しの最大の理由は、「子どもが希望しているから(30.7%)」と「学歴は重要だと思うから(30.7%)」が同率で最も高く、「家に経済的な余裕がないから(12.2%)」が続いている。

子どもの進学見通しの最大の理由(全体)



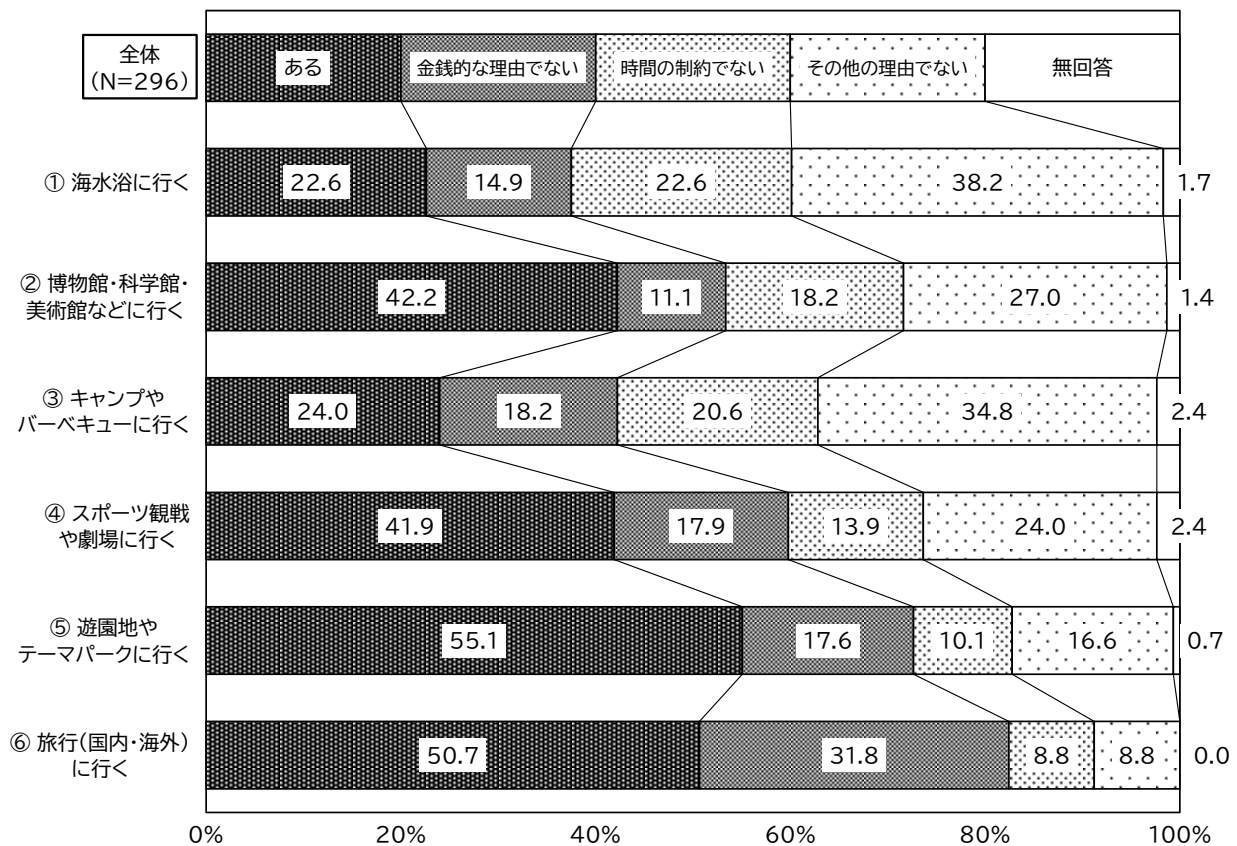
### (4)子どもの多様な経験の状況(問 13)

子どもの多様な経験の状況は、「ある」が『⑤遊園地やテーマパークに行く(55.1%)』で最も高く、『⑥旅行(国内・海外)に行く(50.7%)』、『②博物館・科学館・美術館などに行く(42.2%)』と続いている。

「金銭的な理由でない」の割合は、『⑥旅行(国内・海外)に行く(31.8%)』が最も高くなっている。

「時間の制約でない」の割合は、『①海水浴に行く(22.6%)』、『③キャンプやバーベキューに行く(20.6%)』で高くなっている。

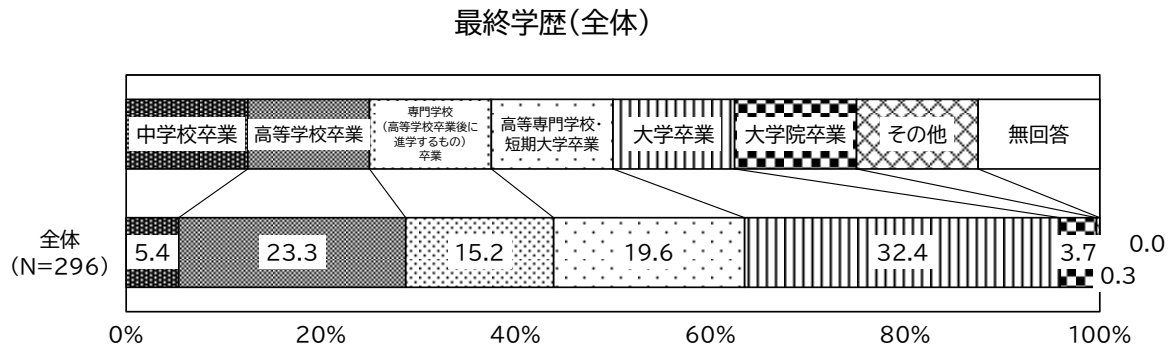
子どもの多様な経験の状況(全体)



### 3 お仕事に関すること

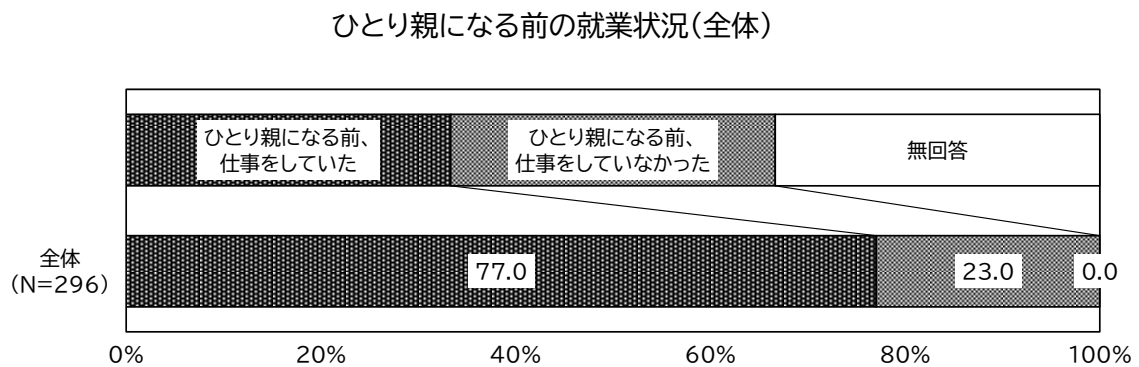
#### (1)最終学歴(問 14)

最終学歴は、「大学卒業(32.4%)」が最も高く、「高等学校卒業(23.3%)」、「高等専門学校・短期大学卒業(19.6%)」が続いている。



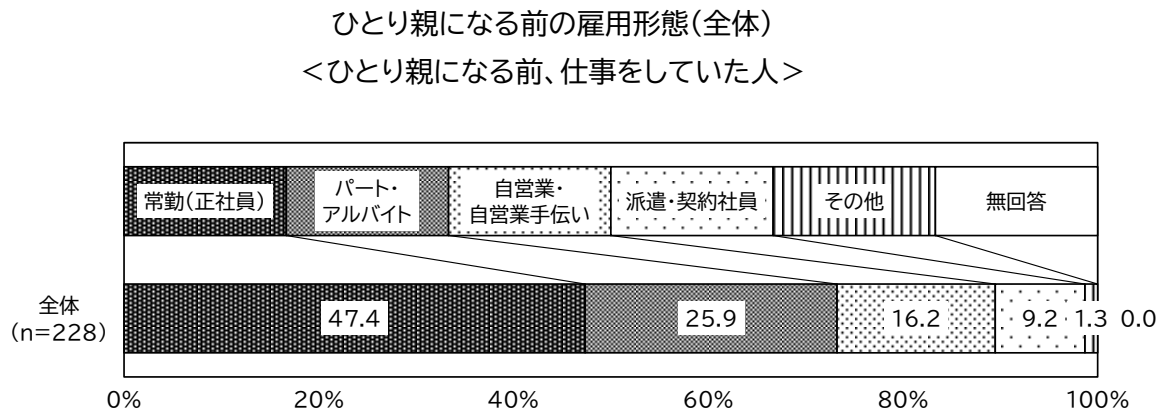
#### (2)ひとり親になる前の就業状況(問 15)

ひとり親になる前の就業状況は、「ひとり親になる前、仕事をしていた」が 77.0%、「ひとり親になる前、仕事をしていなかった」が 23.0%となっている。



### (3)ひとり親になる前の雇用形態(問 15-1)

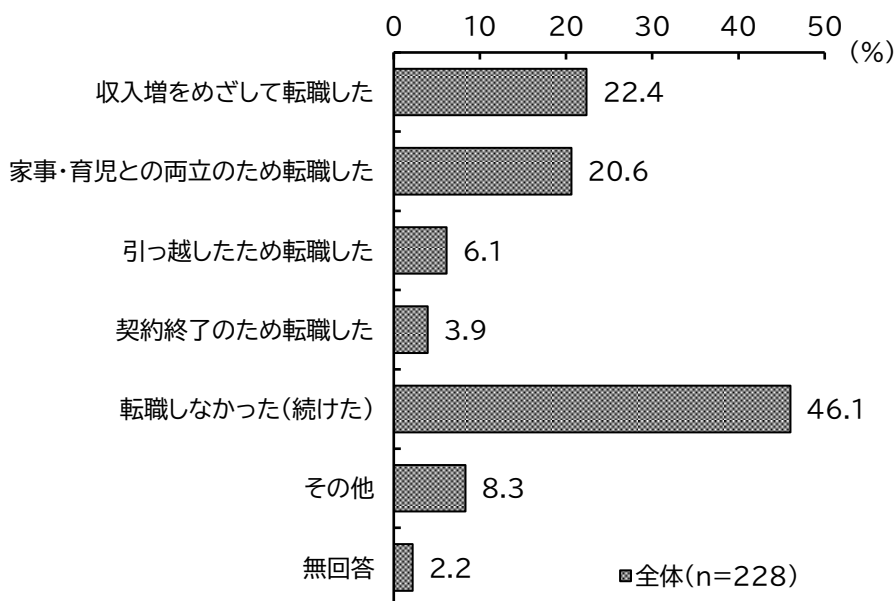
ひとり親になる前、仕事をしていたと回答した人に、ひとり親になる前の雇用形態をたずねたところ、「常勤(正社員)(47.4%)」が最も高く、「パート・アルバイト(25.9%)」、「自営業・自営業手伝い(16.2%)」が続いている。



### (4)ひとり親になったことによる転職状況(問 15-2)

ひとり親になる前、仕事をしていたと回答した人に、ひとり親になったことによる転職状況をたずねたところ、「転職しなかった(続けた)(46.1%)」が最も高く、「収入増をめざして転職した(22.4%)」、「家事・育児との両立のため転職した(20.6%)」が続いている。

ひとり親になったことによる転職状況(全体):複数回答  
 <ひとり親になる前、仕事をしていた人>

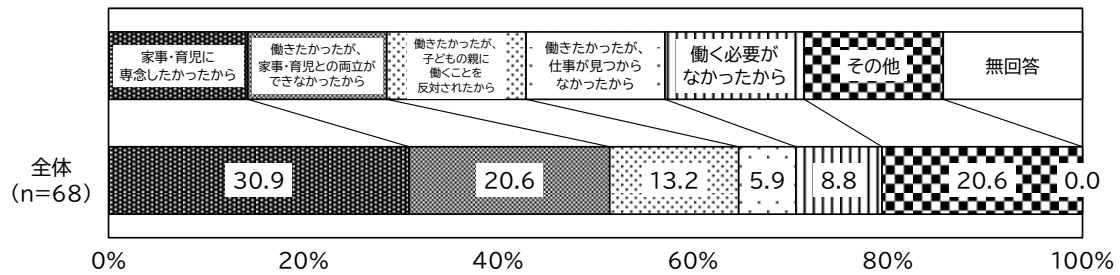


## (5)ひとり親になる前に仕事をしていなかった理由(問 15-3)

ひとり親になる前、仕事をしていなかったと回答した人に、ひとり親になる前に仕事をしていなかった理由をたずねたところ、「家事・育児に専念したかったから(30.9%)」が最も高く、「働きたかったが、家事・育児との両立ができなかったから(20.6%)」、「その他(20.6%)」が続いている。

ひとり親になる前に仕事をしていなかった理由(全体)

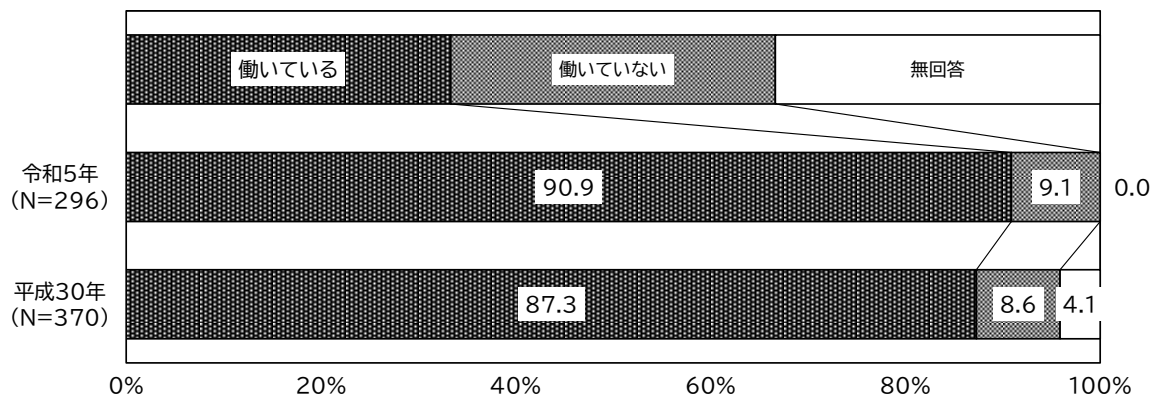
&lt;ひとり親になる前、仕事をしていなかった人&gt;



## (6)現在の就労状況(問 16)

現在の就労状況は、「働いている」が 90.9%、「働いていない」が 9.1%となっている。平成30年調査では「働いている」が 87.3%、「働いていない」が 8.6%となっている。

現在の就労状況(全体)【経年比較】



## 第2章 調査結果

性別で見ると、男女ともに「働いている」が9割を超えている。

末子の年代別にみると6歳～11歳で、「働いていない(17.9%)」が高くなっている。

現在の就労状況(全体、性別、末子の年代別)

		(%)		
		働いている	働いていない	無回答
全	体 (N=296)	90.9	9.1	0.0
性別	男 性 (n= 12)	100.0	0.0	0.0
	女 性 (n=283)	90.5	9.5	0.0
末子の年代別	0 歳 ~ 5 歳 (n= 34)	88.2	11.8	0.0
	6 歳 ~ 11 歳 (n= 95)	82.1	17.9	0.0
	12 歳 ~ 14 歳 (n= 61)	96.7	3.3	0.0
	15 歳 ~ 18 歳 (n= 87)	96.6	3.4	0.0

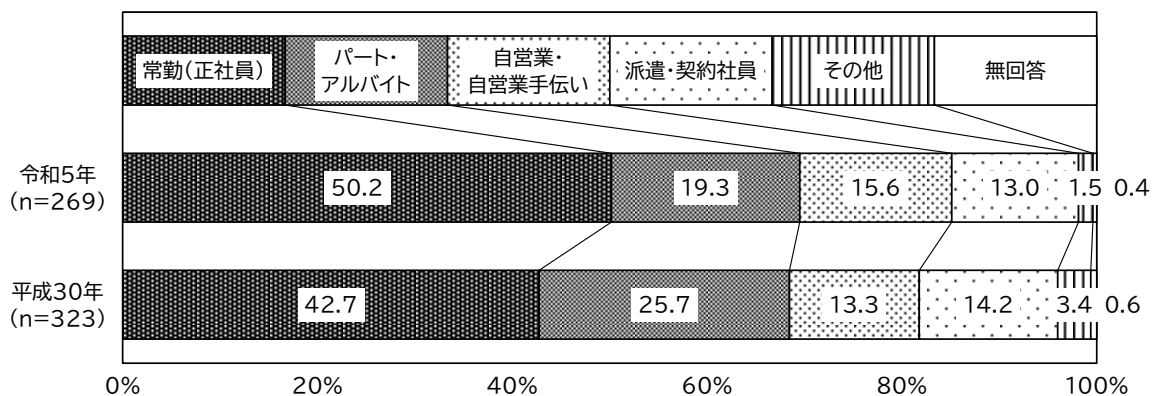
### (7)現在の雇用形態(問 17(1))

働いていると回答した人に、現在の雇用形態をたずねたところ、「常勤(正社員)(50.2%)」が最も高く、「パート・アルバイト(19.3%)」、「自営業・自営業手伝い(15.6%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、「常勤(正社員)(42.7%→50.2%)」が7.5ポイント高くなり、「パート・アルバイト(25.7%→19.3%)」が6.4ポイント低くなっている。

現在の雇用形態(全体)

<働いている人>





性別でみると、男女ともに「常勤(正社員)」が5割を超えている。女性は男性と比べて「派遣・契約社員(13.3%)」が高くなっている。男性は女性と比べて「自営業・自営業手伝い(25.0%)」が高くなっている。

末子の年代別にみると、全ての層で「常勤(正社員)」が最も高いが、末子の年代が高くなると、「常勤(正社員)」が低くなる傾向にある。

現在の雇用形態(全体、性別、末子の年代別)

<働いている人>

(%)

		常勤(正社員)	パート・アルバイト	自営業・自営業手伝い	派遣・契約社員	その他	無回答
全体 (n=269)		50.2	19.3	15.6	13.0	1.5	0.4
性別	男性 (n=12)	58.3	16.7	25.0	0.0	0.0	0.0
	女性 (n=256)	50.0	19.5	15.2	13.3	1.6	0.4
末子の年代別	0歳～5歳 (n=30)	73.3	13.3	10.0	0.0	3.3	0.0
	6歳～11歳 (n=78)	47.4	21.8	16.7	12.8	1.3	0.0
	12歳～14歳 (n=59)	54.2	13.6	13.6	15.3	3.4	0.0
	15歳～18歳 (n=84)	39.3	23.8	17.9	17.9	0.0	1.2

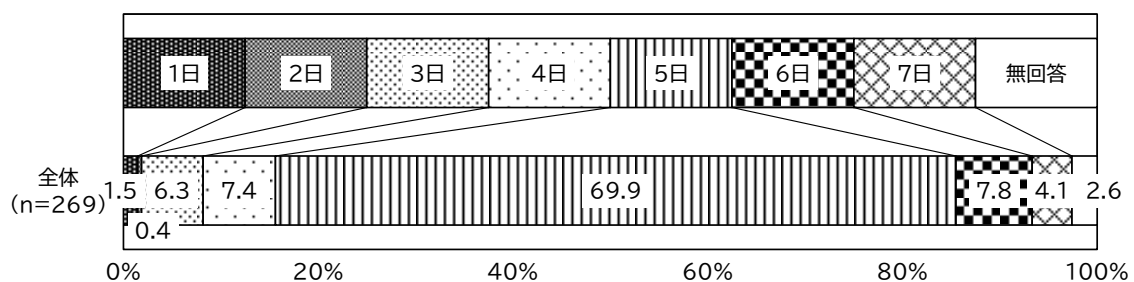
(8) 週当たりの就労日数／平日の出勤・帰宅時間／22時以降の深夜勤務の有無／土曜日勤務の有無／日曜・祝日勤務の有無／副業の有無(問17(2))

◆週当たりの就労日数

働いていると回答した人に、週当たりの就労日数をたずねたところ、「5日(69.9%)」が最も高く、「6日(7.8%)」、「4日(7.4%)」が続いている。平均は4.9日となっている。

週当たりの就労日数(全体)

<働いている人>

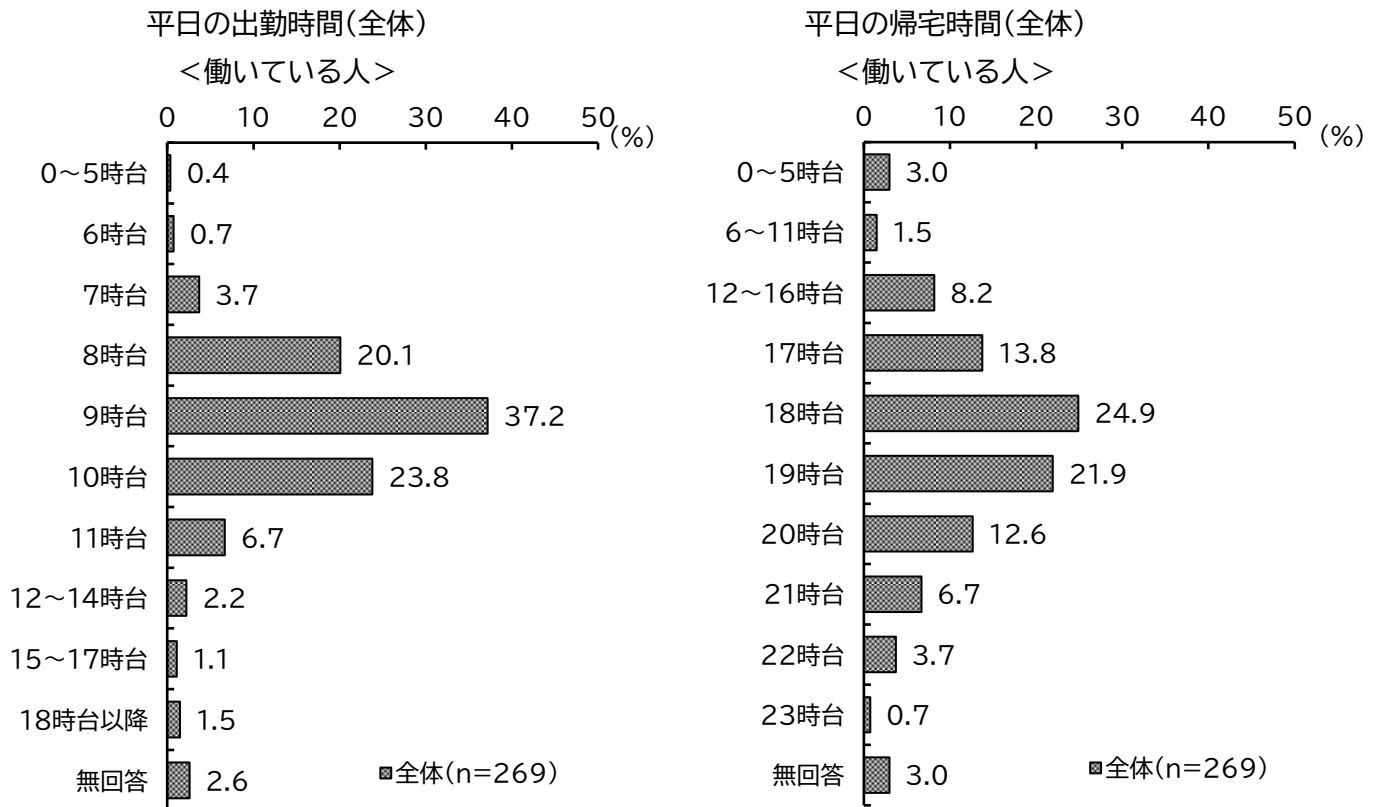


## 第2章 調査結果

### ◆平日の出勤・帰宅時間

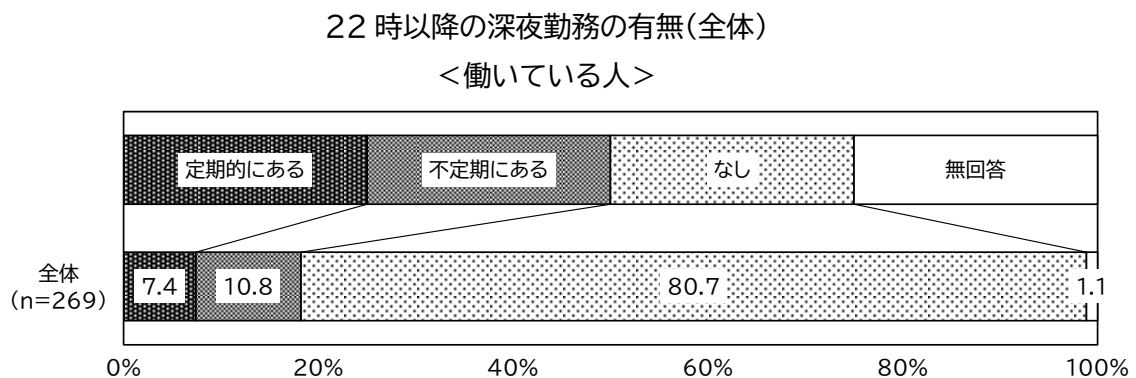
働いていると回答した人に、平日の出勤時間をたずねたところ、「9時台(37.2%)」が最も高く、「10時台(23.8%)」、「8時台(20.1%)」が続いている。

働いていると回答した人に、平日の帰宅時間をたずねたところ、「18時台(24.9%)」が最も高く、「19時台(21.9%)」、「17時台(13.8%)」が続いている。



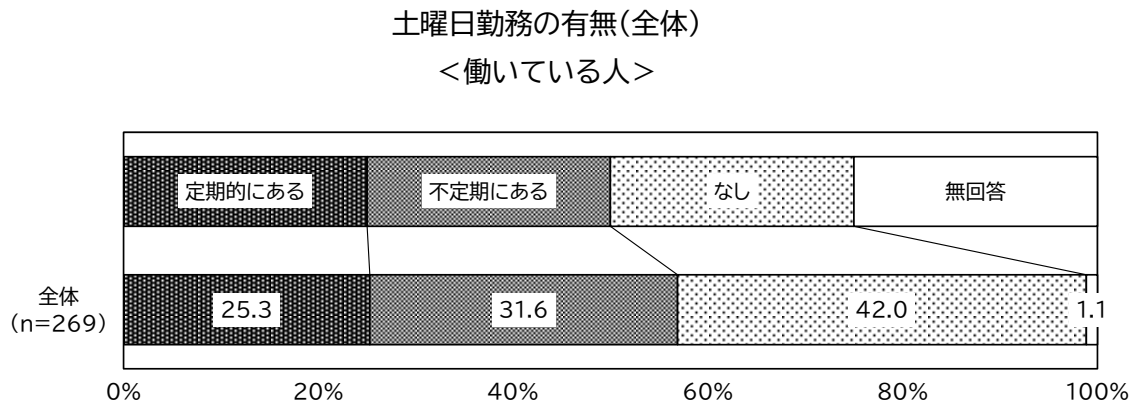
### ◆22時以降の深夜勤務の有無

働いていると回答した人に、22時以降の深夜勤務の有無をたずねたところ、「定期的にある」が7.4%、「不定期にある」が10.8%、「なし」が80.7%となっている。



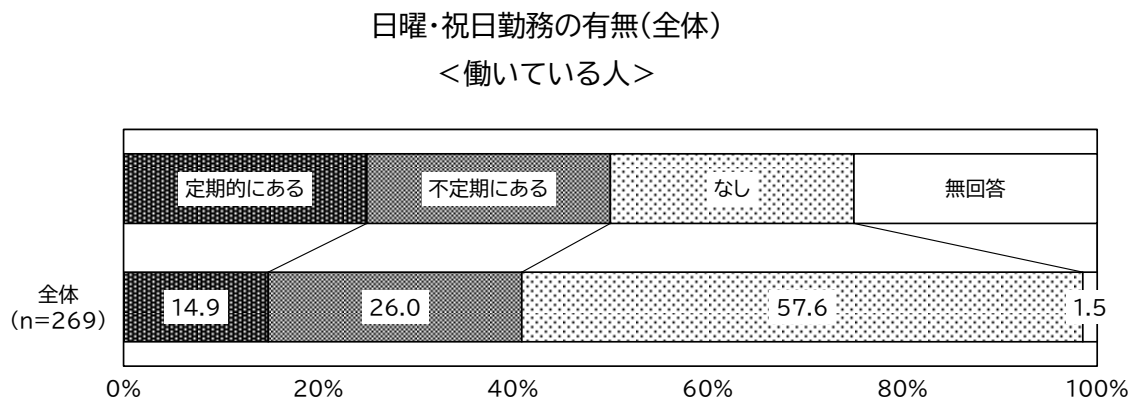
## ◆土曜日勤務の有無

働いていると回答した人に、土曜日勤務の有無をたずねたところ、「定期的にある」が 25.3%、「不定期にある」が 31.6%、「なし」が 42.0%となっている。



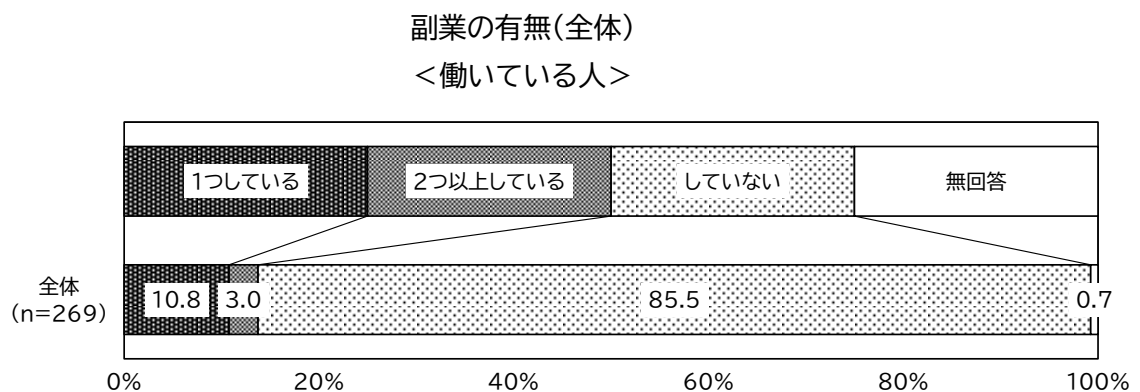
## ◆日曜・祝日勤務の有無

働いていると回答した人に、日曜・祝日勤務の有無をたずねたところ、「定期的にある」が 14.9%、「不定期にある」が 26.0%、「なし」が 57.6%となっている。



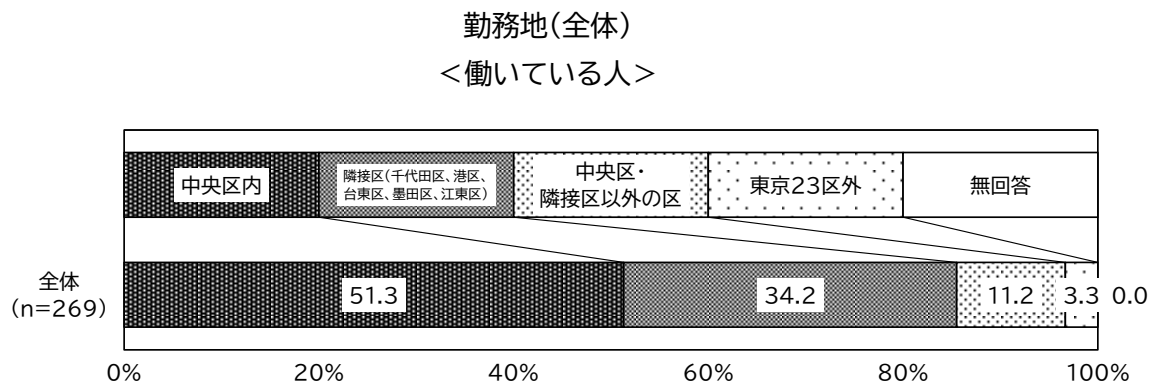
## ◆副業の有無

働いていると回答した人に、副業の有無をたずねたところ、「《している》(「1つしている」と「2つ以上している」の合計)が 13.8%、「していない」は 85.5%となっている。



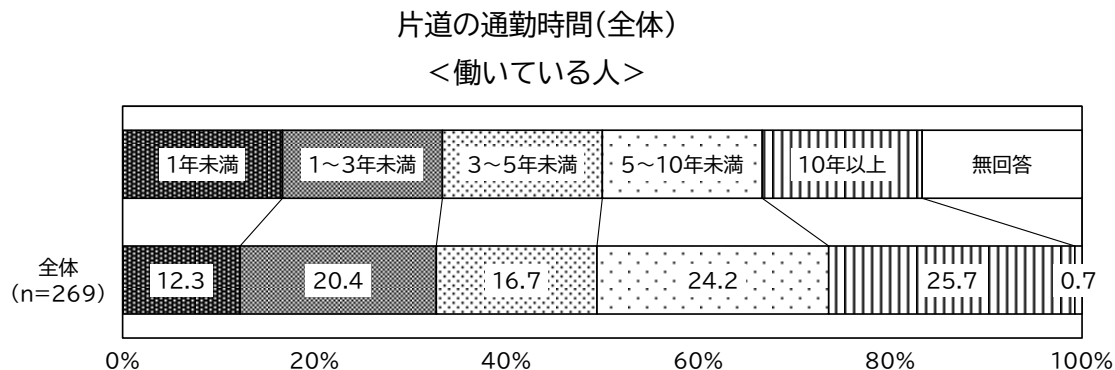
### (9)勤務地(問 17(3))

働いていると回答した人に、勤務地をたずねたところ、「中央区内(51.3%)」が最も高く、「隣接区(千代田区、港区、台東区、墨田区、江東区)(34.2%)」、「中央区・隣接区以外の区(11.2%)」が続いている。



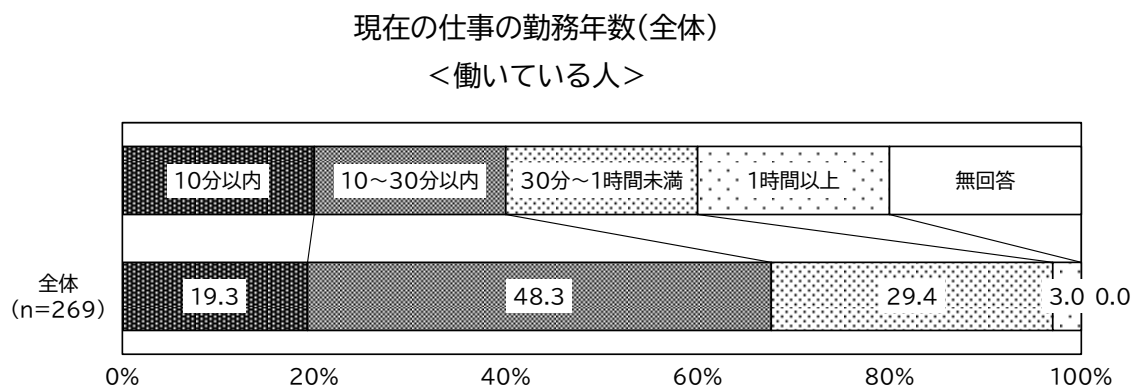
### (10)片道の通勤時間(問 17(4))

働いていると回答した人に、片道の通勤時間をたずねたところ、「10～30 分以内(48.3%)」が最も高く、「30 分～1 時間未満(29.4%)」、「10 分以内(19.3%)」が続いている。



### (11)現在の仕事の勤務年数(問 17(5))

働いていると回答した人に、現在の仕事の勤務年数をたずねたところ、「10 年以上(25.7%)」が最も高く、「5～10 年未満(24.2%)」、「1～3年未満(20.4%)」が続いている。

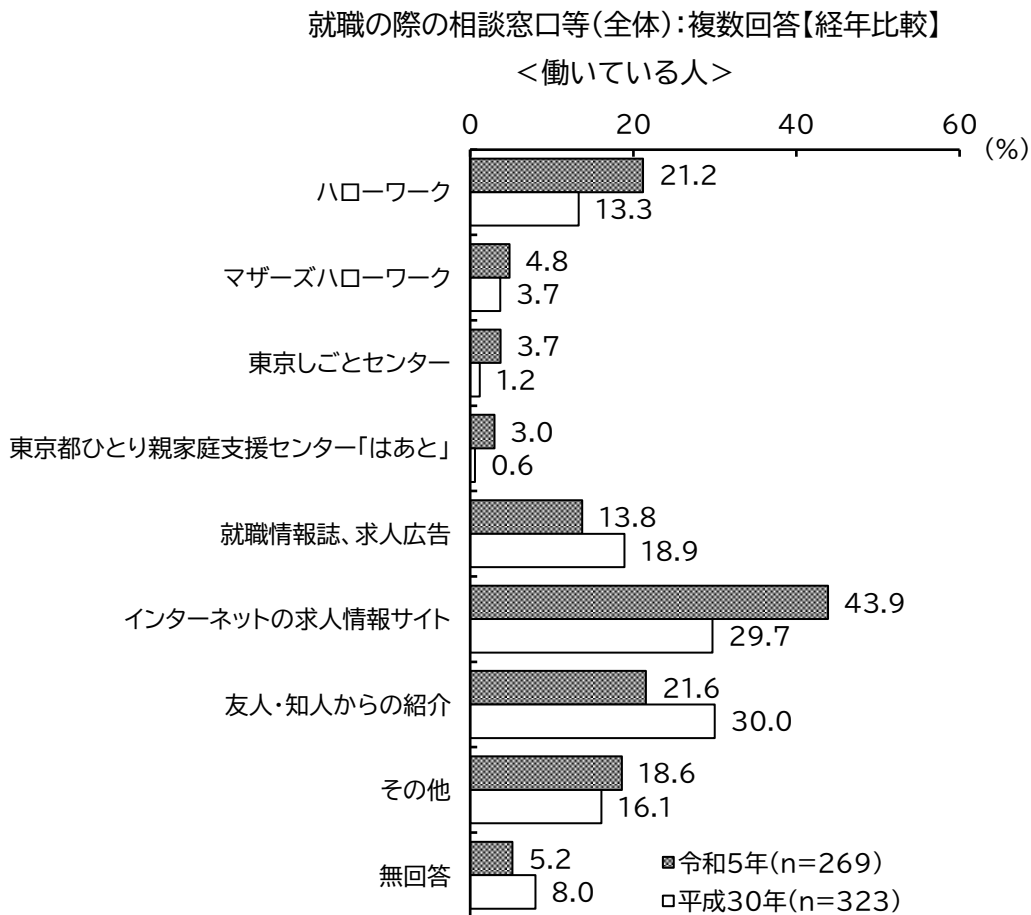


## (12)就職の際の相談窓口等(問 17(6))

働いていると回答した人に、就職の際の相談窓口等をたずねたところ、「インターネットの求人情報サイト(43.9%)」が最も高く、「友人・知人からの紹介(21.6%)」、「ハローワーク(21.2%)」が続いている。

平成30年調査では、「友人・知人からの紹介(30.0%)」が最も高く、「インターネットの求人情報サイト(29.7%)」、「就職情報誌、求人広告(18.9%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、「ハローワーク(13.3%→21.2%)」、「インターネットの求人情報サイト(29.7%→43.7%)」の割合が5.0ポイント以上高くなり、「就職情報誌、求人広告(18.9%→13.8%)」、「友人・知人からの紹介(30.0%→21.6%)」の割合が5.0ポイント以上低くなっている。



### (13) 仕事を探している時の問題点(問 17(7))

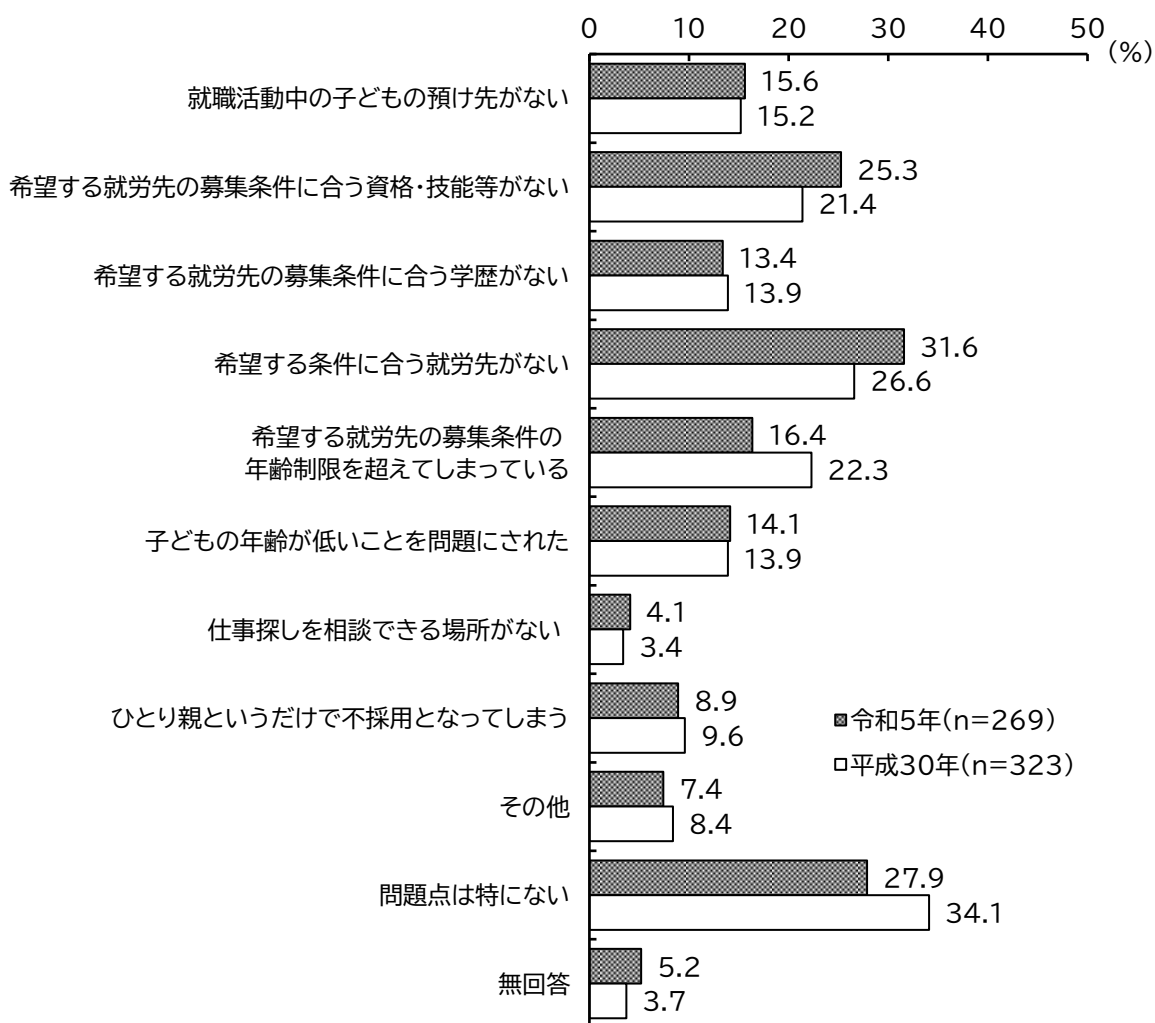
働いていると回答した人に、仕事を探している時の問題点をたずねたところ、「希望する条件に合う就労先がない(31.6%)」が最も高く、「希望する就労先の募集条件に合う資格・技能・経験がない(25.3%)」が続いている。「問題点は特にない」は27.9%となっている。

平成30年調査では、「希望する条件に合う就労先がない(26.6%)」が最も高く、「希望する就労先の募集条件の年齢制限を超えてしまっている(22.3%)」が続いている。「問題点は特にない」は34.1%となっている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、「希望する条件に合う就労先がない(26.6%→31.6%)」の割合が5.0ポイント以上高くなり、「希望する就労先の募集条件の年齢制限を超えてしまっている(22.3%→16.4%)」、「問題点は特にない(34.1%→27.9%)」の割合が5.0ポイント以上低くなっている。

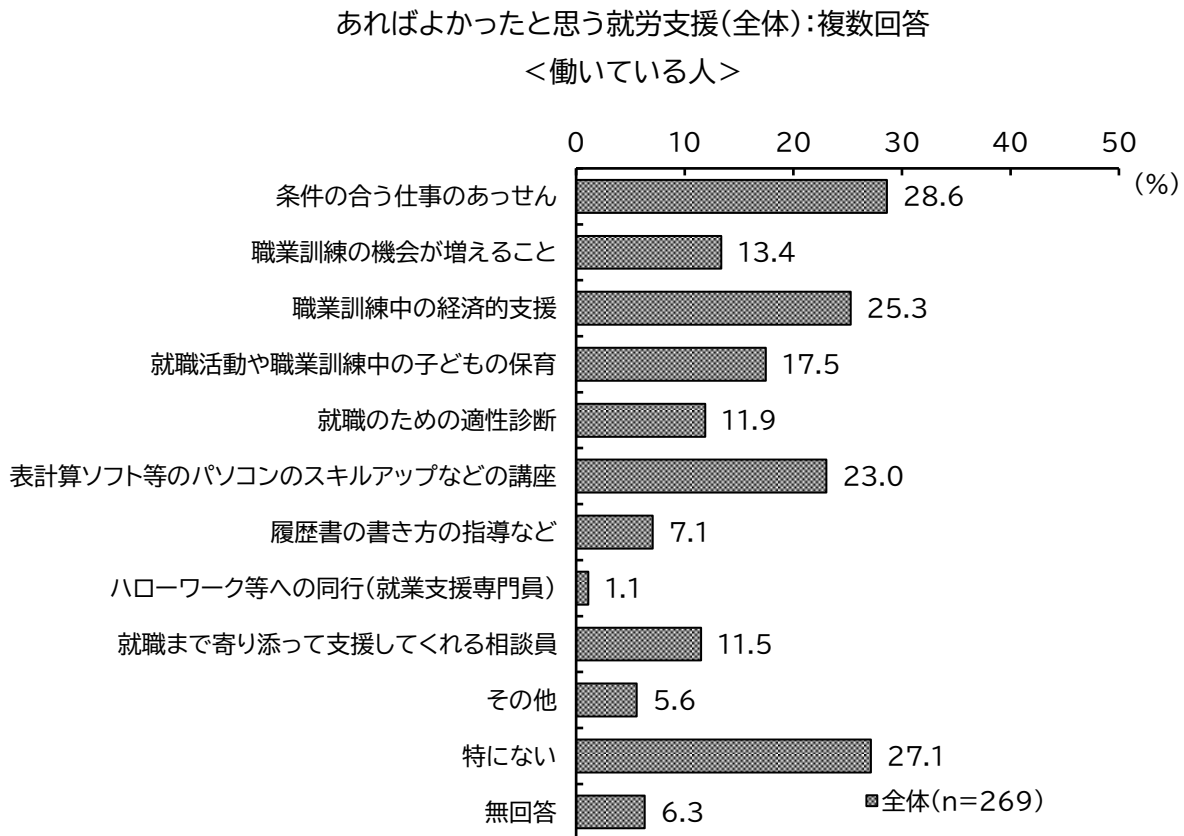
仕事を探している時の問題点(全体):複数回答【経年比較】

<働いている人>



## (14) あればよかったと思う就労支援(問 17(8))

働いていると回答した人に、あればよかったと思う就労支援をたずねたところ、「条件の合う仕事がありません(28.6%)」が最も高く、「職業訓練中の経済的支援(25.3%)」が続いている。「特にない」は27.1%となっている。



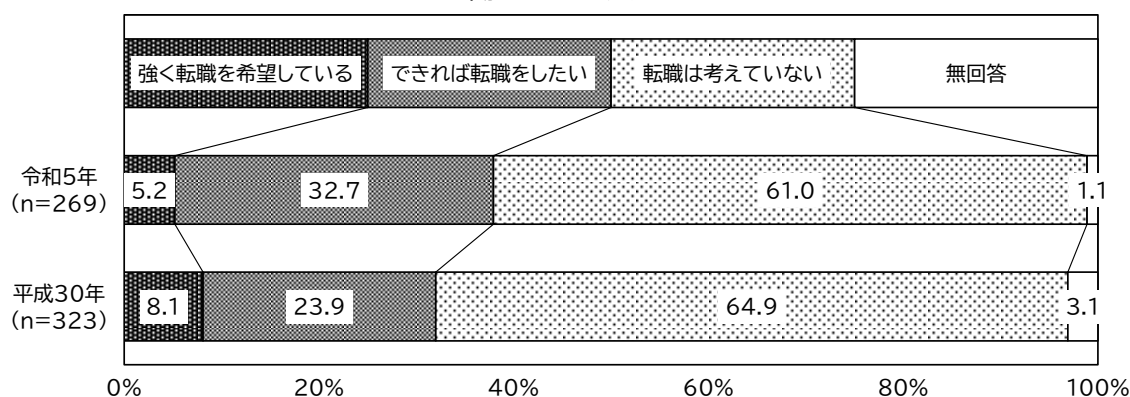
### (15) 転職希望の有無(問 17(9))

働いていると回答した人に、転職希望の有無をたずねたところ、《転職を希望している》(「強く転職を希望している」と「できれば転職をしたい」の合計)が 37.9%、「転職は考えていない」は 61.0%となっている。

平成30年調査では、《転職を希望している》は 32.0%、「転職は考えていない」は 64.9%となっている。

転職希望の有無(全体)【経年比較】

<働いている人>



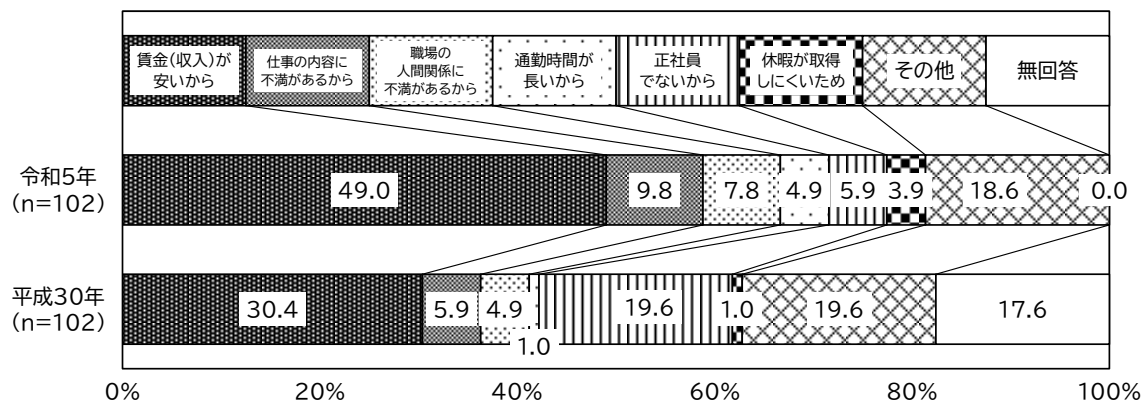
### (16) 転職したい主な理由(問 17(10))

働いている人で、「強く転職を希望している」または「できれば転職をしたい」と回答した人に、転職したい主な理由をたずねたところ、「賃金(収入)が安いから(49.0%)」が最も高く、「その他(18.6%)」、「仕事の内容に不満があるから(9.8%)」が続いている。

平成30年調査では、「賃金(収入)が安いから(30.4%)」が最も高く、「正社員でないから(19.6%)」と「その他(19.6%)」が同率が続いている。

転職したい主な理由(全体)【経年比較】

<働いている人で強く転職を希望している人、またはできれば転職をしたい人>





## (17)仕事と子育ての両立で大変なこと(問 18)

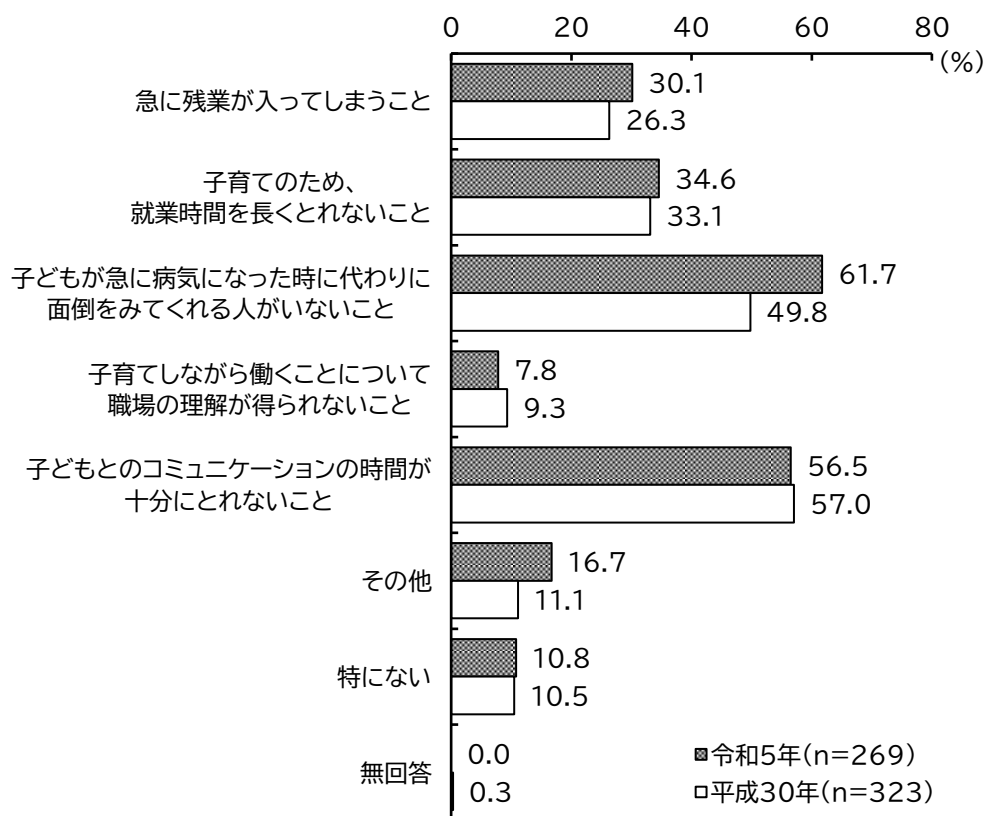
働いていると回答した人に、仕事と子育ての両立で大変なことをたずねたところ、「子どもが急に病気になったときに代わりに面倒をみってくれる人がいないこと(61.7%)」が最も高く、「子どもとのコミュニケーションの時間が十分に取れないこと(56.5%)」、「子育てのため、就業時間を長く取れないこと(34.6%)」が続いている。「特にない」は10.8%である。

平成30年調査では、「子どもとのコミュニケーションの時間が十分に取れないこと(57.0%)」が最も高く、「子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみってくれる人がいないこと(49.8%)」、「子育てのため、就業時間を長く取れないこと(33.1%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、「子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみってくれる人がいないこと(49.8%→61.7%)」の割合が11.9ポイント高くなっている。

仕事と子育ての両立で大変なこと(全体):複数回答【経年比較】

&lt;働いている人&gt;



## (18)仕事と子育ての両立のために望まれる取り組み(問 19)

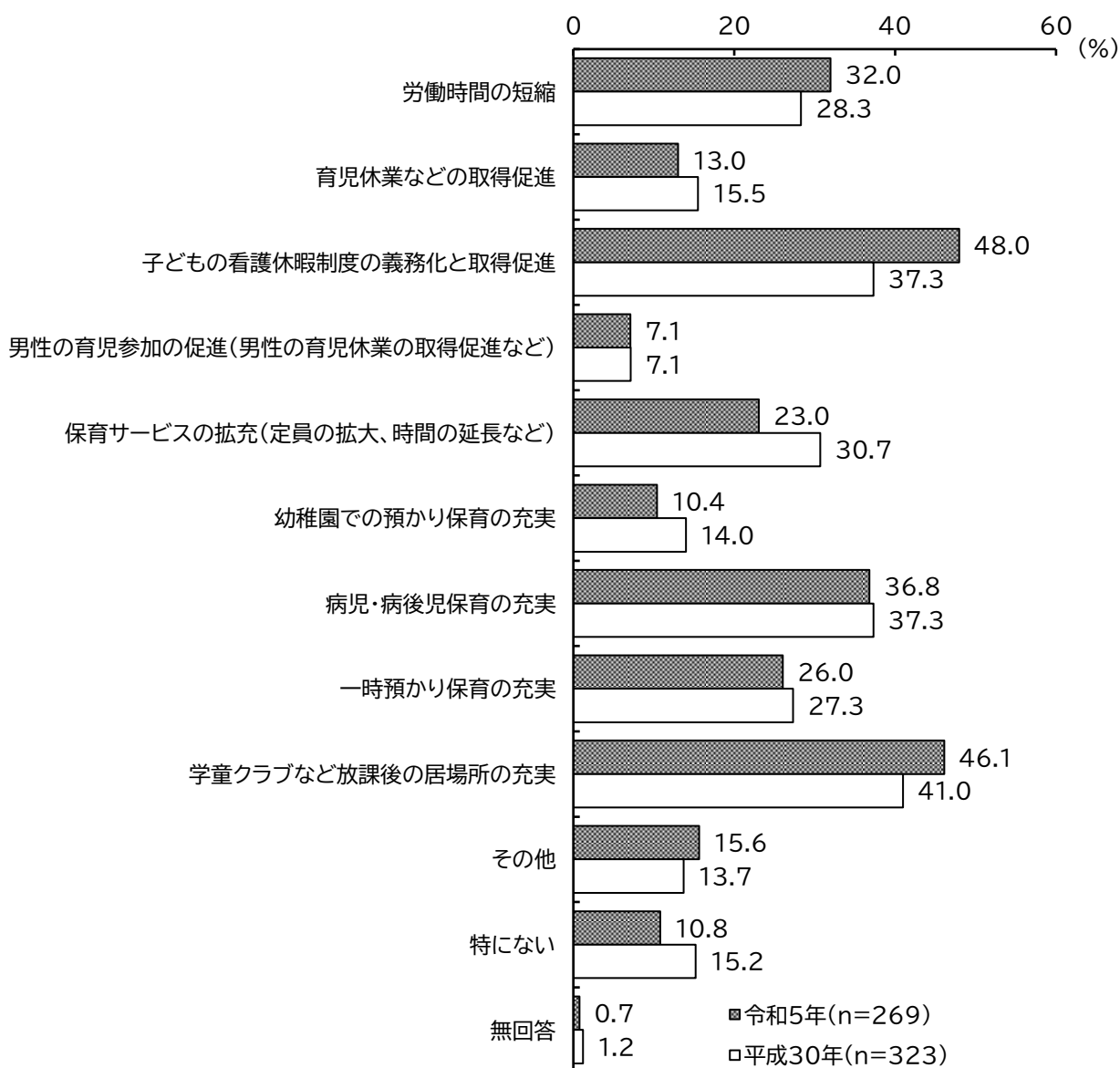
働いていると回答した人に、仕事と子育ての両立のために望まれる取り組みをたずねたところ、「子どもの看護休暇制度の義務化と取得促進(48.0%)」が最も高く、「学童クラブなど放課後の居場所の充実(46.1%)」、「病児・病後児保育の充実(36.8%)」が続いている。「特にない」は10.8%である。

平成30年調査では、「学童クラブなど放課後の居場所の充実(41.0%)」が最も高く、「子どもの看護休暇制度の義務化と取得促進(37.3%)」、「病児・病後児保育の充実(37.3%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、「子どもの看護休暇制度の義務化と取得促進(37.3%→48.0%)」、「学童クラブなど放課後の居場所の充実(41.0%→46.1%)」の割合が5.0ポイント以上高くなり、「保育サービスの拡充(定員の拡大、時間延長など)(30.7%→23.0%)」の割合が5.0ポイント以上低くなっている。

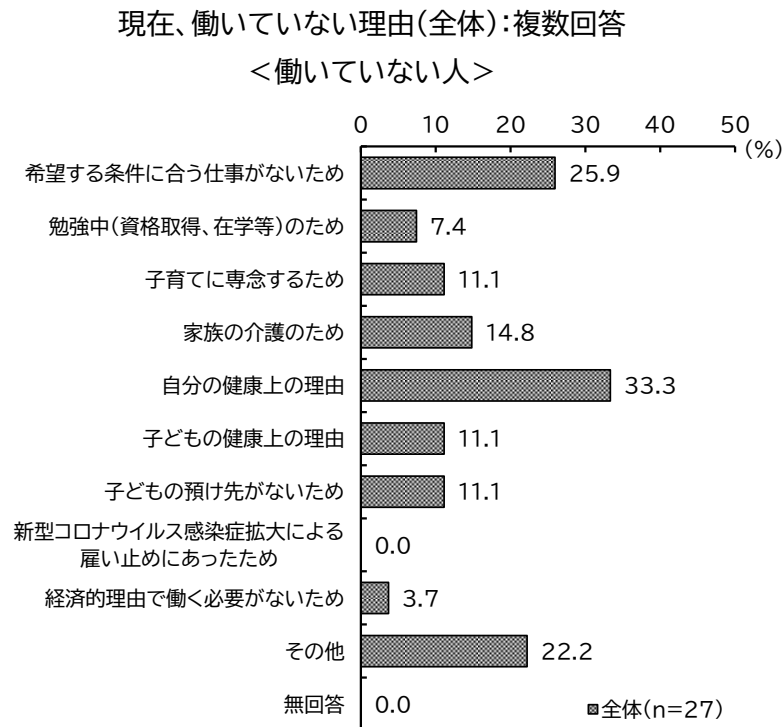
仕事と子育ての両立のために望まれる取り組み(全体):複数回答【経年比較】

<働いている人>



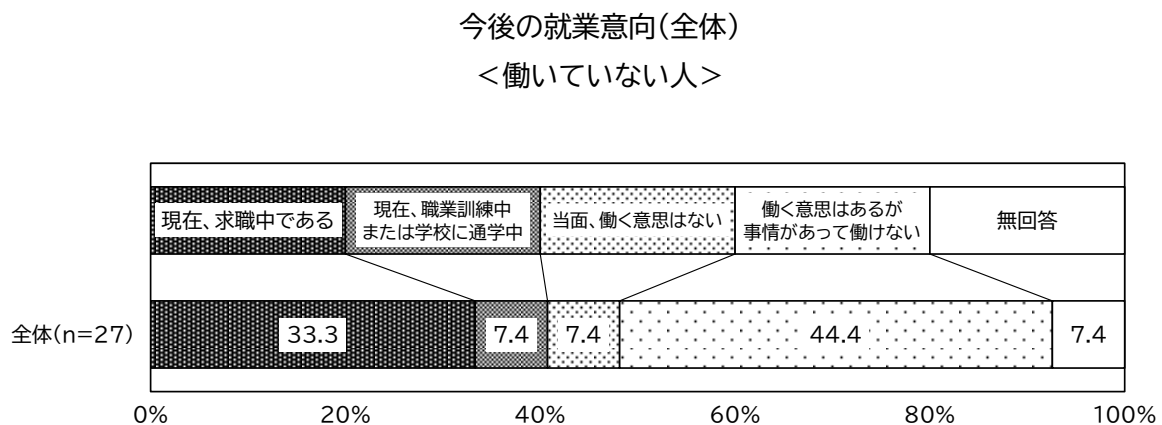
## (19)現在、働いていない理由(問 20)

働いていないと回答した人に、現在、働いていない理由をたずねたところ、「自分の健康上の理由(33.3%)」が最も高く、「希望する条件に合う仕事がないため(25.9%)」、「その他(22.2%)」が続いている。



## (20)今後の就業意向(問 21)

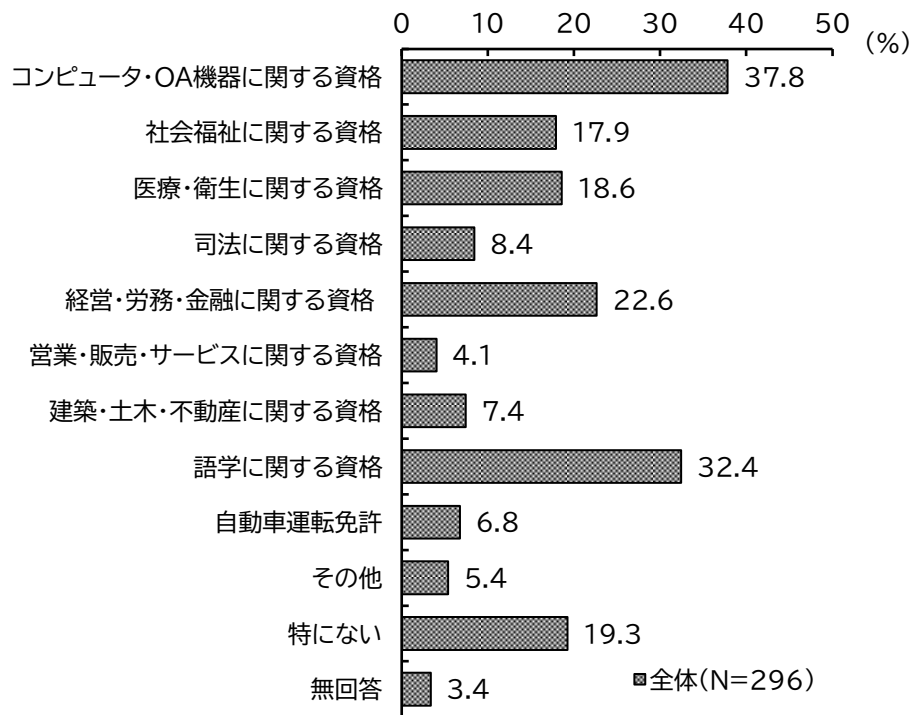
働いていないと回答した人に、今後の就業意向をたずねたところ、「働く意思はあるが事情があつて働けない(44.4%)」が最も高く、「現在、求職中である(33.3%)」が続いている。



(21)習得したい資格、技能(問 22)

習得したい資格、技能は、「コンピュータ・OA機器に関する資格(37.8%)」が最も高く、「語学に関する資格(32.4%)」、「経営・労務・金融に関する資格(22.6%)」が続いている。「特にない」は19.3%である。

習得したい資格、技能(全体):複数回答



## 4 養育費

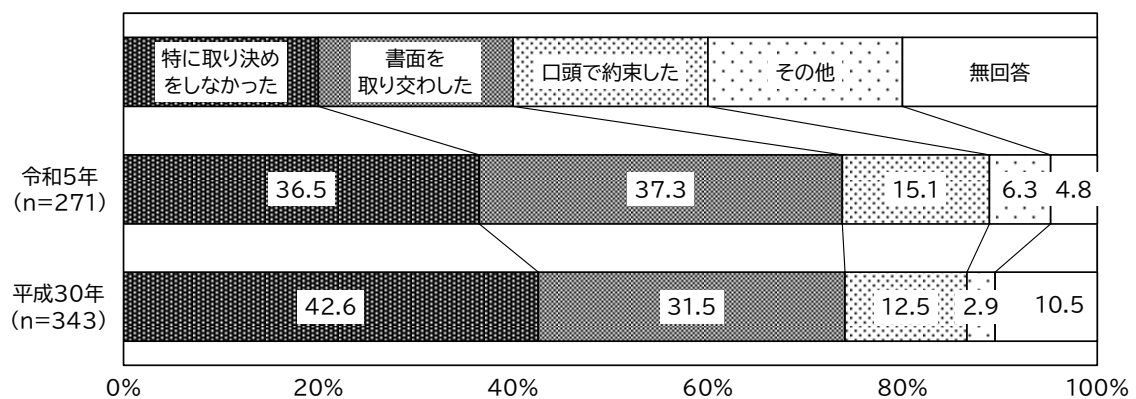
### (1) 養育費についての約束の有無(問 23)

ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかと回答した人に、養育費についての約束の有無をたずねたところ、「書面を取り交わした(37.3%)」が最も高く、「特に取り決めをしなかった(36.5%)」、「口頭で約束した(15.1%)」が続いている。

《何らかの取り決めをした》(「書面を取り交わした」、「口頭で約束した」、「その他」の合計)の割合は58.7%となっている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、《何らかの取り決めをした(46.9%→58.7%)》の割合が11.8ポイント高くなっている。

養育費についての約束の有無(全体)【経年比較】  
 <ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人>



## (2)養育費について取り決めなかった理由(問 23-1)

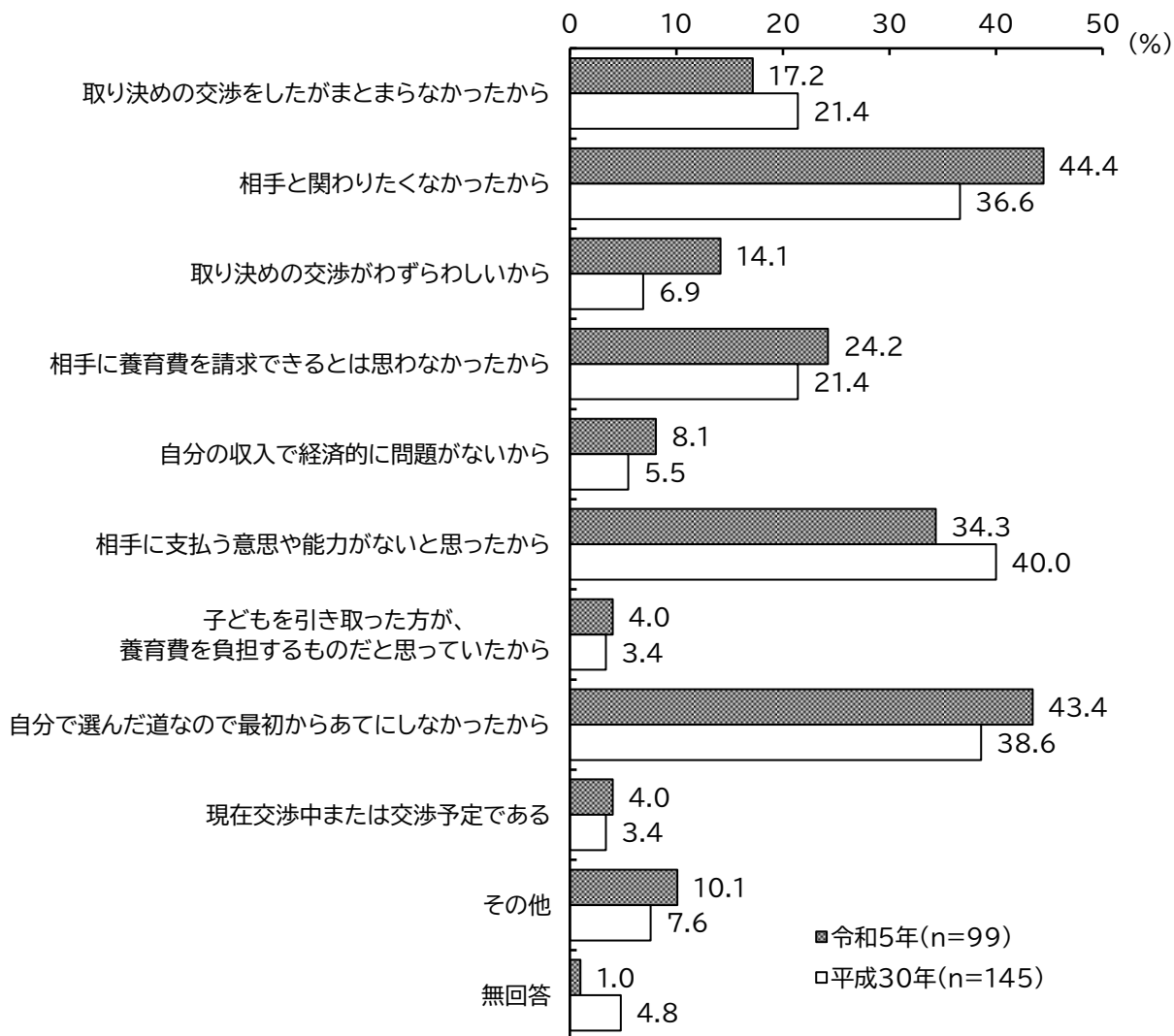
ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で養育費の支払いについて特に取り決めをしなかった人に、養育費について取り決めなかった理由をたずねたところ、「相手と関わりたくなかったから(44.4%)」が最も高く、「自分で選んだ道なので最初からあてにできなかったから(43.4%)」、「相手に支払う意思や能力がないと思ったから(34.3%)」が続いている。

平成30年調査では、「相手に支払う意思や能力がないと思ったから(40.0%)」が最も高く、「自分で選んだ道なので最初からあてにできなかったから(38.6%)」、「相手と関わりたくなかったから(36.6%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、「相手に支払う意思や能力がないと思ったから(40.0%→34.3%)」の割合が5.7ポイント低くなっている。

養育費について取り決めなかった理由(全体):複数回答【経年比較】

<ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で  
養育費の支払いについて特に取り決めをしなかった人>



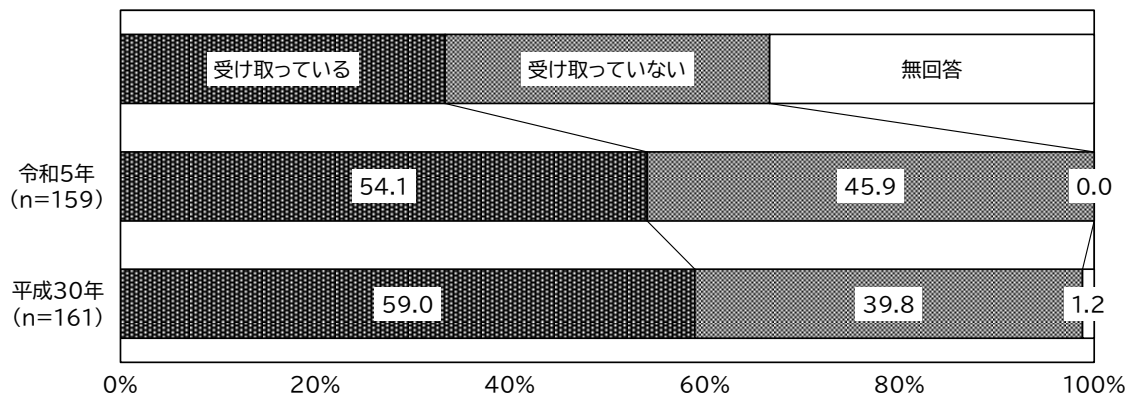
## (3) 養育費の受取状況(問 23-2)

ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で養育費の支払いについて何らかの取り決めをした人に、養育費の受取状況をたずねたところ、「受け取っている」が 54.1%、「受け取っていない」が 45.9%となっている。

平成30年調査では、「受け取っている」が 59.0%、「受け取っていない」が 39.8%となっている。

## 養育費の受取状況(全体)【経年比較】

<ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で  
養育費の支払いについて何らかの取り決めをした人>



養育費の受取状況について、約束の有無別にみると、「書面を取り交わした」人の70.0%以上が養育費を受け取っている一方、「口頭で約束した」人の70.0%以上が養育費を受け取っていない。

## 養育費の受取状況(全体、養育費についての約束の有無別)

<ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で  
養育費の支払いについて何らかの取り決めをした人>

		(%)		
		受け取っている	受け取っていない	無回答
全	体 (n=159)	54.1	45.9	0.0
の養育費の約束の有無別に	書面を取り交わした (n=101)	70.3	29.7	0.0
	口頭で約束した (n=41)	26.8	73.2	0.0
	その他 (n=17)	23.5	76.5	0.0

### (4)養育費についての約束は守られているか(問 23-3)

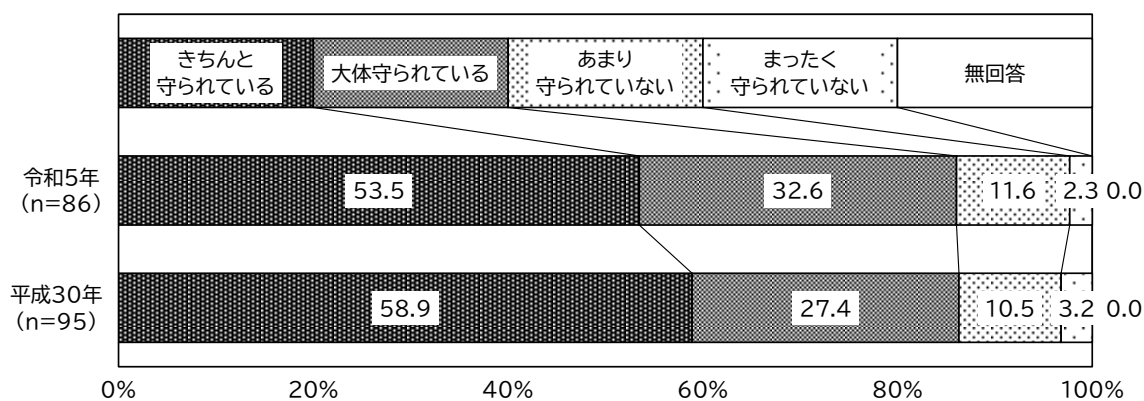
ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で養育費の支払いについて何らかの取り決めをした人のうち、養育費を受け取っている人に、養育費についての約束は守られているかたずねたところ、「きちんと守られている(53.5%)」が最も高く、「大体守られている(32.6%)」、「あまり守られていない(11.6%)」が続いている。

《守られている》(「きちんと守られている」、「大体守られている」の合計)の割合は 86.1%、《守られていない》(「あまり守られていない」、「まったく守られていない」の合計)の割合は 13.9%となっている。

平成30年調査では、《守られている》の割合は 86.3%、《守られていない》の割合は 13.7%となっている。

#### 養育費についての約束は守られているか(全体)【経年比較】

<ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で  
養育費の支払いについて何らかの取り決めをした人のうち、養育費を受け取っている人>





養育費についての約束が守られているか、約束の有無別にみると、書面を取り交わした人は「きちんと守られている」が 57.7%と最も高く、口頭で約束した人は「大体守られている」が 63.6%と最も高くなっている。

養育費についての約束は守られているか(全体、養育費についての約束の有無別)

<ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で

養育費の支払いについて何らかの取り決めをした人のうち、養育費を受け取っている人>

(%)

		てき い ち ん と 守 ら れ	る 大 体 守 ら れ て い	い あ ま り 守 ら れ て	て ま い っ た く 守 ら れ	無 回 答
全	体 (n= 86)	53.5	32.6	11.6	2.3	0.0
の 養 育 費 の 有 無 別 で	書 面 を 取 り 交 わ し た (n= 71)	57.7	28.2	11.3	2.8	0.0
	口 頭 で 約 束 し た (n= 11)	27.3	63.6	9.1	0.0	0.0
	そ の 他 (n= 4)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0

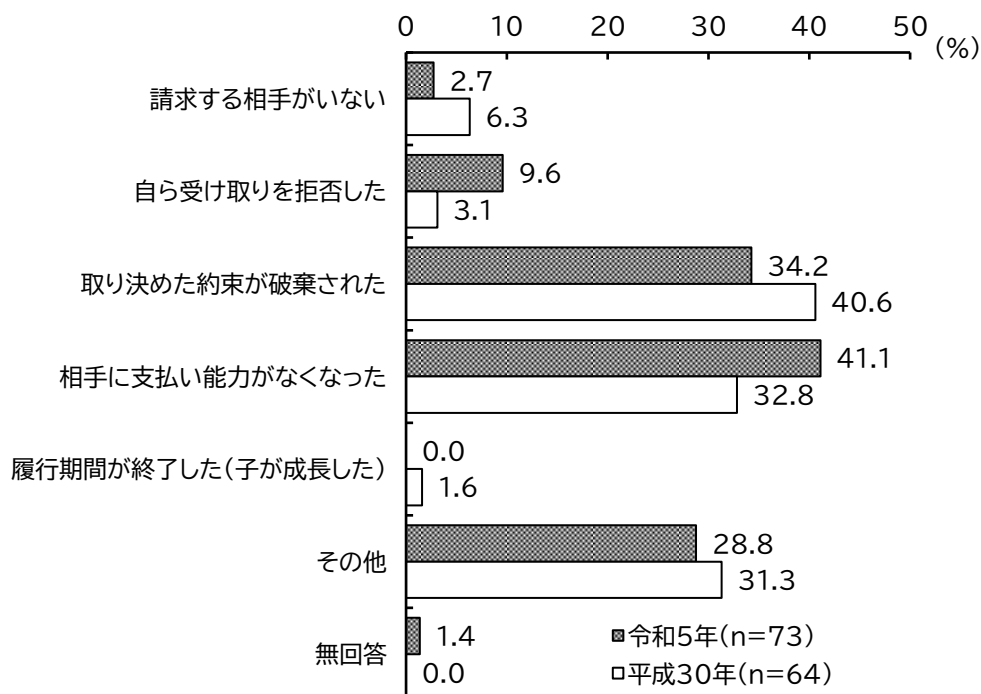
### (5) 養育費を受け取っていない理由(問 23-4)

ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で養育費の支払いについて何らかの取り決めをした人のうち、養育費を受け取っていない人に、養育費を受け取っていない理由をたずねたところ、「相手に支払い能力がなくなった(41.1%)」が最も高く、「取り決めた約束が破棄された(34.2%)」が続いている。

平成30年調査では、「取り決めた約束が破棄された(40.6%)」が最も高く、「相手に支払い能力がなくなった(32.8%)」が続いている。

#### 養育費を受け取っていない理由(全体):複数回答【経年比較】

<ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で  
養育費の支払いについて何らかの取り決めをした人のうち、養育費を受け取っていない人>

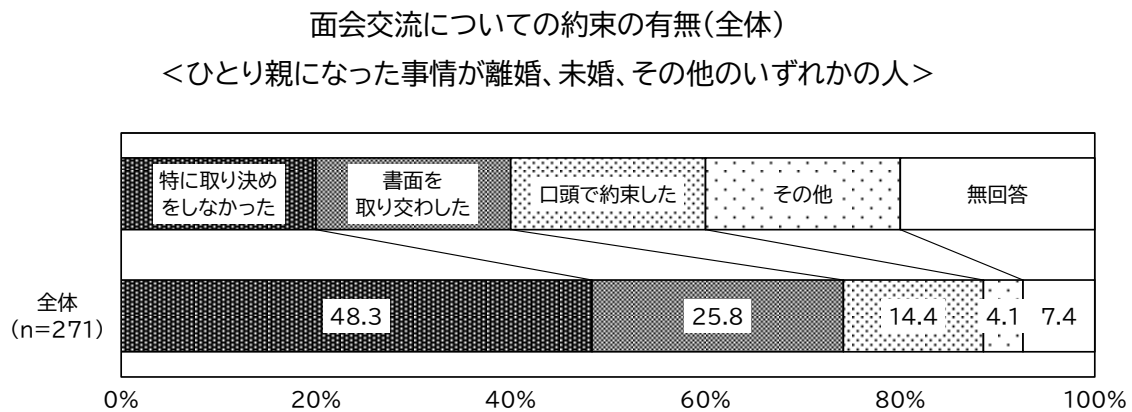


## 5 面会交流

### (1)面会交流についての約束の有無(問 24)

ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人に、面会交流についての約束の有無をたずねたところ、「特に取り決めをしなかった(48.3%)」が最も高く、「書面を取り交わした(25.8%)」、「口頭で約束した(14.4%)」が続いている。

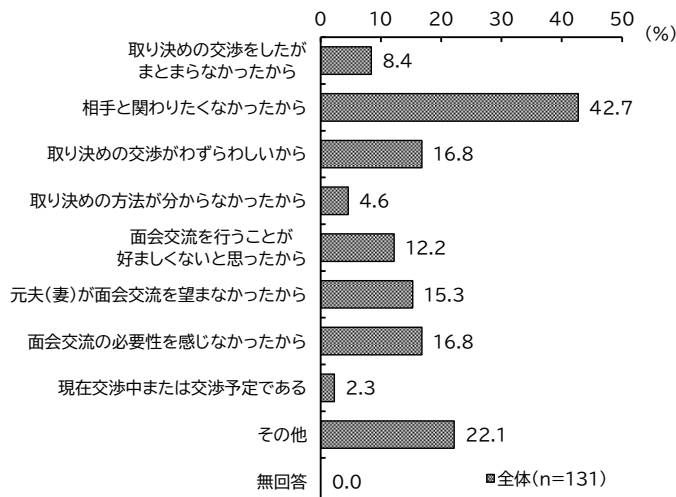
《何らかの取り決めをした》(「書面を取り交わした」、「口頭で約束した」、「その他」の合計)の割合は44.3%となっている。



### (2)面会交流について取り決めなかった理由(問 24-1)

ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で面会交流について特に取り決めをしなかった人に、面会交流について取り決めなかった理由をたずねたところ、「相手と関わりたくなかったから(42.7%)」が最も高く、「その他(22.1%)」、「取り決めの交渉がわずらわしいから(16.8%)」、「面会交流の必要性を感じなかったから(16.8%)」が続いている。

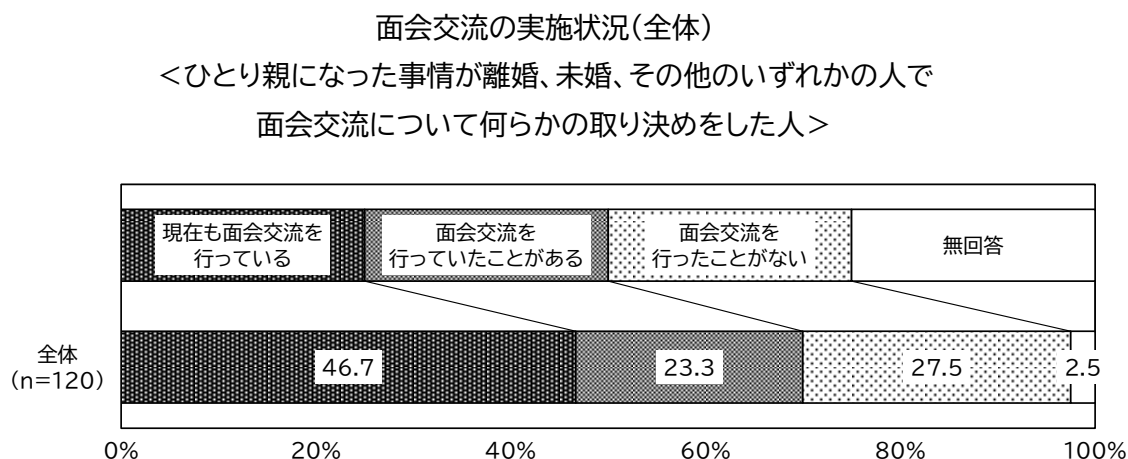
面会交流について取り決めなかった理由(全体):複数回答  
 <ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で  
 面会交流について特に取り決めをしなかった人>



### (3)面会交流の実施状況(問 24-2)

ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で面会交流について何らかの取り決めをした人に、面会交流の実施状況をたずねたところ、「現在も面会交流を行っている(46.7%)」が最も高く、「面会交流を行ったことがない(27.5%)」、「面会交流を行っていたことがある(23.3%)」が続いている。

《面会交流を行っている・行っていたことがある》(「現在も面会交流を行っている」、「面会交流を行っていたことがある」の合計)の割合は70.0%となっている。



面会交流の約束の有無別に面会交流の実施状況をみると、《面会交流を行っている・行っていたことがある》の割合が、「書面を取り交わした人」で70.0%、「口頭で約束をした人」で79.5%と7割を超えている。

面会交流の実施状況(全体、面会交流の約束の有無別)  
 <ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で  
 面会交流について何らかの取り決めをした人>

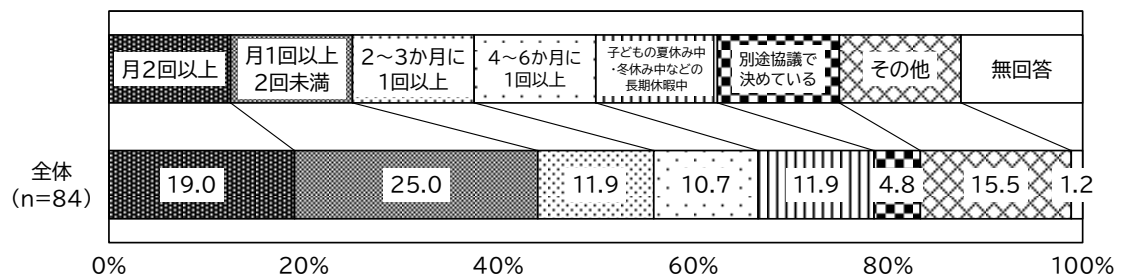
		(%)			
		現在も面会交流を行っている	面会交流を行っていたことがある	面会交流を行ったことがない	無回答
全	体 (n=120)	46.7	23.3	27.5	2.5
面会交流の約束の有無別	書面を取り交わした (n=70)	48.6	21.4	25.7	4.3
	口頭で約束した (n=39)	48.7	30.8	20.5	0.0
	その他 (n=11)	27.3	9.1	63.6	0.0

## (4)面会交流の実施頻度(問 24-3)

ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で面会交流について何らかの取り決めをした人で面会交流を行っている・行っていたことがある人に、面会交流の実施頻度をたずねたところ、「月1回以上2回未満(25.0%)」が最も高く、「月2回以上(19.0%)」、「その他(15.5%)」が続いている。

面会交流の実施頻度(全体)

<ひとり親になった事情が離婚、未婚、その他のいずれかの人で面会交流について何らかの取り決めをした人で面会交流を行っている・行っていたことがある人>



## 6 子育てについて

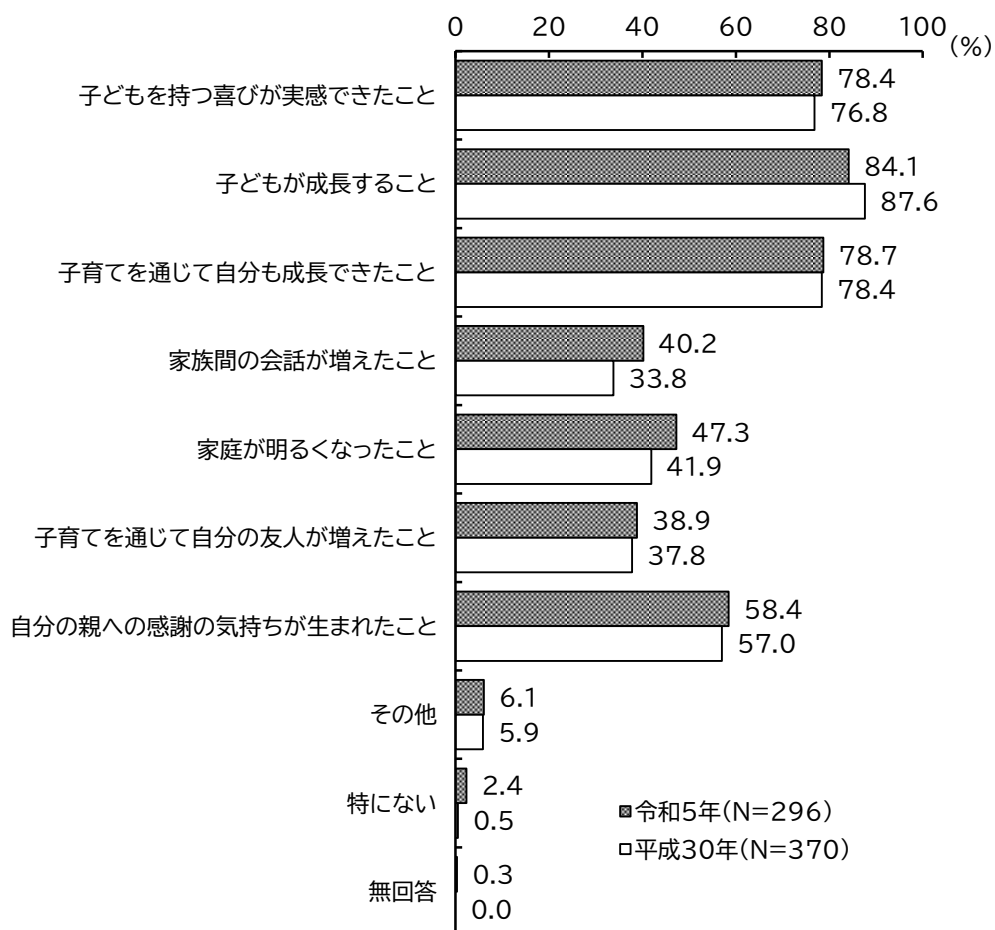
### (1) 子育てをして良かったこと(問 25)

子育てをして良かったことは、「子どもが成長すること(84.1%)」が最も高く、「子育てを通じて自分も成長できたこと(78.7%)」、「子どもを持つ喜びが実感できたこと(78.4%)」が続いている。「特  
にない」は2.4%である。

平成30年調査では、「子どもが成長すること(87.6%)」が最も高く、「子育てを通じて自分も成長  
できたこと(78.4%)」、「子どもを持つ喜びが実感できたこと(76.8%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では「家庭が明るくなったこと(41.9%→47.3%)」、  
「家族間の会話が増えたこと(33.8%→40.2%)」の割合が5.0ポイント以上高くなっている。

子育てをして良かったこと(全体):複数回答【経年比較】



## (2)子育てに関する悩み／子どもに関する悩み(問 26)

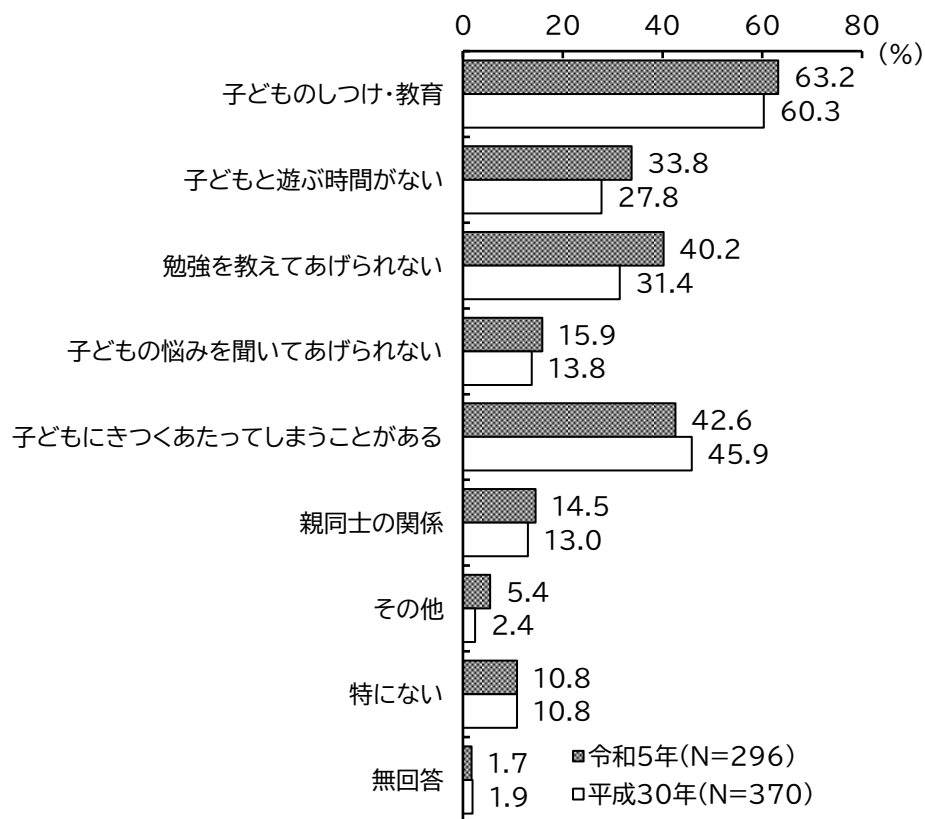
## ◆子育てに関する悩み

子育てに関する悩みは、「子どものしつけ・教育(63.2%)」が最も高く、「子どもにきつくあたってしまう(42.6%)」、「勉強を教えてあげられない(40.2%)」が続いている。「特にない」は10.8%である。

平成30年調査も同様に、「子どものしつけ・教育(60.3%)」が最も高く、「子どもにきつくあたってしまう(45.9%)」、「勉強を教えてあげられない(31.4%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、「子どもと遊ぶ時間がない(27.8%→33.8%)」、「勉強を教えてあげられない(31.4%→40.2%)」の割合が5.0ポイント以上高くなっている。

子育てに関する悩み(全体):複数回答【経年比較】



## 第2章 調査結果

世帯年収別にみると、800万円未満の各層で「子どものしつけ・教育」が最も高くなっている。

末子の年代別にみると、0歳～5歳では「子どもと遊ぶ時間がない(61.8%)」が最も高くなっており、その他の層では「子どものしつけ・教育」が最も高くなっている。

子育てに関する悩み(全体、世帯年収別、末子の年代別):複数回答

		子どものしつけ・教育	子どもと遊ぶ時間がない	勉強を教えてあげられない	子どもの悩みを聞いてあげられない	子どもにきつくあたってしまうことがある	親同士の関係	その他	特にない	無回答
全	体 (N=296)	63.2	33.8	40.2	15.9	42.6	14.5	5.4	10.8	1.7
世帯年収別	収入はない(0円) (n=18)	66.7	27.8	22.2	0.0	27.8	5.6	0.0	16.7	0.0
	100万円未満 (n=35)	62.9	28.6	37.1	8.6	42.9	14.3	8.6	14.3	2.9
	100～200万円未満 (n=57)	71.9	36.8	45.6	17.5	42.1	7.0	7.0	10.5	0.0
	200～250万円未満 (n=34)	44.1	26.5	35.3	17.6	38.2	26.5	5.9	17.6	0.0
	250～300万円未満 (n=36)	63.9	19.4	44.4	13.9	47.2	19.4	2.8	8.3	5.6
	300～400万円未満 (n=50)	62.0	36.0	46.0	20.0	50.0	12.0	4.0	4.0	4.0
	400～600万円未満 (n=47)	68.1	48.9	40.4	21.3	42.6	14.9	6.4	8.5	0.0
	600～800万円未満 (n=13)	61.5	46.2	30.8	23.1	30.8	23.1	0.0	15.4	0.0
	800～1,000万円未満 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
1,000万円以上 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
末子の年代別	0歳～5歳 (n=34)	50.0	61.8	20.6	11.8	38.2	8.8	2.9	11.8	0.0
	6歳～11歳 (n=95)	73.7	32.6	38.9	13.7	52.6	13.7	2.1	12.6	1.1
	12歳～14歳 (n=61)	72.1	36.1	47.5	24.6	39.3	16.4	11.5	4.9	0.0
	15歳～18歳 (n=87)	57.5	26.4	49.4	16.1	40.2	14.9	6.9	9.2	3.4



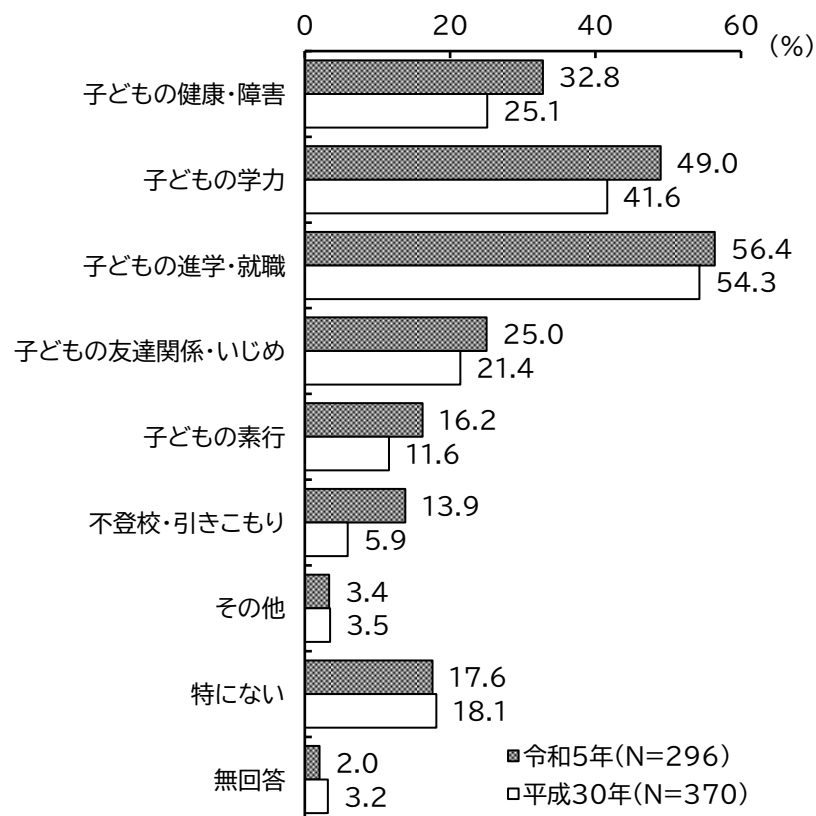
## ◆子どもに関する悩み

子どもに関する悩みは、「子どもの進学・就職(56.4%)」が最も高く、「子どもの学力(49.0%)」、「子どもの健康・障害(32.8%)」が続いている。「特にない」は17.6%である。

平成30年調査でも同様に、「子どもの進学・就職(54.3%)」が最も高く、「子どもの学力(41.6%)」、「子どもの健康・障害(25.1%)」が続いている。

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、「子どもの健康・障害(25.1%→32.8%)」、「子どもの学力(41.6%→49.0%)」、「不登校・引きこもり(5.9%→13.9%)」が5.0ポイント以上高くなっている。

子どもに関する悩み(全体):複数回答【経年比較】



## 第2章 調査結果

世帯年収別にみると、収入はない(0円)で「子どもの健康・障害(33.3%)」と「子どもの学力(33.3%)」が同率で最も高く、400～600万円未満では「子どもの学力(44.7%)」が最も高い。それ以外の800万円未満の各層では「子どもの進学・就職」が最も高くなっている。

末子の年代別にみると、0歳～5歳で「特にない(44.1%)」が最も高く、6歳～11歳で「子どもの学力(57.9%)」が最も高くなっている。12歳～14歳と15歳～18歳では「子どもの進学・就職」が最も高くなっている。

子どもに関する悩み(全体、世帯年収別、末子の年代別):複数回答

		(%)								
		子どもの健康・障害	子どもの学力	子どもの進学・就職	子どもの友達関係・いじめ	子どもの素行	不登校・引きこもり	その他	特にない	無回答
全	体 (N=296)	32.8	49.0	56.4	25.0	16.2	13.9	3.4	17.6	2.0
世帯年収別	収入はない(0円) (n= 18)	33.3	33.3	27.8	27.8	16.7	5.6	0.0	27.8	0.0
	100万円未満 (n= 35)	37.1	48.6	62.9	22.9	14.3	14.3	2.9	22.9	0.0
	100～200万円未満 (n= 57)	28.1	50.9	59.6	28.1	12.3	10.5	5.3	14.0	0.0
	200～250万円未満 (n= 34)	38.2	52.9	61.8	23.5	11.8	8.8	2.9	8.8	2.9
	250～300万円未満 (n= 36)	36.1	55.6	72.2	27.8	19.4	22.2	0.0	13.9	0.0
	300～400万円未満 (n= 50)	28.0	50.0	60.0	20.0	16.0	14.0	0.0	20.0	6.0
	400～600万円未満 (n= 47)	31.9	44.7	40.4	25.5	25.5	14.9	10.6	17.0	4.3
	600～800万円未満 (n= 13)	38.5	46.2	53.8	38.5	15.4	23.1	0.0	23.1	0.0
	800～1,000万円未満 (n= 2)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	1,000万円以上 (n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
末子の年代別	0歳～5歳 (n= 34)	23.5	14.7	23.5	17.6	8.8	8.8	2.9	44.1	5.9
	6歳～11歳 (n= 95)	32.6	57.9	54.7	28.4	14.7	10.5	2.1	13.7	3.2
	12歳～14歳 (n= 61)	36.1	59.0	60.7	36.1	27.9	14.8	4.9	9.8	0.0
	15歳～18歳 (n= 87)	34.5	48.3	71.3	19.5	14.9	20.7	3.4	16.1	1.1

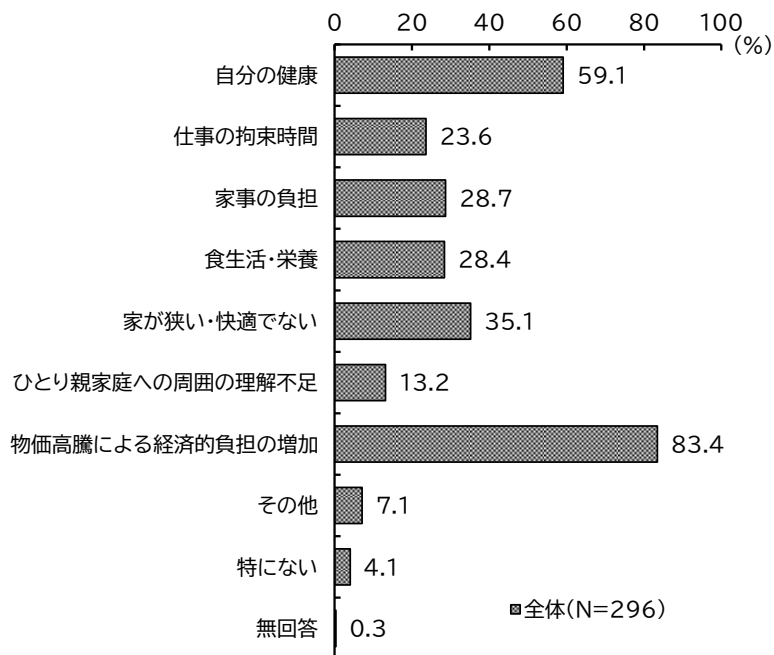
## (3)今の生活の悩み／将来の不安(問 27)

## ◆今の生活の悩み

今の生活の悩みは、「物価高騰による経済的負担の増加(83.4%)」が最も高く、「自分の健康(59.1%)」、「家が狭い・快適ではない(35.1%)」が続いている。「特にない」は4.1%である。

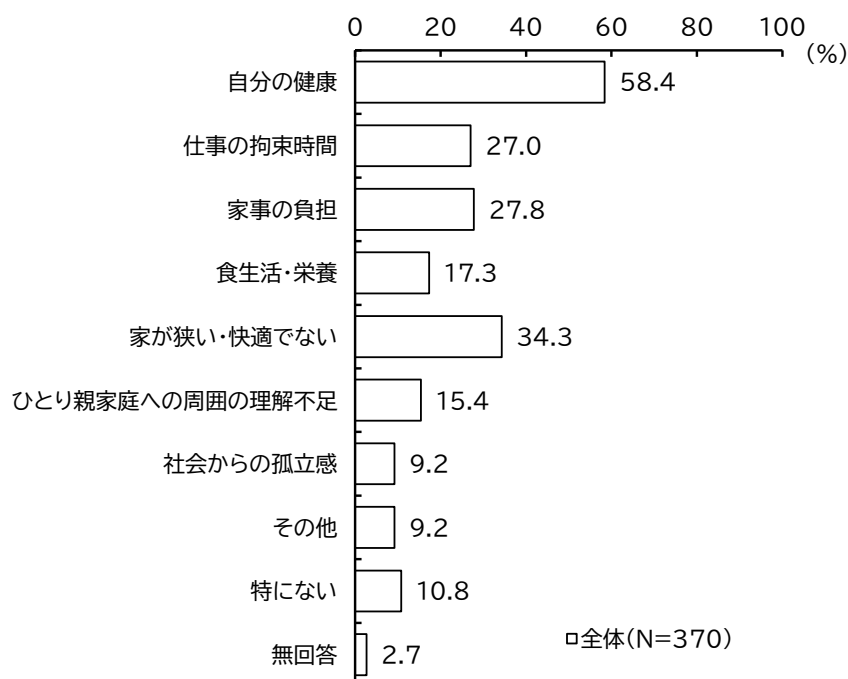
平成30年調査では、「自分の健康(58.4%)」が最も高く、「家が狭い・快適ではない(34.3%)」、「家事的負担(27.8%)」が続いている。

今の生活の悩み(全体):複数回答【令和5年】



※令和5年調査では、「社会からの孤立感」を削除し、「物価高騰による経済的負担の増加」を追加している。

今の生活の悩み(全体):複数回答【平成30年】



## 第2章 調査結果

世帯年収別にみると、800万円未満の各層で「物価高騰による経済的負担の増加」が最も高く、「自分の健康」が続いている。

末子の年代別にみると、全ての層で「物価高騰による経済的負担の増加」が最も高くなっている。また、0歳～5歳では「ひとり親家庭への周囲の理解不足(23.5%)」が全体を10.3ポイント上回っている。12歳～14歳では「食生活・栄養(41.0%)」が全体を12.6ポイント、「家が狭い、快適でない(45.9%)」が全体より10.8ポイント高くなっている。

回答者の年代別にみると、全ての層で「物価高騰による経済的負担の増加」が最も高くなっている。次いで、30歳代では「家が狭い、快適でない(41.4%)」、40歳代、50歳代では「自分の健康」となっている。

今の生活の悩み(全体、世帯年収別、末子の年代別、回答者の年代別):複数回答

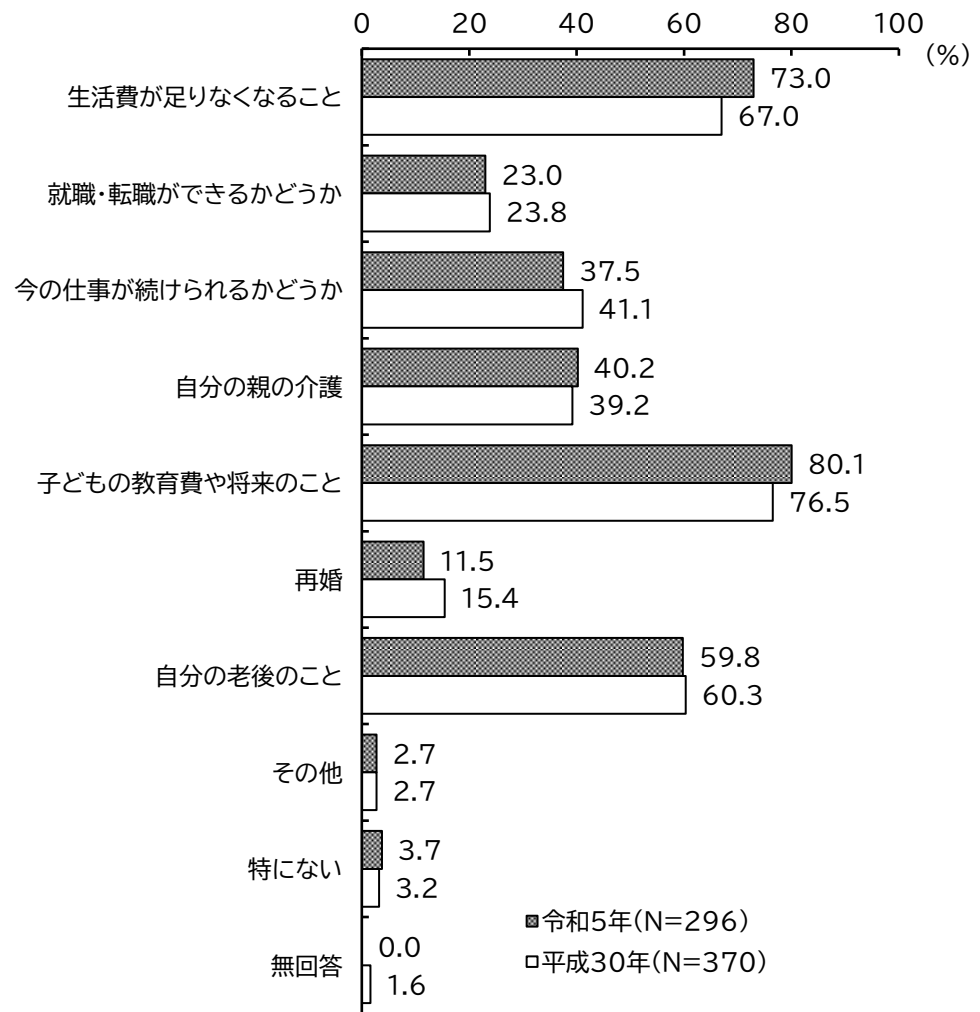
		(%)									
		自分の健康	仕事の拘束時間	家事の負担	食生活・栄養	家が狭い・快適でない	ひとり親家庭への周囲の理解不足	物価高騰による経済的負担の増加	その他	特にない	無回答
全	体 (N=296)	59.1	23.6	28.7	28.4	35.1	13.2	83.4	7.1	4.1	0.3
世帯年収別	収入はない(0円) (n=18)	50.0	11.1	38.9	11.1	22.2	16.7	72.2	0.0	0.0	0.0
	100万円未満 (n=35)	60.0	17.1	25.7	37.1	40.0	17.1	74.3	8.6	11.4	0.0
	100～200万円未満 (n=57)	59.6	17.5	26.3	22.8	35.1	15.8	89.5	7.0	3.5	0.0
	200～250万円未満 (n=34)	64.7	20.6	23.5	29.4	41.2	8.8	88.2	5.9	0.0	0.0
	250～300万円未満 (n=36)	50.0	22.2	22.2	30.6	33.3	13.9	86.1	11.1	8.3	0.0
	300～400万円未満 (n=50)	54.0	28.0	32.0	36.0	44.0	14.0	86.0	6.0	2.0	2.0
	400～600万円未満 (n=47)	66.0	36.2	31.9	27.7	34.0	10.6	83.0	8.5	2.1	0.0
	600～800万円未満 (n=13)	76.9	38.5	46.2	23.1	15.4	7.7	92.3	0.0	7.7	0.0
	800～1,000万円未満 (n=2)	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1,000万円以上 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
末子の年代別	0歳～5歳 (n=34)	38.2	23.5	35.3	29.4	32.4	23.5	73.5	8.8	11.8	0.0
	6歳～11歳 (n=95)	55.8	28.4	28.4	22.1	33.7	20.0	81.1	7.4	2.1	0.0
	12歳～14歳 (n=61)	65.6	18.0	32.8	41.0	45.9	6.6	91.8	4.9	1.6	0.0
	15歳～18歳 (n=87)	63.2	26.4	27.6	29.9	35.6	9.2	88.5	6.9	2.3	1.1
回答者の年代別	20歳代 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	30歳代 (n=58)	39.7	34.5	37.9	32.8	41.4	15.5	89.7	8.6	1.7	0.0
	40歳代 (n=151)	63.6	23.2	27.8	25.2	36.4	16.6	80.8	7.3	4.0	0.0
	50歳代 (n=78)	64.1	19.2	26.9	30.8	29.5	5.1	84.6	6.4	3.8	1.3
	60歳代以上 (n=3)	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

## ◆将来の不安

将来の不安は、「子どもの教育費や将来のこと(80.1%)」が最も高く、「生活費が足りなくなること(73.0%)」、「自分の老後のこと(59.8%)」が続いている。「特にない」は3.7%である。

平成30年調査でも同様に、「子どもの教育費や将来のこと(76.5%)」が最も高く、「生活費が足りなくなること(67.0%)」、「自分の老後のこと(60.3%)」が続いている。

将来の不安(全体):複数回答【経年比較】



## 第2章 調査結果

世帯年収別にみると、収入はない(0円)と250～300万円未満で「生活費が足りなくなること」が最も高く、600～800万円未満で「自分の老後のこと」が最も高くなっている。100万円未満、100～200万円未満、200～250万円未満、300～400万円未満と400～600万円未満で「子どもの教育費や将来のこと」が最も高くなっている。

末子の年代別にみると、0歳～14歳の各層で「子どもの教育費や将来のこと」が最も高くなっている。15歳～18歳では「生活費が足りなくなること(80.5%)」が最も高くなっている。

回答者の年代別では、30歳代、40歳代、50歳代の層で「子どもの教育費や将来のこと」が最も高くなっている。

将来の不安(全体、世帯年収別、末子の年代別、回答者の年代別):複数回答

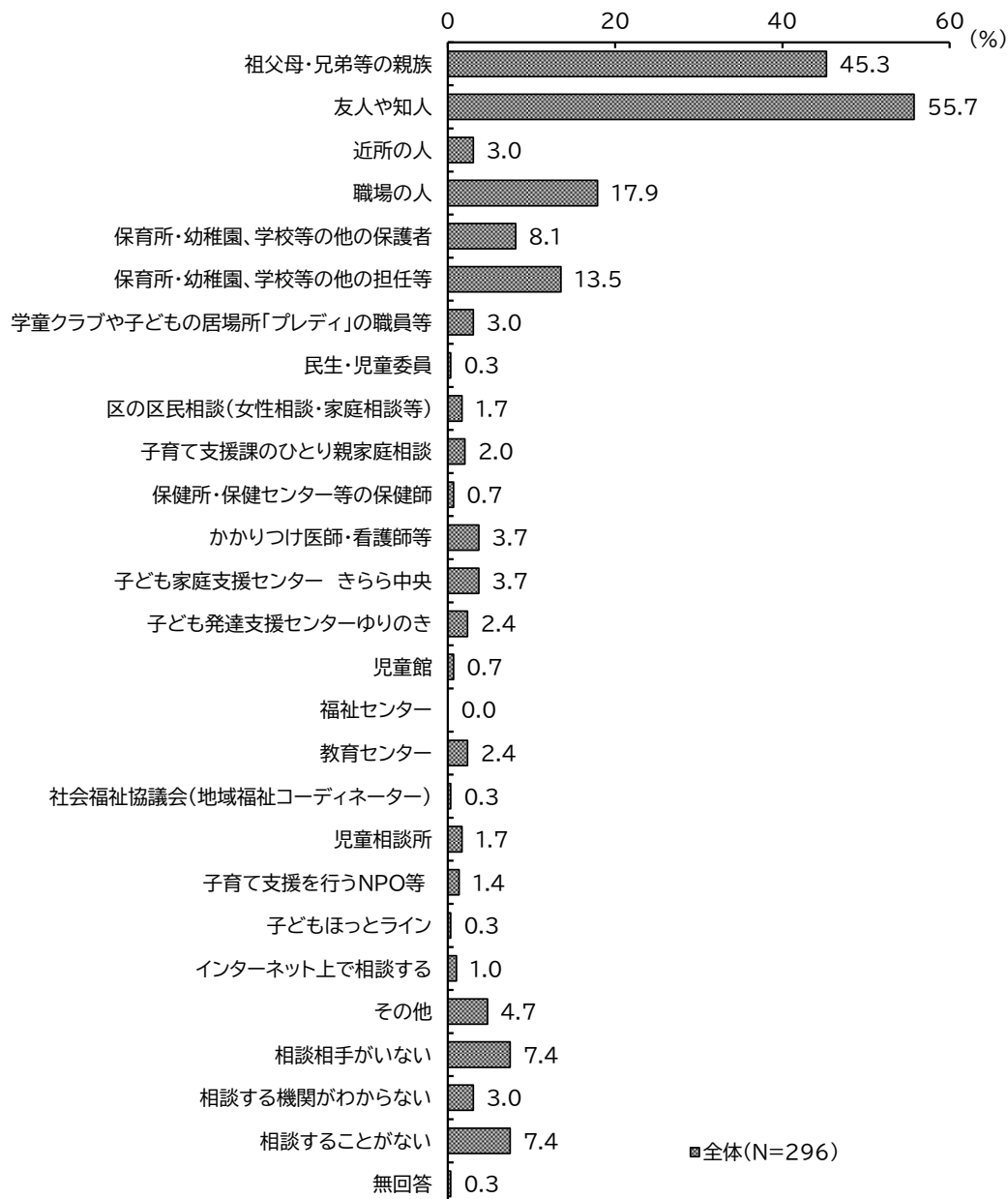
		(%)									
		生活費が足りなくなること	就職かどうかができるか	今の仕事が続けられるかどうか	自分の親の介護	子どもの教育費や将来のこと	再婚	自分の老後のこと	その他	特にない	無回答
全	体 (N=296)	73.0	23.0	37.5	40.2	80.1	11.5	59.8	2.7	3.7	0.0
世帯年収別	収入はない(0円) (n=18)	77.8	33.3	11.1	27.8	66.7	22.2	27.8	5.6	0.0	0.0
	100万円未満 (n=35)	68.6	31.4	28.6	37.1	77.1	2.9	68.6	0.0	2.9	0.0
	100～200万円未満 (n=57)	75.4	22.8	40.4	45.6	80.7	12.3	57.9	5.3	5.3	0.0
	200～250万円未満 (n=34)	73.5	23.5	32.4	35.3	79.4	11.8	64.7	2.9	2.9	0.0
	250～300万円未満 (n=36)	83.3	33.3	38.9	52.8	77.8	11.1	61.1	5.6	5.6	0.0
	300～400万円未満 (n=50)	80.0	22.0	46.0	42.0	94.0	18.0	52.0	0.0	0.0	0.0
	400～600万円未満 (n=47)	66.0	12.8	42.6	36.2	83.0	6.4	70.2	2.1	2.1	0.0
	600～800万円未満 (n=13)	61.5	7.7	53.8	30.8	69.2	15.4	76.9	0.0	7.7	0.0
	800～1,000万円未満 (n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
1,000万円以上 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
末子の年代別	0歳～5歳 (n=34)	70.6	14.7	35.3	26.5	73.5	20.6	52.9	2.9	5.9	0.0
	6歳～11歳 (n=95)	70.5	32.6	30.5	37.9	86.3	12.6	53.7	4.2	2.1	0.0
	12歳～14歳 (n=61)	72.1	14.8	39.3	42.6	85.2	9.8	59.0	1.6	3.3	0.0
	15歳～18歳 (n=87)	80.5	26.4	47.1	44.8	77.0	8.0	69.0	2.3	2.3	0.0
回答者の年代別	20歳代 (n=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n=58)	77.6	29.3	44.8	39.7	82.8	20.7	56.9	0.0	1.7	0.0
	40歳代 (n=151)	68.9	27.8	35.1	39.7	81.5	12.6	53.0	4.0	4.6	0.0
	50歳代 (n=78)	75.6	11.5	34.6	44.9	75.6	3.8	75.6	2.6	2.6	0.0
	60歳代以上 (n=3)	100.0	0.0	66.7	33.3	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

## (4)子育てに関する悩みや不安の相談相手・機関(問 28)

子育てに関する悩みや不安の相談相手・機関は、「友人や知人(55.7%)」が最も高く、「祖父母・兄弟等の親族(45.3%)」、「職場の人(17.9%)」が続いている。「相談相手がいない」は7.4%である。

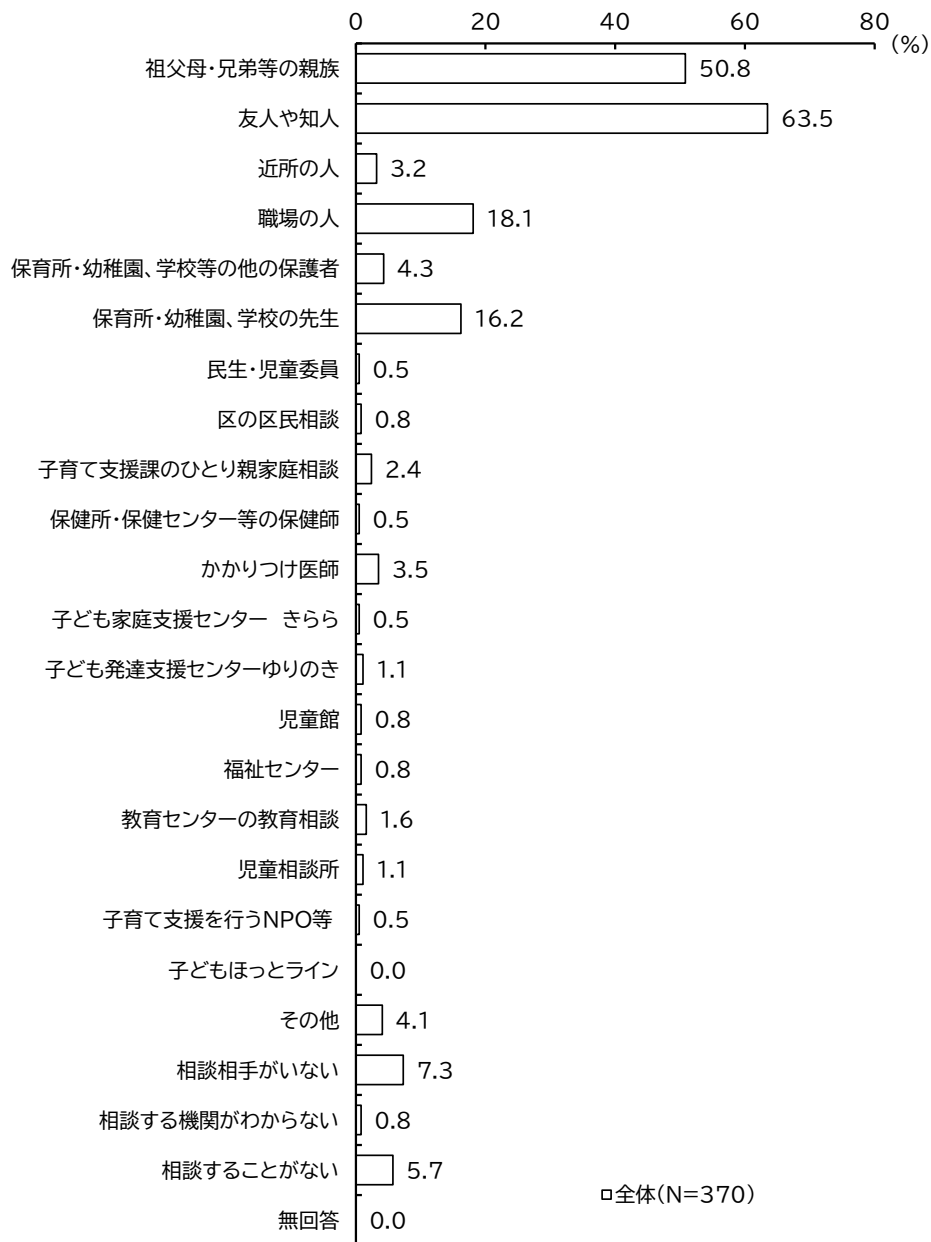
平成30年調査でも同様に、「友人や知人(63.5%)」が最も高く、「祖父母・兄弟等の親族(50.8%)」、「職場の人(18.1%)」が続いている。「相談相手がいない」は7.3%である。

子育てに関する悩みや不安の相談相手・機関(全体):複数回答【令和5年】



## 第2章 調査結果

子育てに関する悩みや不安の相談相手・機関(全体):複数回答【平成 30 年】





# I ひとり親家庭実態調査

末子の年代別にみると、6歳～11歳では「祖父母・兄弟等の親族(50.5%)」が最も高く、その他の層では「友人や知人」が最も高くなっている。0歳～5歳では、「職場の人(35.3%)」が17.4ポイント、「保育所・幼稚園、学校等の他の担任等(38.2%)」が24.7ポイント、「子ども家庭支援センターきらら中央(14.7%)」が11.0ポイントそれぞれ全体よりも高くなっている。

子育てに関する悩みや不安の相談相手・機関(全体、末子の年代別):複数回答

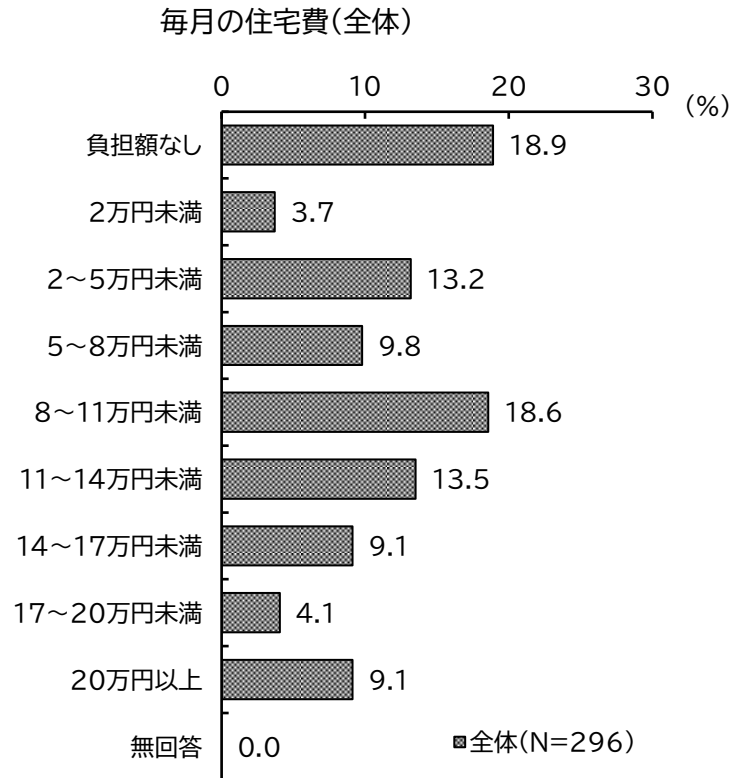
		祖父母・兄弟等の親族	友人や知人	近所の人	職場の人	の保育所・幼稚園、学校等の他の保護者	の保育所・幼稚園、学校等の他の担任等	等場所「プレデイ」の職員	学童クラブや子どもの居	民生・児童委員	談・家庭相談(女性相談)	家庭相談	子育て支援課のひとり親	の保健師・保健センター等	等かかりつけ医師・看護師	子ども家庭支援センターきらら中央	子ども発達支援センターゆりのき
全	体 (N=296)	45.3	55.7	3.0	17.9	8.1	13.5	3.0	0.3	1.7	2.0	0.7	3.7	3.7	2.4		
末子の年代別	0歳～5歳 (n=34)	52.9	64.7	5.9	35.3	14.7	38.2	5.9	0.0	2.9	0.0	5.9	11.8	14.7	8.8		
	6歳～11歳 (n=95)	50.5	46.3	5.3	14.7	15.8	16.8	5.3	1.1	2.1	2.1	0.0	4.2	4.2	2.1		
	12歳～14歳 (n=61)	36.1	57.4	1.6	24.6	4.9	13.1	1.6	0.0	3.3	1.6	0.0	1.6	1.6	1.6		
	15歳～18歳 (n=87)	41.4	59.8	1.1	10.3	1.1	3.4	1.1	0.0	0.0	2.3	0.0	2.3	1.1	1.1		

		児童館	福祉センター	教育センター	社会福祉協議会(地域福祉コーデイネーター)	児童相談所	子育て支援を行うNPO等	子どもほっとライン	インターネット上で相談する	その他	相談相手がいない	相談する機関がわからない	相談することがない	無回答
全	体 (N=296)	0.7	0.0	2.4	0.3	1.7	1.4	0.3	1.0	4.7	7.4	3.0	7.4	0.3
末子の年代別	0歳～5歳 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0	5.9	0.0	8.8	0.0
	6歳～11歳 (n=95)	1.1	0.0	5.3	0.0	1.1	2.1	0.0	1.1	4.2	12.6	3.2	5.3	0.0
	12歳～14歳 (n=61)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	1.6	1.6	1.6	9.8	3.3	3.3	6.6	0.0
	15歳～18歳 (n=87)	0.0	0.0	2.3	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	4.6	5.7	4.6	10.3	1.1

### (5)毎月の住宅費(問 29)

毎月の住宅費は、「負担額なし(18.9%)」が最も高く、「8～11 万円未満(18.6%)」、「11～14 万円未満(13.5%)」が続いている。



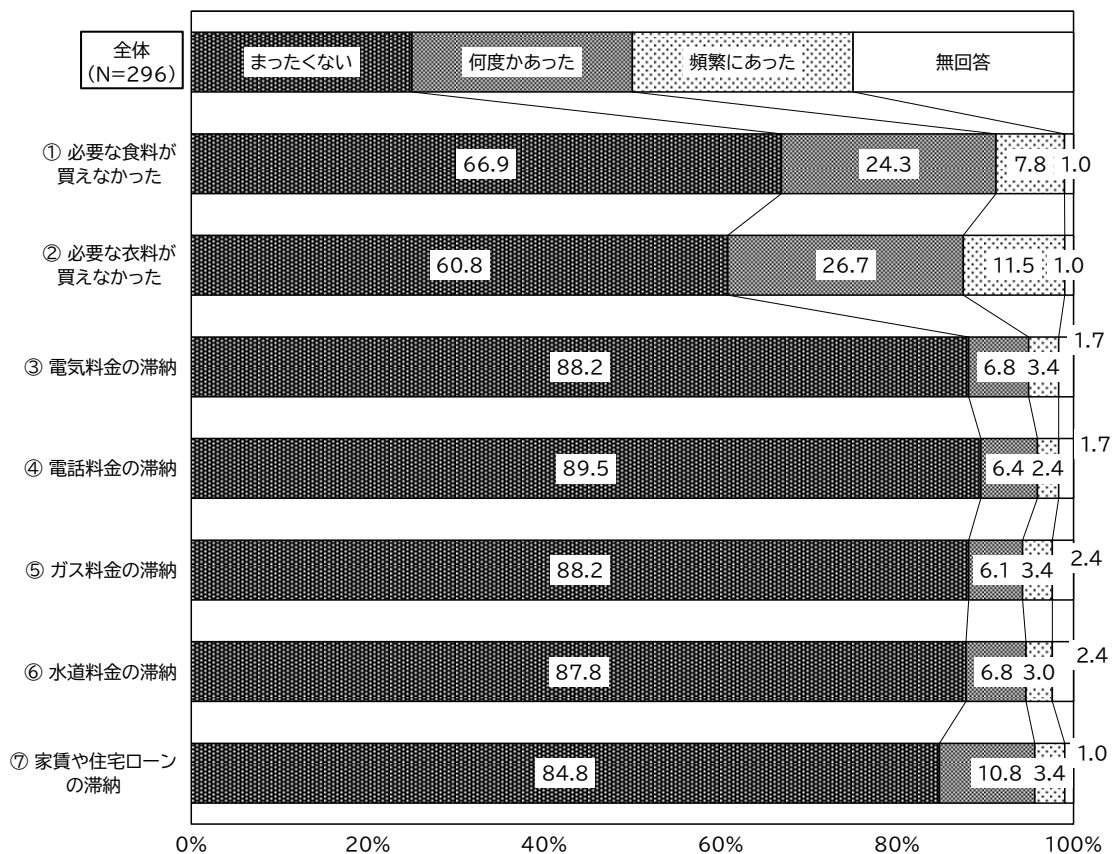
※住宅ローンのボーナス払い分は毎月の住宅費に上乗せしている。

## (6)経済的な理由による困窮経験(問 30)

経済的な理由による困窮経験は、《あった》(「何度かあった」と「頻繁にあった」の合計)の割合が『②必要な衣料が買えなかった(38.2%)』と『①必要な食料が買えなかった(32.1%)』で高く、『④電話料金の滞納(8.8%)』で最も低くなっている。

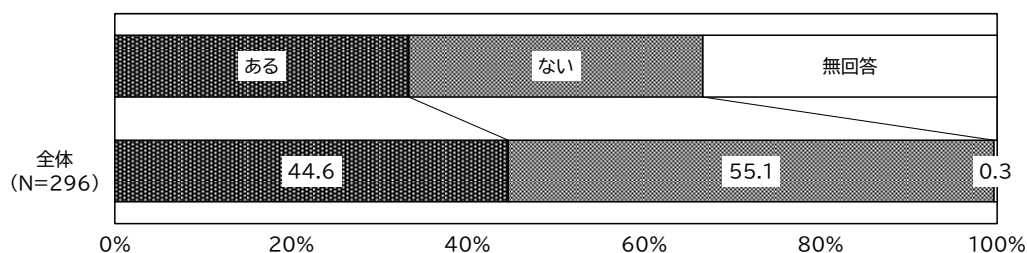
経済的な理由による困窮経験の有無は、「ある」が 44.6%となっている。なお、困窮経験の①～⑦の項目で、1つでも「何度かあった」と「頻繁にあった」と回答した人を「ある」としている。

経済的な理由による困窮経験(全体)



経済的な理由による困窮経験の有無(全体)

<経済的な理由による困窮経験の①～⑦の項目で、1つでも「何度かあった」もしくは「頻繁にあった」と回答した人を「ある」としている>



## 第2章 調査結果

経済的な理由による困窮経験の有無について、年代別で見ると、40歳代以上の「ある」が 47.7%と最も高くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域で「ある」が4割を超えている。

末子の年代別にみると、15歳～18歳の「ある」が 58.6%と5割を超えている。

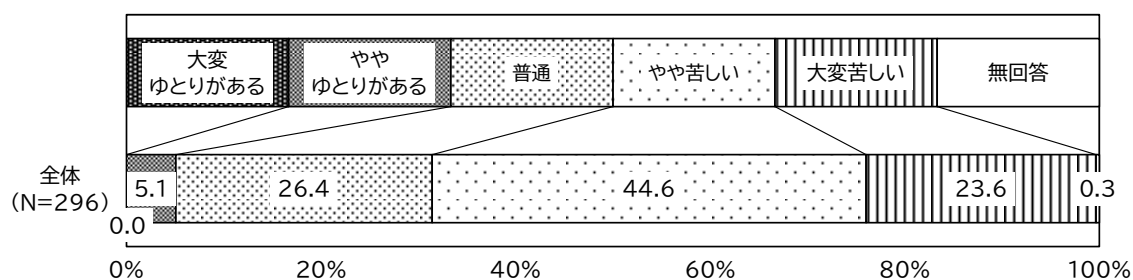
経済的な困窮経験の有無(全体、性別、年代別、居住地域別、末子の年代別)  
 <経済的な理由による困窮経験の①～⑦の項目で、1つでも「何度かあった」もしくは「頻繁にあった」と回答した人を「ある」としている>

		(%)		
		ある	ない	無回答
全	体 (N=296)	44.6	55.1	0.3
性別	男 性 (n= 12)	33.3	66.7	0.0
	女 性 (n=283)	45.2	54.4	0.4
年代別	30 歳 代 (n= 58)	39.7	58.6	1.7
	40 歳 代 (n=151)	47.7	52.3	0.0
	50 歳 代 (n= 78)	43.6	56.4	0.0
	60 歳 代 以 上 (n= 3)	33.3	66.7	0.0
居住地域別	京 橋 地 域 (n= 60)	41.7	58.3	0.0
	日 本 橋 地 域 (n= 80)	48.2	50.6	1.2
	月 島 地 域 (n=153)	43.8	56.2	0.0
末子の年代別	0 歳 ～ 5 歳 (n= 34)	23.5	73.5	2.9
	6 歳 ～ 11 歳 (n= 95)	45.3	54.7	0.0
	12 歳 ～ 14 歳 (n= 61)	37.7	62.3	0.0
	15 歳 ～ 18 歳 (n= 87)	58.6	41.4	0.0

### (7)経済的な困り感(問 31)

経済的な困り感は、《ゆとりがある》(「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」の合計)の割合が 5.1%、《苦しい》(「やや苦しい」と「大変苦しい」の合計)の割合が 68.2%となっている。

経済的な困り感(全体)



### (8)中央区が実施するひとり親向け事業の認知度(問 32)

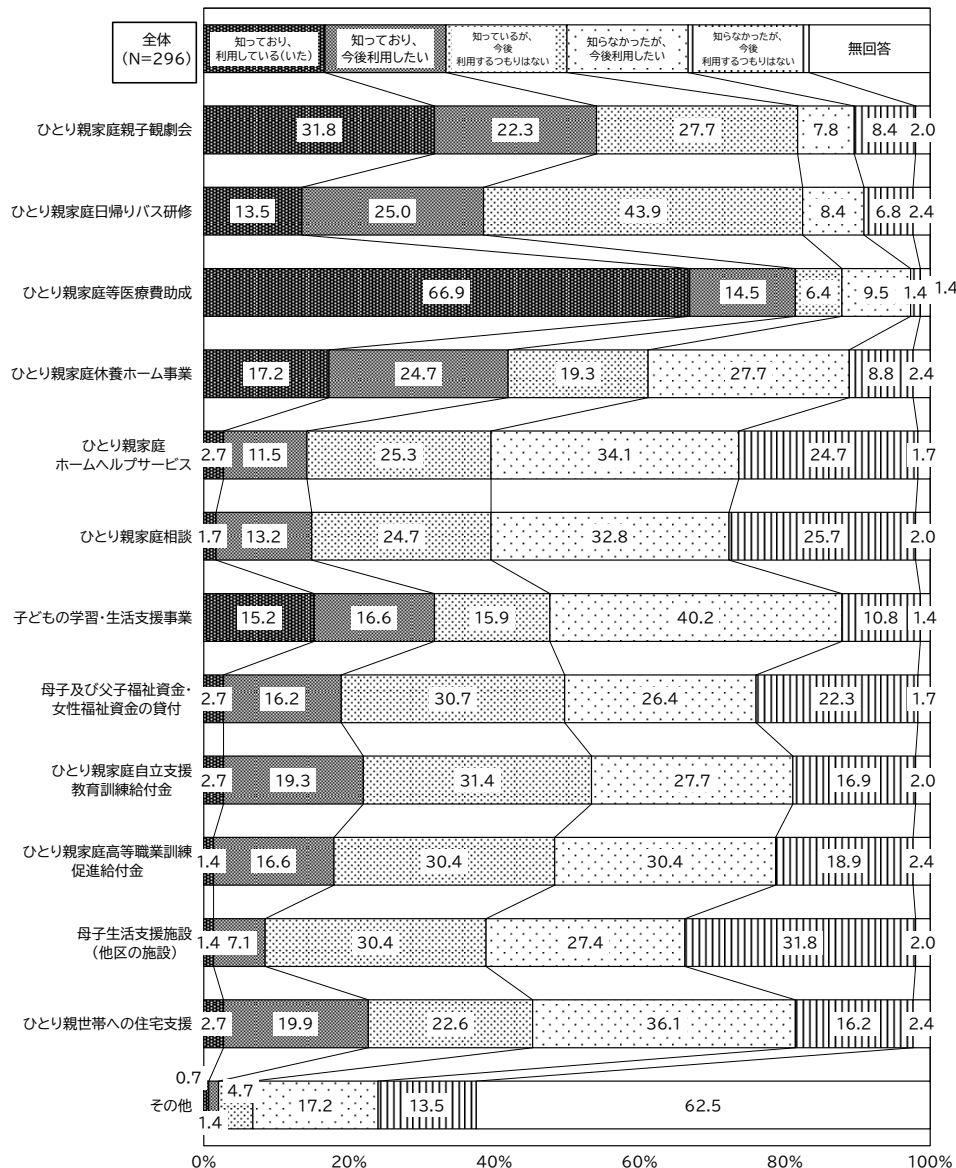
中央区が実施するひとり親向け事業の認知度は、《制度を知っていた》(「知っており、利用している(いた)」と「知っており、今後利用したい」)の割合が『ひとり親家庭等医療費助成(87.8%)』で最も高く、『ひとり親家庭日帰りバス研修(82.4%)』、『ひとり親家庭親子観劇会(81.8%)』が続いている。

また、「知っており、今後利用したい」の割合は、『ひとり親家庭日帰りバス研修(25.0%)』で最も高く、『ひとり親家庭休養ホーム事業(24.7%)』、『ひとり親家庭親子観劇会(22.3%)』が続いている。

《制度を知らなかった》(「知らなかったが、今後利用したい」と「知らなかったが、今後利用するつもりはない」の合計)の割合が『母子生活支援施設(他区の施設)(59.2%)』で最も高く、『ひとり親家庭ホームヘルプサービス(58.8%)』、『ひとり親家庭相談(58.5%)』が続いている。

また、「知らなかったが、今後利用したい」の割合は、『子どもの学習・生活支援事業(40.2%)』で最も高く、『ひとり親世帯への住宅支援(36.1%)』、『ひとり親家庭ホームヘルプサービス(34.1%)』が続いている。

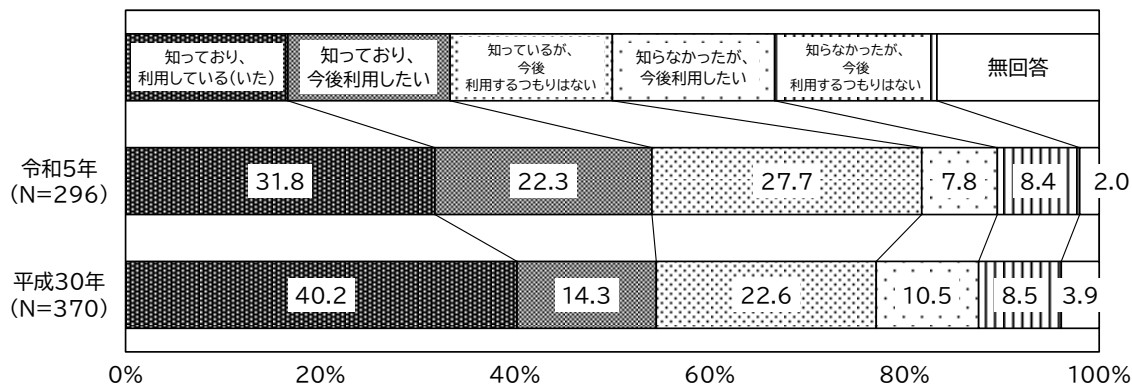
ひとり親向け事業の認知度(全体)



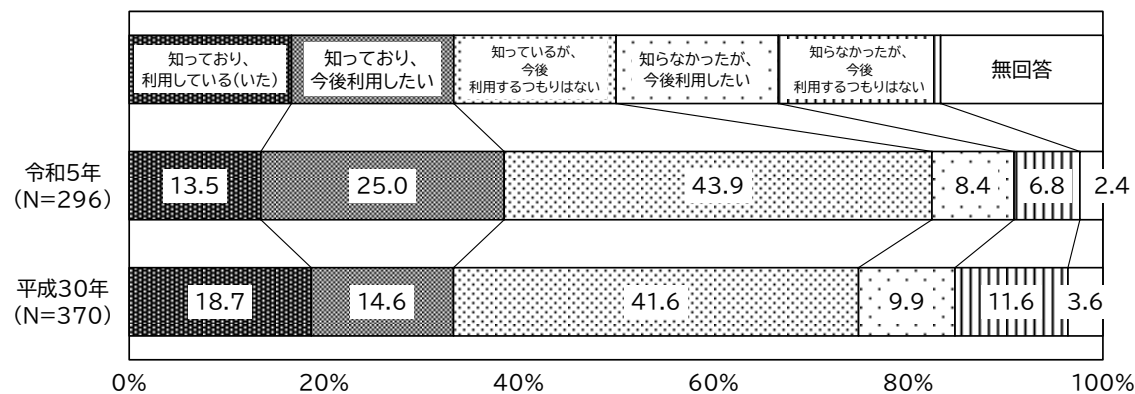
## 第2章 調査結果

平成30年調査と比較すると、令和5年調査では、すべての事業で《制度を知っていた》の割合が高くなっている。なお、『ひとり親世帯への住宅支援』は令和5年の調査から新設された項目である。

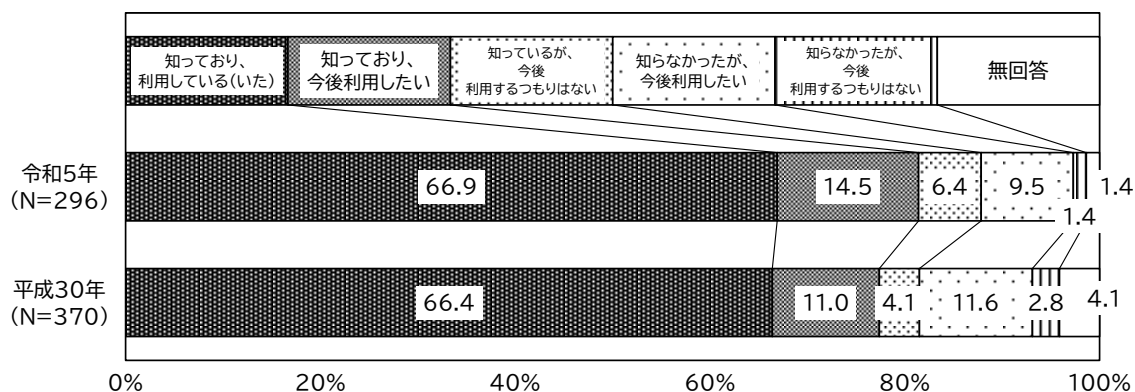
### ひとり親家庭親子観劇会(全体)【経年比較】



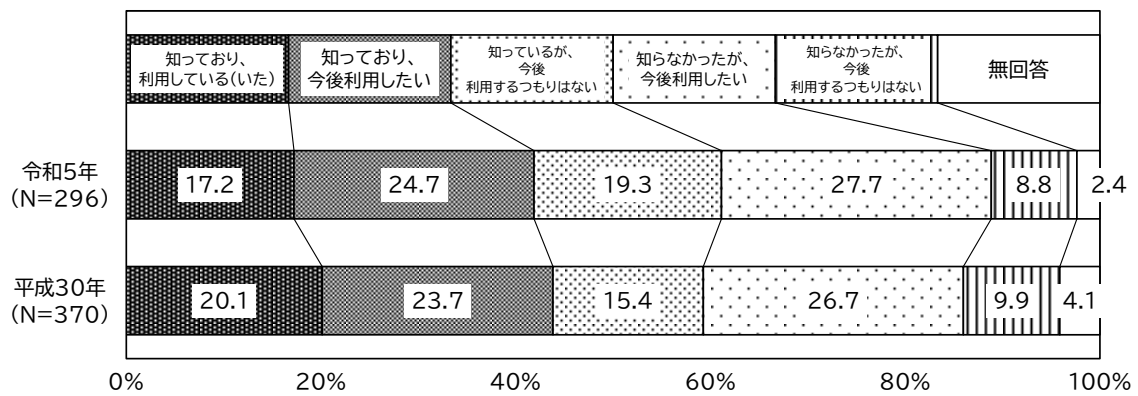
### ひとり親家庭日帰りバス研修(全体)【経年比較】



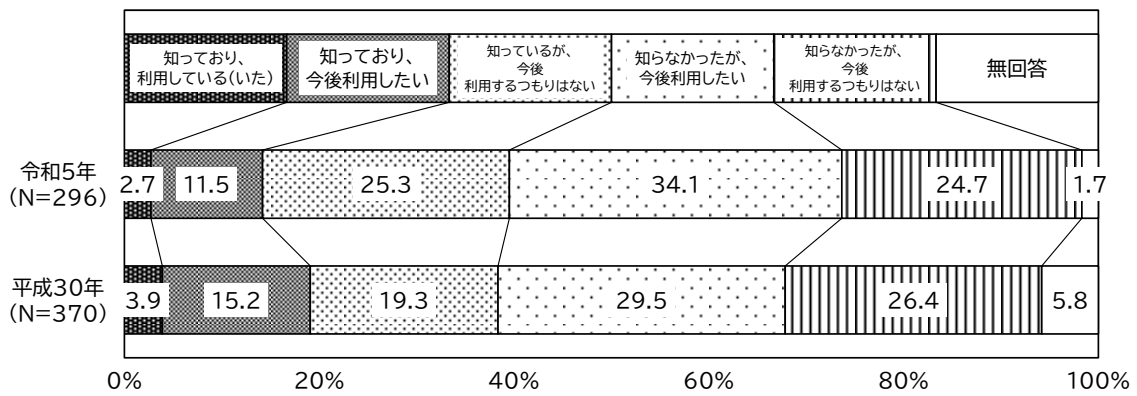
### ひとり親家庭等医療費助成(全体)【経年比較】



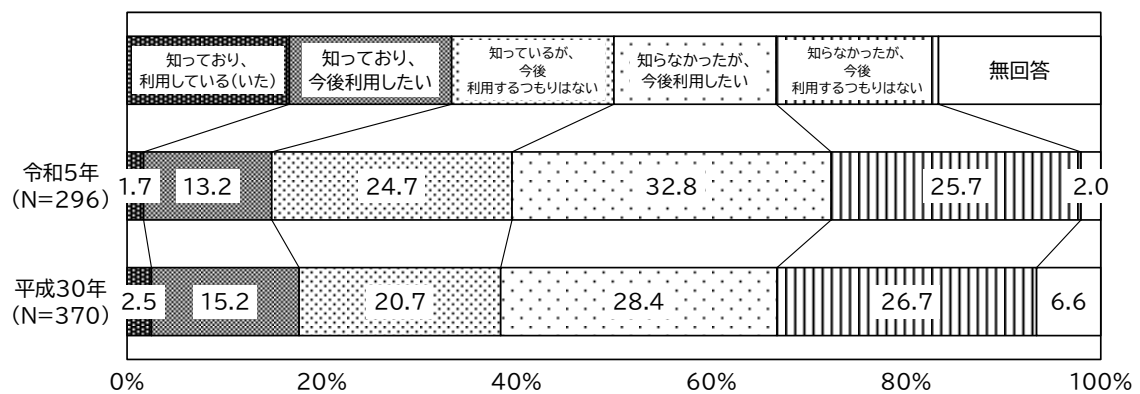
ひとり親家庭休養ホーム事業(全体)【経年比較】



ひとり親家庭ホームヘルプサービス(全体)【経年比較】

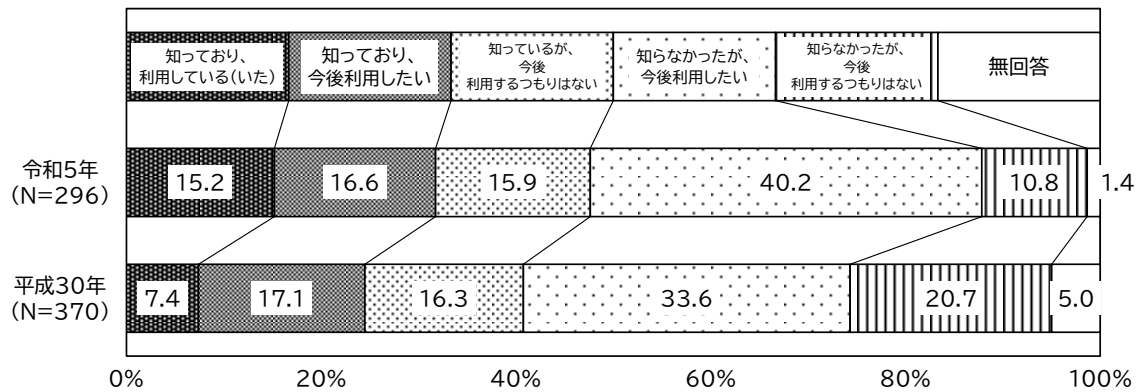


ひとり親家庭相談(全体)【経年比較】

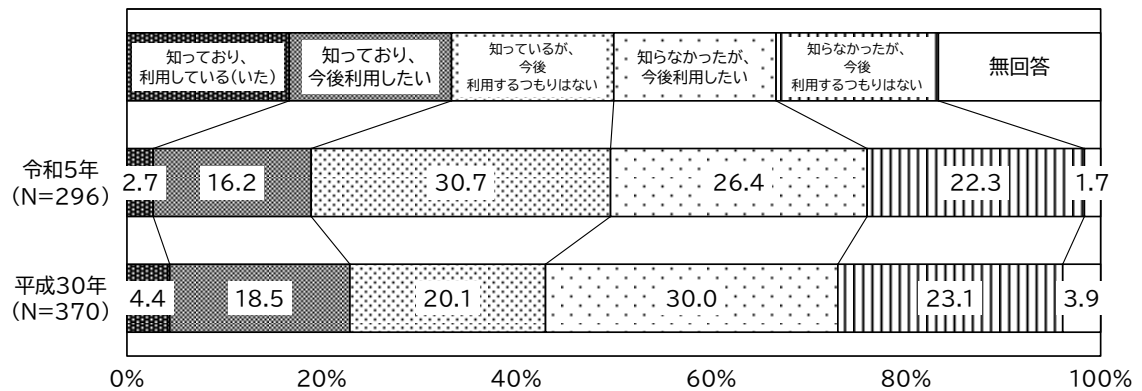


## 第2章 調査結果

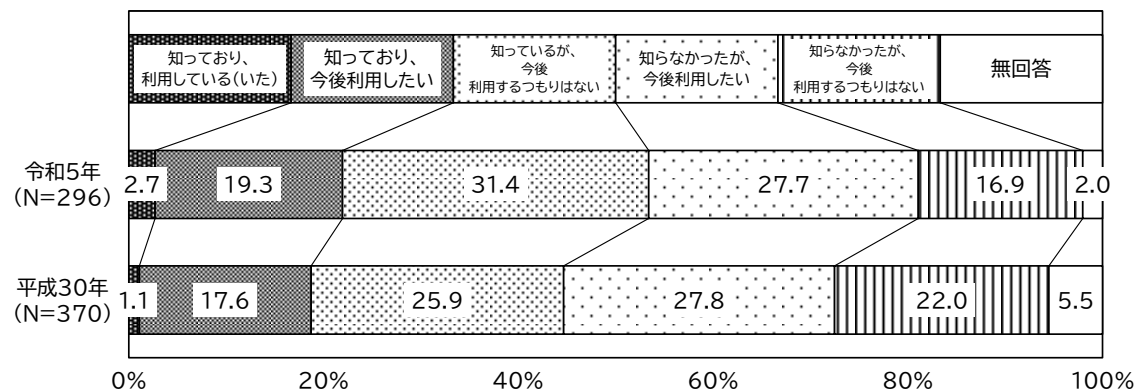
### 子どもの学習・生活支援事業(全体)【経年比較】



### 母子及び父子福祉資金・女性福祉資金の貸付(全体)【経年比較】

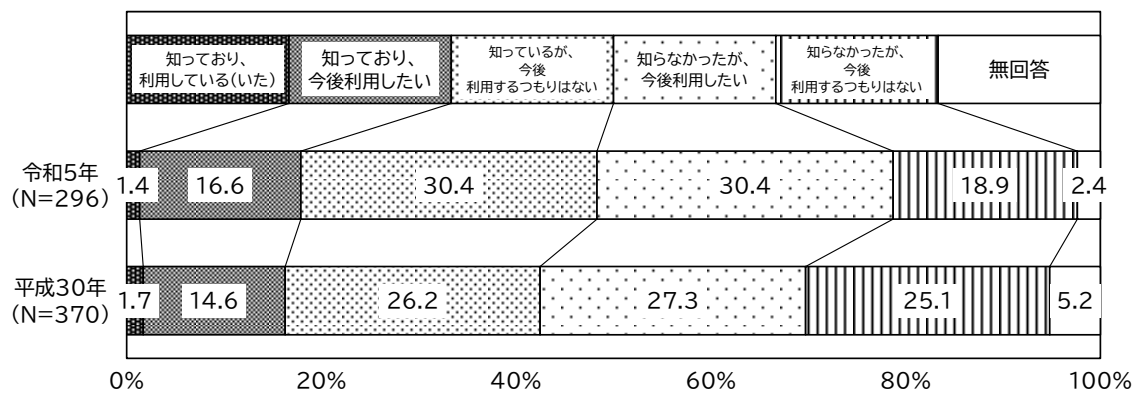


### ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金(全体)【経年比較】

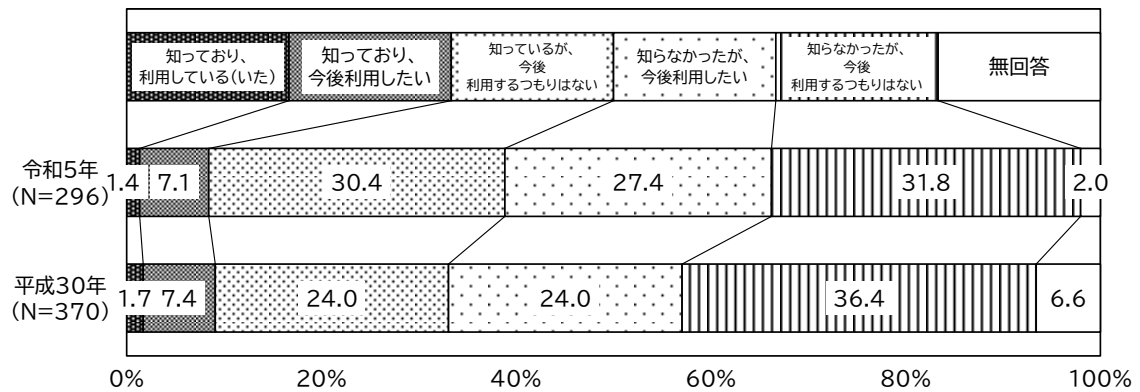




ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金(全体)【経年比較】



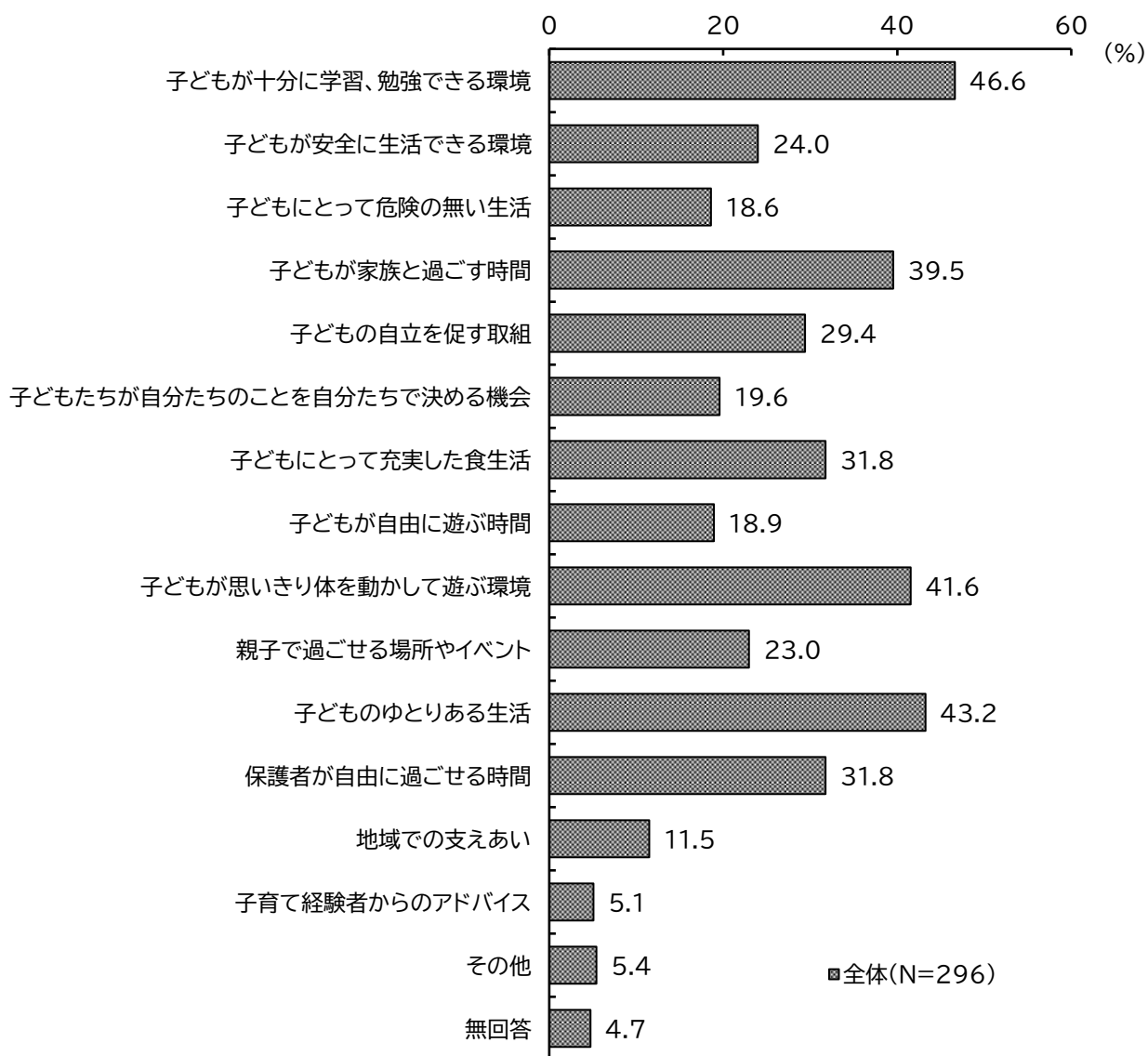
母子生活支援施設(他区の施設)(全体)【経年比較】



### (9)子育てをするうえで足りていないと感じること(問 33)

子育てをするうえで足りていないと感じることは、「子どもが十分に学習、勉強できる環境(46.6%)」が最も高く、「子どものゆとりある生活(43.2%)」、「子どもが思いきり体を動かして遊ぶ環境(41.6%)」が続いている。

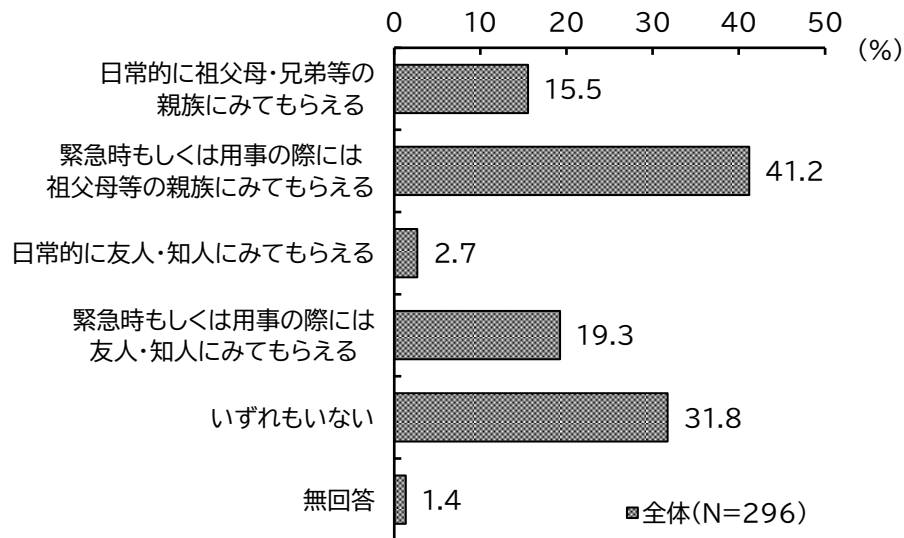
子育てをするうえで足りていないと感じること(全体):複数回答



## (10)子どもを保護者に代わってしてくれる親族・知人の有無(問 34)

子どもを保護者に代わってしてくれる親族・知人の有無は、「緊急時もしくは用事の際には祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる(41.2%)」が最も高く、「緊急時もしくは用事の際には友人・知人にみてもらえる(19.3%)」が続いている。「いずれもない」は、31.8%である。

子どもを保護者に代わってしてくれる親族・知人の有無(全体)



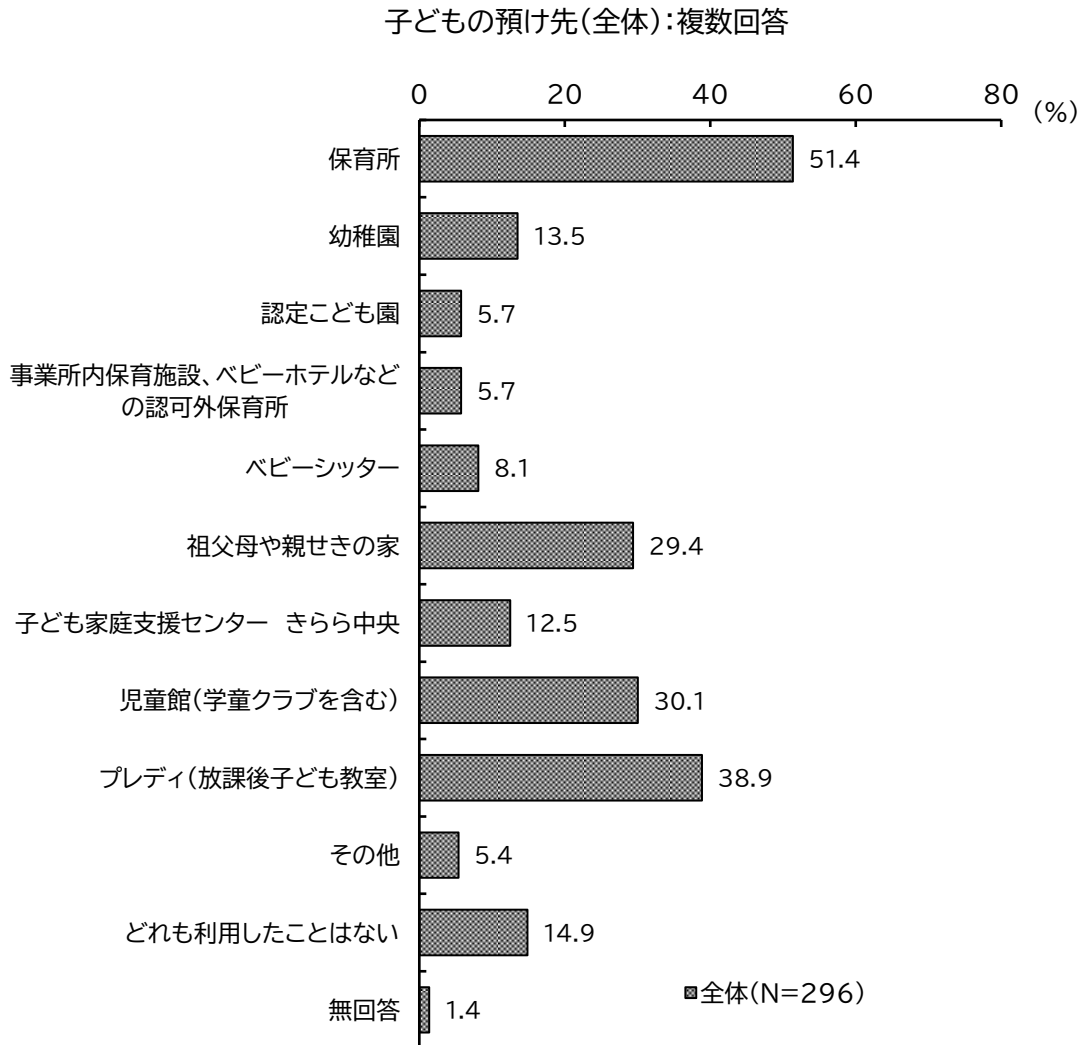
末子の年代別に見ると、0歳～5歳で「いずれもない(47.1%)」が4割台で高くなっている。

子どもを保護者に代わってしてくれる親族・知人の有無(全体、末子の年代別)

		日常的に祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に友人・知人にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には友人・知人にみてもらえる	いずれもない	無回答
全	体 (N=296)	15.5	41.2	2.7	19.3	31.8	1.4
末子の年代別	0歳～5歳 (n=34)	20.6	29.4	2.9	14.7	47.1	0.0
	6歳～11歳 (n=95)	15.8	47.4	3.2	13.7	29.5	1.1
	12歳～14歳 (n=61)	9.8	47.5	3.3	26.2	32.8	0.0
	15歳～18歳 (n=87)	16.1	36.8	2.3	20.7	31.0	1.1

### (11)子どもの預け先(問 35)

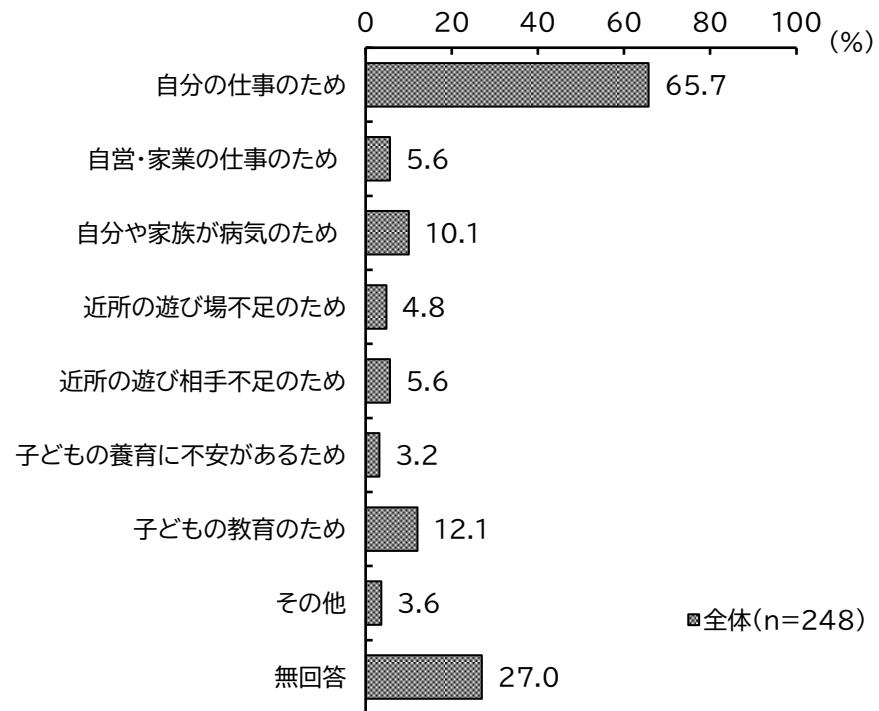
子どもの預け先は、「保育所(51.4%)」が最も高く、「プレディ(放課後子ども教室)(38.9%)」、「児童館(学童クラブを含む)(30.1%)」が続いている。「どれも利用したことはない」は、14.9%である。



## (12)子どもを預けた理由(問 35-1)

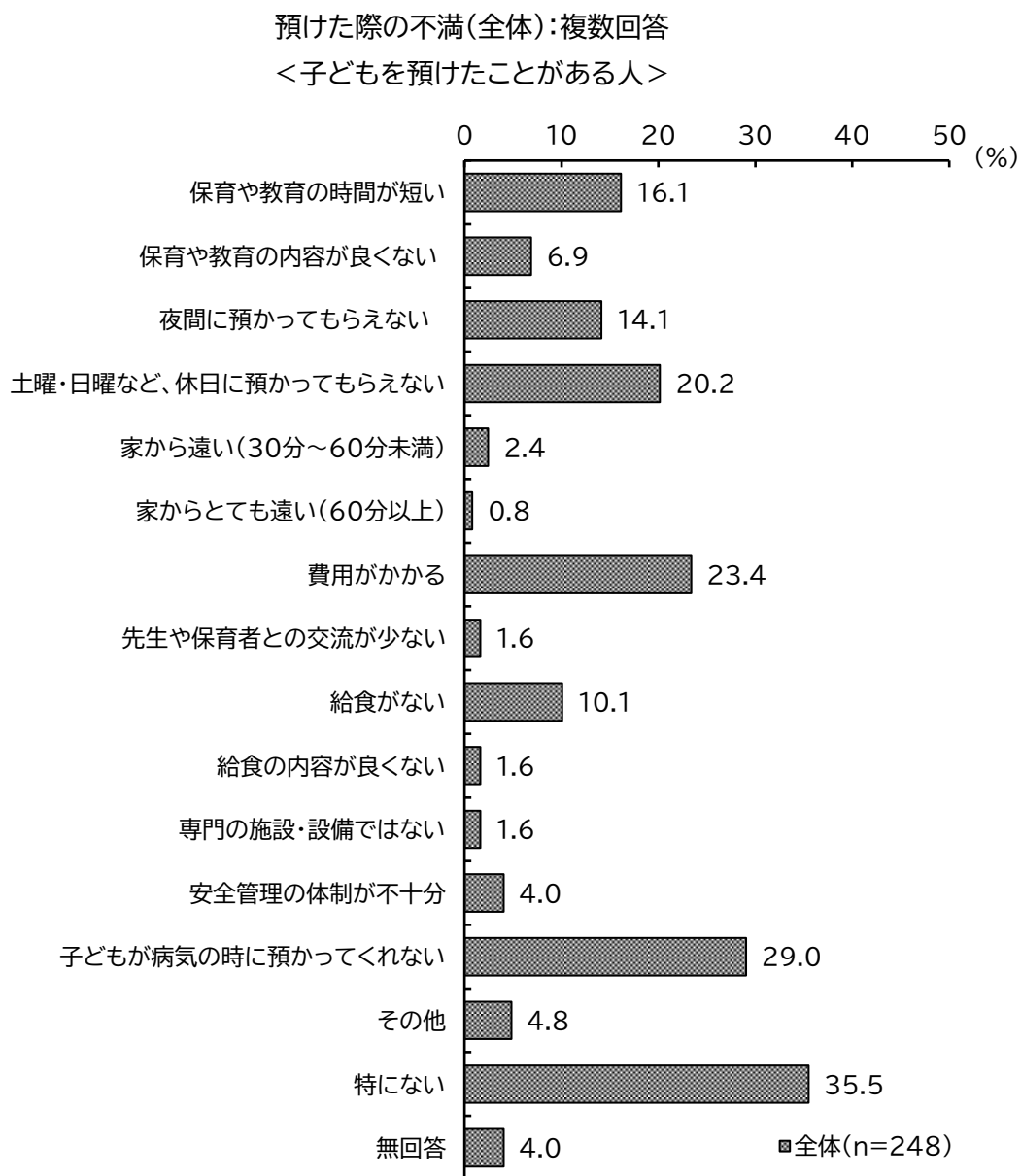
子どもを預けたことがある人に、子どもを預けた理由をたずねたところ、「自分の仕事のため(65.7%)」が最も高く、「子どもの教育のため(12.1%)」、「自分や家族が病気のため(10.1%)」が続いている。

子どもを預けた理由(全体):複数回答  
 <子どもを預けたことがある人>



### (13)預けた際の不満(問 35-2)

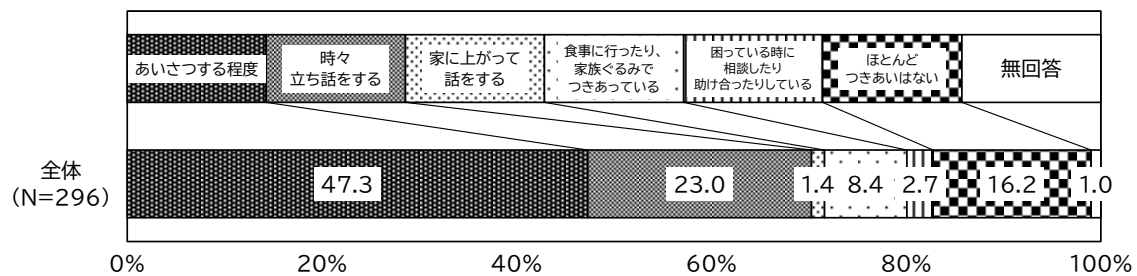
子どもを預けたことがある人に、預けた際の不満をたずねたところ、「子どもが病気のとくに預かってくれない(29.0%)」が最も高く、「費用がかかる(23.4%)」が続いている。「特にない」は 35.5% となっている。



## (14)近所づきあいの程度(問 36)

近所づきあいの程度は、「あいさつする程度(47.3%)」が最も高く、「時々立ち話をする(23.0%)」、「食事に行ったり、家族ぐるみでつきあっている(8.4%)」が続いている。「ほとんどつきあいはない」は、16.2%である。

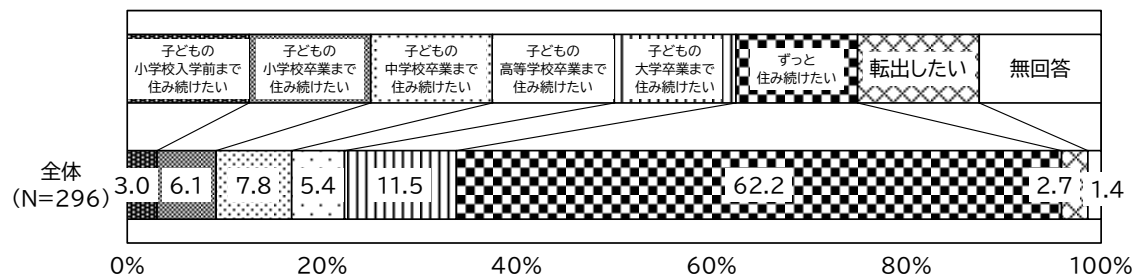
近所づきあいの程度(全体)



## (15)居留意向(問 37)

居留意向は、「ずっと住み続けたい(62.2%)」が最も高く、「子どもの大学卒業まで住み続けたい(11.5%)」、「子どもの中学校卒業まで住み続けたい(7.8%)」が続いている。

居留意向(全体)



## 第2章 調査結果

性別にみると、男性は、「ずっと住みたい(75.0%)」が7割を超えている。

居住地域別にみると、「ずっと住みたい」の割合は地域差があり、京橋地域では60.0%、日本橋地域では54.2%、月島地域では67.3%となっている。

末子の年代別にみると、それぞれ0歳～5歳では「子どもの小学校入学前まで住みたい(17.6%)」、6歳～11歳では「子どもの小学校卒業まで住みたい(12.6%)」、12歳～14歳では「子どもの中学校卒業までは住みたい(19.7%)」の割合が全体より高くなっている。また、「ずっと住みたい」の割合は6歳～11歳、15歳～18歳で6割を超えている。

居留意向(全体、性別、居住地域別、末子の年代別)

(%)

		前子 まど でも 住の み小 続学 け校 たい 入学	ま子 でど 住も みの 続小 け学 たい 卒業	ま子 でど 住も みの 続中 け学 たい 卒業	業子 まど でも 住の み高 続等 け学 たい 卒業	で子 ども 住も 続の け大 たい 学卒 業ま	ず つ と 住 み 続 け たい	転 出 し たい	無 回 答
全	体 (N=296)	3.0	6.1	7.8	5.4	11.5	62.2	2.7	1.4
性別	男 性 (n= 12)	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	75.0	0.0	0.0
	女 性 (n=283)	3.2	6.4	8.1	5.3	11.3	61.5	2.8	1.4
居住 地域	京 橋 地 域 (n= 60)	3.3	6.7	6.7	5.0	15.0	60.0	1.7	1.7
	日 本 橋 地 域 (n= 80)	4.8	7.2	12.0	6.0	13.3	54.2	1.2	1.2
	月 島 地 域 (n=153)	2.0	5.2	5.9	5.2	9.2	67.3	3.9	1.3
末子 の 年代 別	0 歳 ~ 5 歳 (n= 34)	17.6	8.8	8.8	0.0	2.9	55.9	2.9	2.9
	6 歳 ~ 11 歳 (n= 95)	3.2	12.6	8.4	2.1	6.3	65.3	1.1	1.1
	12 歳 ~ 14 歳 (n= 61)	0.0	4.9	19.7	6.6	11.5	54.1	3.3	0.0
	15 歳 ~ 18 歳 (n= 87)	0.0	0.0	0.0	11.5	18.4	63.2	4.6	2.3

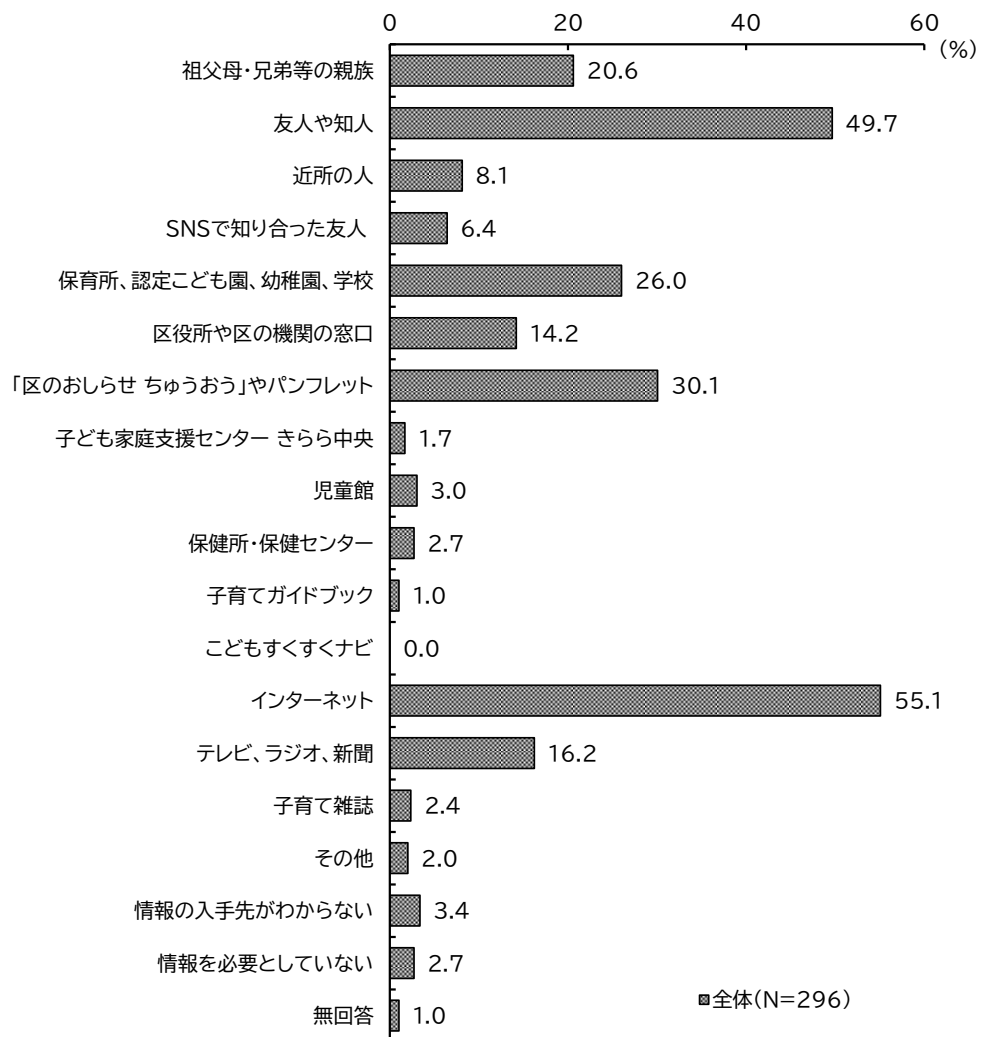


## (16)子育てに関する情報の入手先(問 38)

子育てに関する情報の入手先は、「インターネット(55.1%)」が最も高く、「友人や知人(49.7%)」、「区のおしらせ ちゅうおう」やパンフレット(30.1%)が続いている。「情報の入手先がわからない」は、3.4%となっている。

平成30年調査では「友人や知人(64.6%)」が最も高く、「インターネット(携帯電話、スマートフォン利用)(52.2%)」、「祖父母や兄弟等の親族(28.9%)」が続いている。

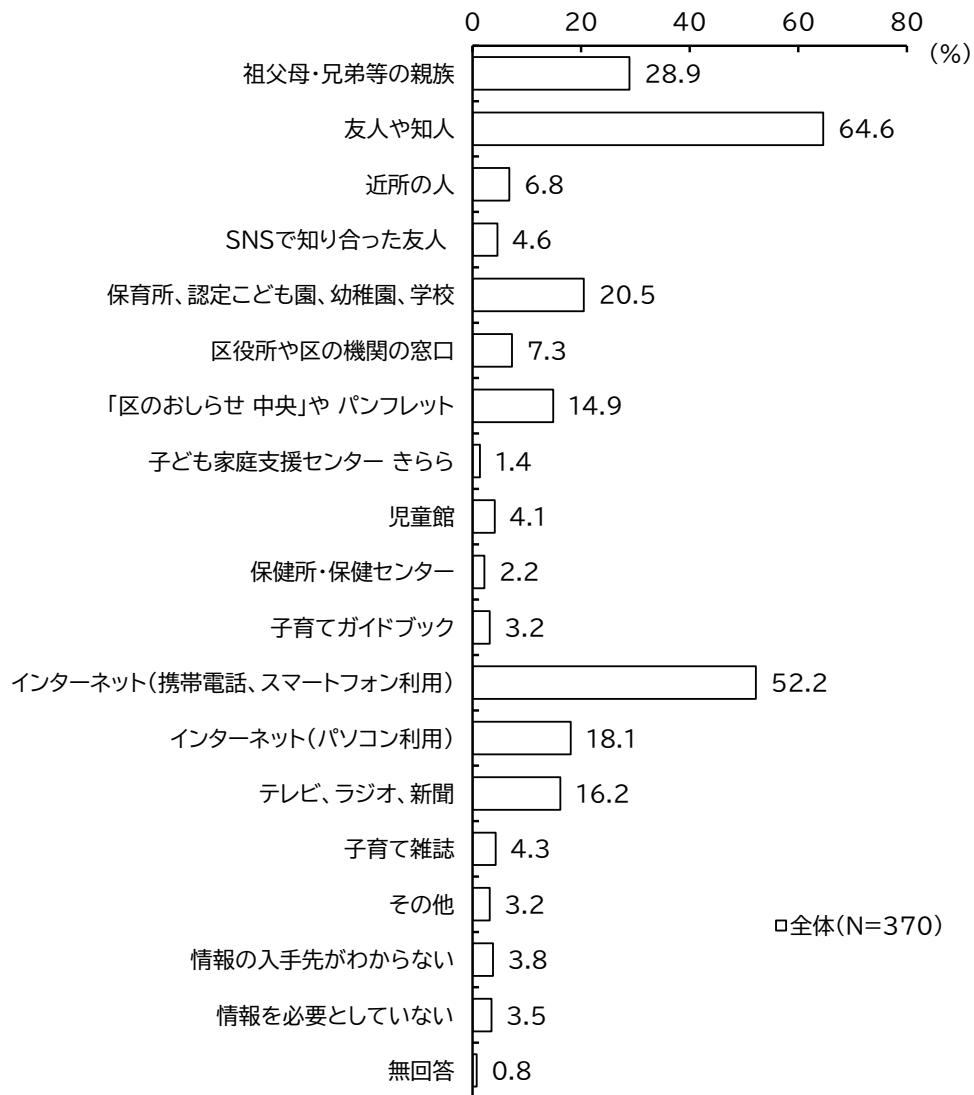
子育てに関する情報の入手先(全体):複数回答【令和5年】



※令和5年調査では、「こどもすくすくナビ」を追加している。

## 第2章 調査結果

子育てに関する情報の入手先(全体):複数回答【平成 30 年】

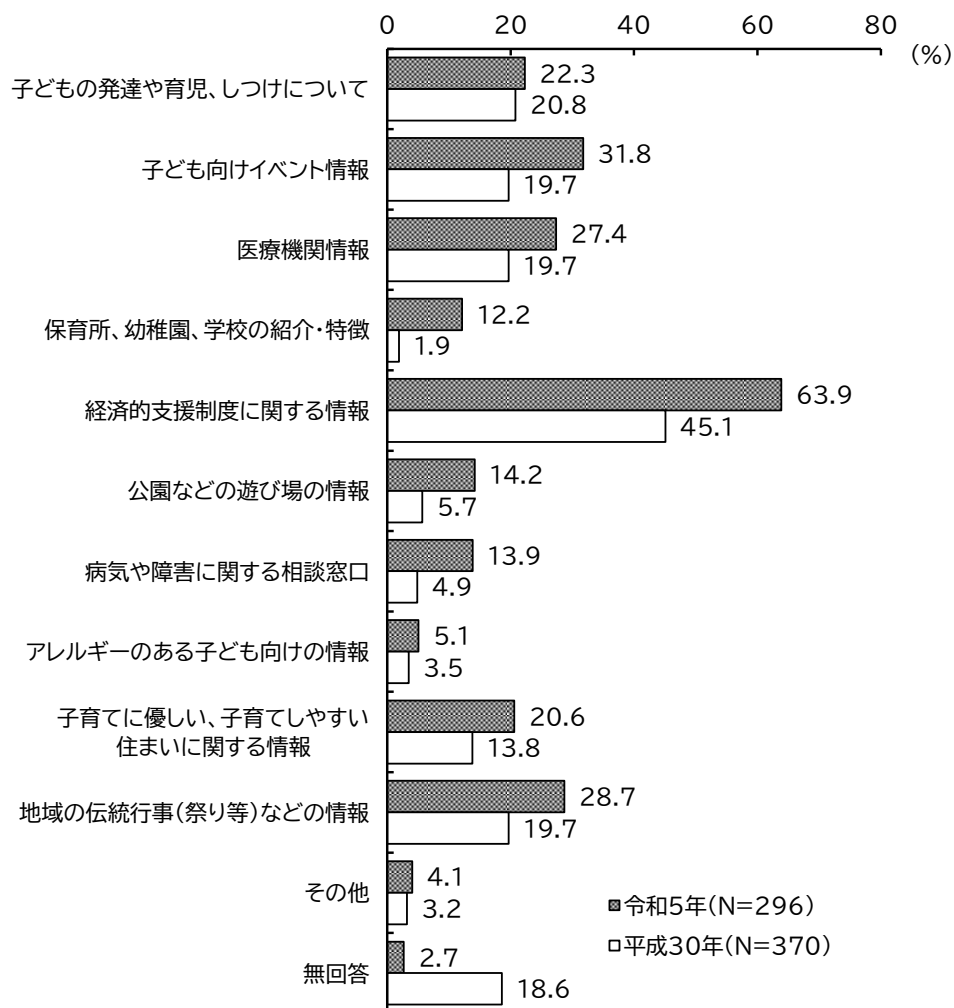


## (17)子育てに関してほしい情報(問 39)

子育てに関してほしい情報は、「経済的支援制度に関する情報(63.9%)」が最も高く、「子ども向けイベント情報(31.8%)」、「地域の伝統行事(祭り等)などの情報(28.7%)」が続いている。

平成30年調査では、「経済的支援制度に関する情報(45.1%)」が最も高く、「子どもの発達や育児、しつけについて(20.8%)」、「子ども向けイベント情報(19.7%)」、「医療機関情報(19.7%)」、「地域の伝統行事(祭り等)などの情報(19.7%)」が続いている。

子育てに関してほしい情報(全体):複数回答(3つまで)【経年比較】

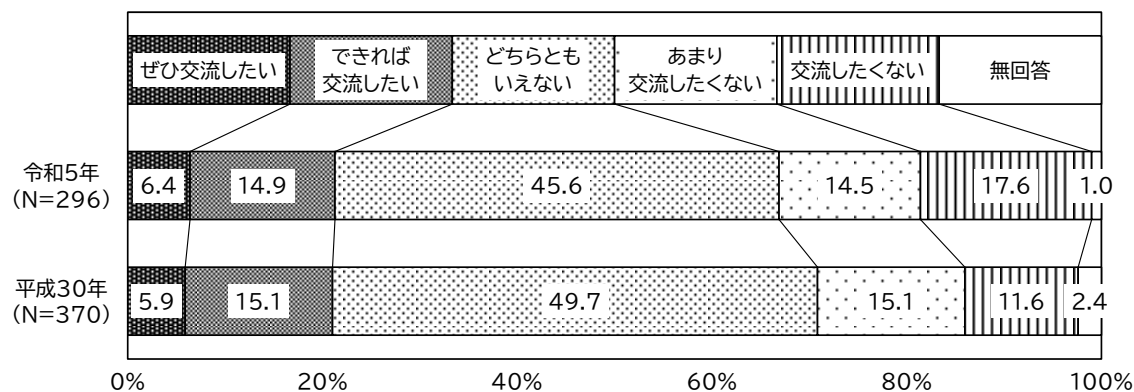


### (18)他のひとり親家庭との交流意向(問 40)

他のひとり親家庭との交流意向は、《交流したい》(「ぜひ交流したい」と「できれば交流したい」の合計)の割合は 21.3%、「どちらともいえない」は 45.6%となっている。《交流したくない》(「あまり交流したくない」と「交流したくない」の合計)の割合は 32.1%となっている。

平成30年調査では、《交流したい》の割合は 21.0%、《交流したくない》の割合は 26.7%となっている。

他のひとり親家庭との交流意向(全体)【経年比較】

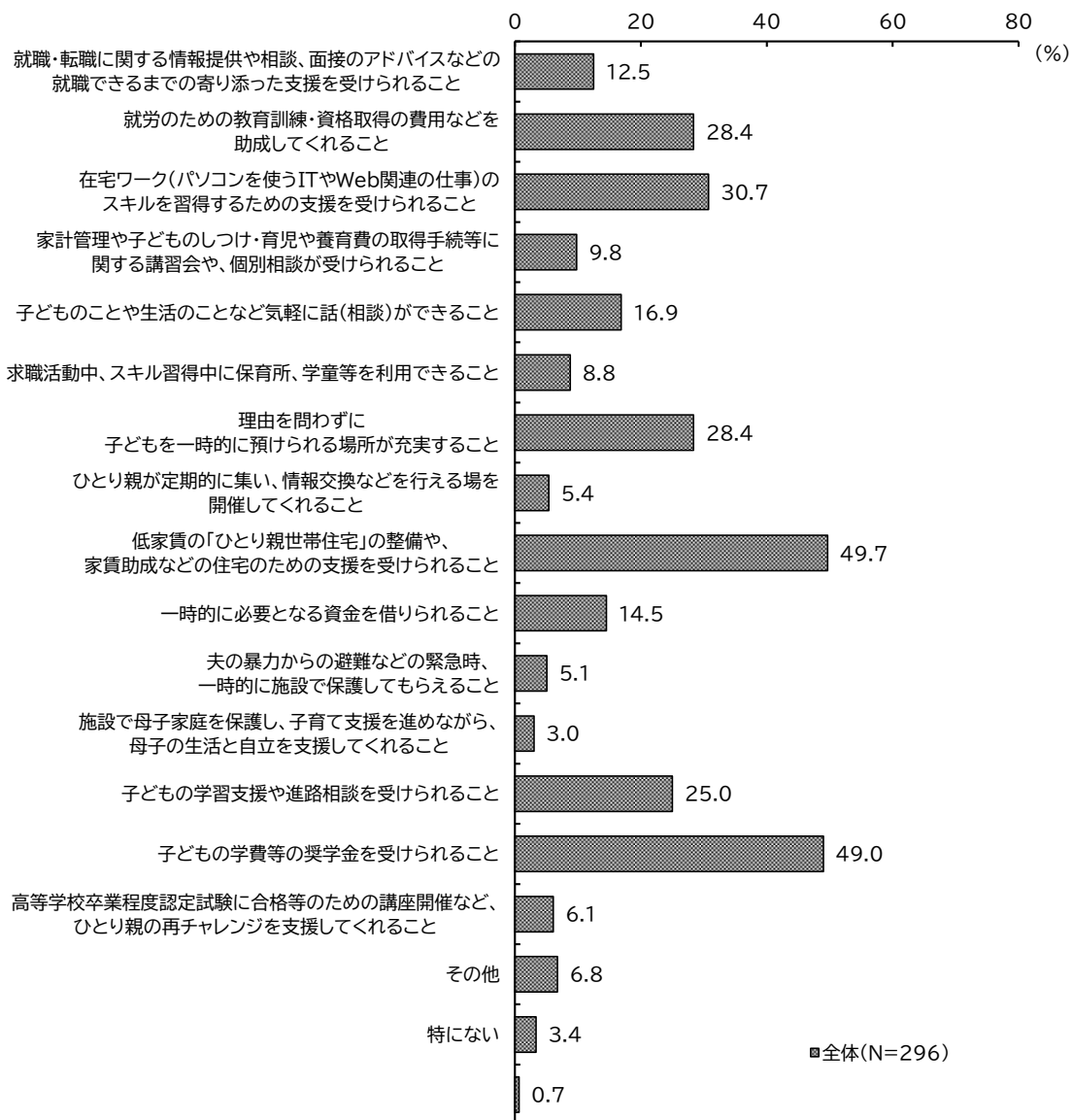


## (19)必要と思う支援等(問 41)

必要と思う支援等は、「低家賃の「ひとり親世帯住宅」の整備や、家賃助成などの住宅のための支援を受けられること(49.7%)」が最も高く、「子どもの学費等の奨学金を受けられること(49.0%)」、「在宅ワーク(パソコンを使うITや Web 関連の仕事)のスキルを習得するための支援を受けられること(30.7%)」が続いている。

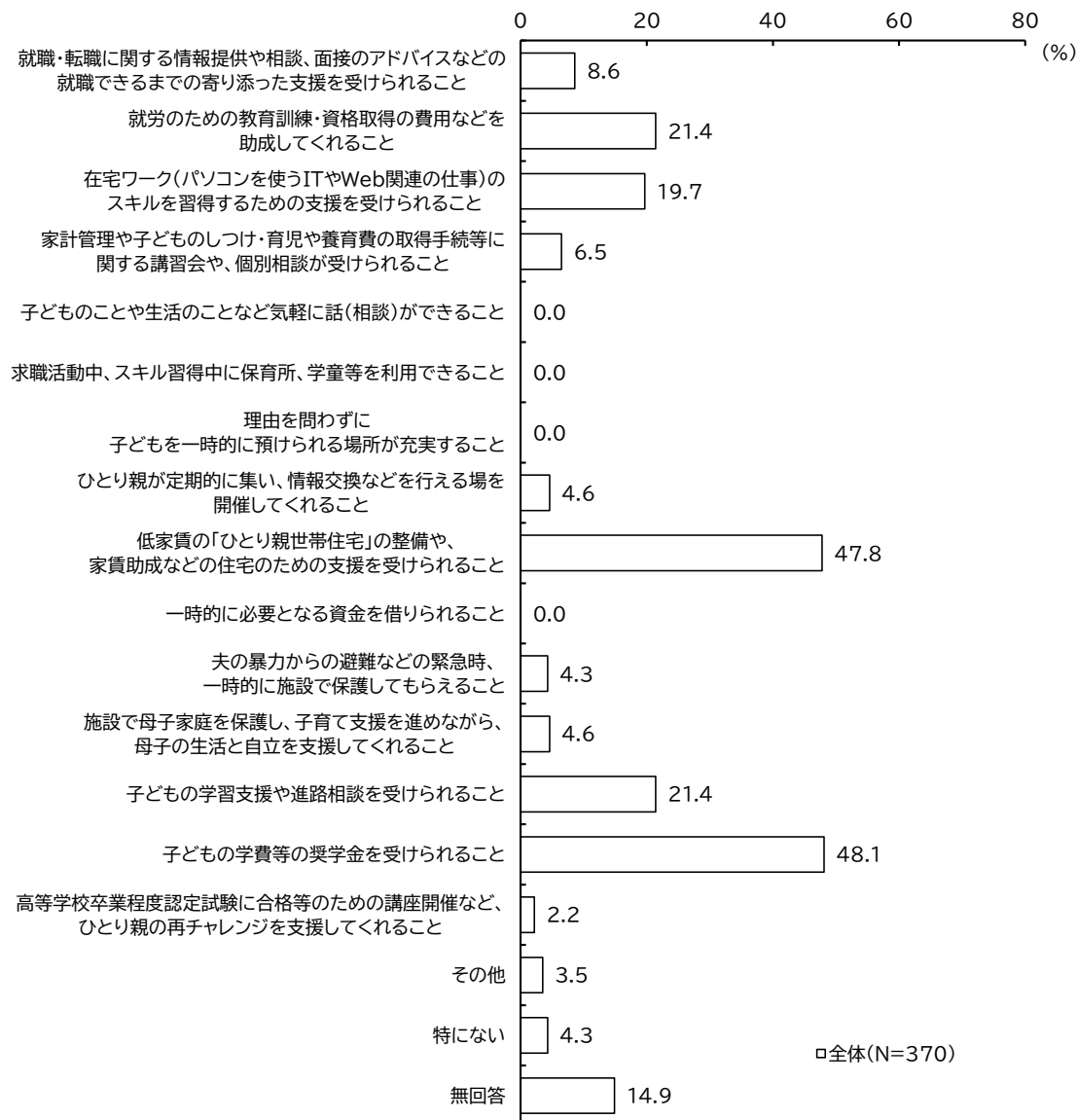
平成30年調査では、「子どもの学費等の奨学金を受けられること(48.1%)」が最も高く、「低家賃の「ひとり親世帯住宅」の整備や、家賃助成などの住宅のための支援を受けられること(47.8%)」、「就労のための教育訓練・資格取得の費用などを助成してくれること(21.4%)」、「子どもの学習支援や進路相談を受けられること(21.4%)」が続いている。

必要と思う支援等(全体):複数回答(3つまで)【令和5年】



## 第2章 調査結果

### 必要と思う支援等(全体):複数回答(3つまで)【平成30年】



※令和5年調査では、「子どものことや生活のことなど気軽に話(相談)ができること」、「求職活動中、スキル習得中に保育所、学童等を利用できること」、「理由を問わずに子どもを一時的に預けられる場所が充実すること」、「一時的に必要な資金を借りられること」を追加している。また、平成30年調査の「就職・転職に関する情報提供や相談、面接のアドバイスなどの支援を受けられること」を、令和5年調査では、「就職・転職に関する情報提供や相談、面接のアドバイスなどの就職できるまでの寄り添った支援を受けられること」に修正している。

未子の年代別にみると0歳～5歳では、「理由を問わずに子どもを一時的に預けられる場所が充実すること(50.0%)」と「低家賃の「ひとり親世帯住宅」の整備や、家賃助成などの住宅のための支援を受けられること(50.0%)」が同率で最も高くなっている。また、「ひとり親が定期的に集い、情報交換などを行える場を開催してくれること(20.6%)」は全体よりも15.2ポイント高くなっている。

6歳～11歳では、「低家賃の「ひとり親世帯住宅」の整備や、家賃助成などの住宅のための支援を受けられること(52.6%)」と「子どもの学費等の奨学金を受けられること(52.6%)」が同率で最も高くなっている。

12～14歳では、「低家賃の「ひとり親世帯住宅」の整備や、家賃助成などの住宅のための支援を受けられること(50.8%)」が最も高く、15歳～18歳では「子どもの学費等の奨学金を受けられること(56.3%)」が最も高くなっている。

必要と思う支援等(全体、未子の年代別):複数回答(3つまで)

(%)

		た支援を受けられること	就職・転職に関する情報提供や相談、面接のサポートを受けること	就労のための教育訓練・資格取得の費用などを助成してくれること	就労のワーク（パーソナルスキルを習得するための支援を受けること	在宅ワーク（パソコンを使うITやWeb関連の仕事）のスキルを習得するための支援を受けること	取得の手続きや子どもの講習会や、個別相談が受けられること	家計管理や子どものしつけ・育児や養育費の相談ができること	子どものことや生活のことなど気軽に話（相談）ができること	求職活動中、スキル習得中に保育所、学童等を利用できること	理由を問わずに子どもを一時的に預けられる場所が充実すること	ひとり親が定期的に集い、情報交換などを行える場を開催してくれること	低家賃の「ひとり親世帯住宅」の整備や、家賃助成などの住宅のための支援を受けられること
全	体 (N=296)	12.5	28.4	30.7	9.8	16.9	8.8	28.4	5.4	49.7			
未子の年代別	0歳～5歳 (n=34)	2.9	20.6	38.2	8.8	17.6	11.8	50.0	20.6	50.0			
	6歳～11歳 (n=95)	14.7	28.4	32.6	12.6	23.2	10.5	32.6	4.2	52.6			
	12歳～14歳 (n=61)	16.4	23.0	29.5	9.8	18.0	9.8	29.5	4.9	50.8			
	15歳～18歳 (n=87)	12.6	35.6	28.7	8.0	10.3	5.7	14.9	2.3	48.3			

		夫の暴力から避難などの緊急時、一時的に施設で母子家庭を保護し、子育て支援を進めながら、母子の生活と自立を支援してあげる	子どもの学習支援や進路相談を受けられること	子どもの学費等の奨学金を受けられること	高等学校卒業程度認定試験に合格等のための講座開催など、ひとり親の再チャレンジのための支援してくれること	その他	特になし	無回答	
全	体 (N=296)	5.1	3.0	25.0	49.0	6.1	6.8	3.4	0.7
未子の年代別	0歳～5歳 (n=34)	2.9	0.0	14.7	41.2	14.7	5.9	0.0	0.0
	6歳～11歳 (n=95)	2.1	3.2	33.7	52.6	3.2	8.4	1.1	1.1
	12歳～14歳 (n=61)	11.5	4.9	31.1	42.6	6.6	6.6	3.3	0.0
	15歳～18歳 (n=87)	5.7	2.3	16.1	56.3	6.9	4.6	4.6	1.1

## (20)区のひとり親家庭支援施策に関する意見等(自由記述)(問 42)

区のひとり親家庭支援施策に関して、自由記述形式で意見をたずねたところ、全体で110件の回答があった。テーマ分類ごとの意見数と、主な意見の要約を以下のとおり掲載する。

意見内容	件数
<b>住宅関係について</b>	<b>13件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>区立住宅でも、ひとり親の場合には減免などの負担軽減を検討してほしい。</li> <li>子どもの学校のことを考えると、ひとり親になっても中央区に住み続けたいため、ひとり親世帯でも住める物件をもっと増やしてほしい。</li> <li>区のひとり親世帯向けの住宅は空きがなく、区立住宅も倍率が高いので、家賃の補助が別にあると助かる。</li> </ul>	
<b>教育費の支援について</b>	<b>11件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親への支援が高校生まででは生活が苦しいままなので、学生のうちは支援してほしい。</li> <li>子どもは成長するにつれて費用がかかるので、学費に交通費、参考書代等を支援してほしい。</li> <li>安価な制服の採用など、学校にかかる費用負担を減らしてほしい。</li> </ul>	
<b>ひとり親家庭向けの子育て支援について</b>	<b>10件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>親子観劇会やひとり親家庭休養ホーム、子どもの学習支援など、ひとり親への子育て支援が充実しており、大変助かっている。</li> </ul>	
<b>一時預かり保育について</b>	<b>8件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>一時預かり保育等の施設利用にかかる費用のひとり親への補助も検討してほしい。</li> <li>仕事で日曜出勤や出張があるが、預かり先が見つからないので、仕事が理由でも子どもショートステイを利用できるようにしてほしい。</li> </ul>	
<b>相談窓口について</b>	<b>6件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親特有の悩みや孤独を感じることも多いので、区のひとり親専用の交流サイトなどがあれば、気軽に相談もできて仲間の声も聞けて心強い。</li> <li>ひとり親への支援について、ワンストップで対応できる窓口があると良い。</li> </ul>	
<b>医療費の助成について</b>	<b>5件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親の医療費負担を18歳までではなく、大学卒業まで延ばしてほしい。</li> </ul>	
<b>就職支援について</b>	<b>3件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>中央区内企業への就労あっせんを積極的に行ってほしい。ひとり親にとって、自宅の近所で働けるととてもありがたい。</li> </ul>	
<b>情報について</b>	<b>3件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親への支援について、メールや郵便などで定期的に案内があると利用しやすい。</li> </ul>	
<b>交通について</b>	<b>2件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親向けの江戸バスの無料乗車券があるとありがたい。</li> </ul>	
<b>その他</b>	<b>49件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>養育費不払いに対する弁護士費用、印紙代などを助成してほしい。</li> <li>区のひとり親家庭ホームヘルプサービスは、シッターが見つかりにくく、回数制限や利用時間の制限があることが難点なので、条件をもう少し緩和してほしい。</li> </ul>	



## II 質問間クロス集計等

「I ひとり親家庭実態調査」での各設問の子どもの年齢や居住地等によるクロス集計とは別に、「子育て世帯が抱える困難」について詳細に分析するため、質問間クロス集計等を行った。

### ◇ 子育て世帯が抱える困難について

#### (1) 経済的な困窮経験がある人

<経済的な理由による困窮経験の①～⑦の項目で、1つでも「何度かあった」もしくは「頻繁にあった」と回答した人>

#### ◆ 今の生活の悩みや将来の生活への不安(問 27(1)、(2))

今の生活の悩みは、全体では、「物価高騰による経済的負担の増加(83.4%)」が最も高く、「自分の健康(59.1%)」、「家が狭い・快適ではない(35.1%)」が続いている。「特にない」は4.1%である。

経済的な困窮経験の有無別にみると、経験がある人は「家が狭い・快適でない(47.7%)」が全体よりも12.6ポイント高くなっている。「物価高騰による経済的な負担の増加(90.2%)」も全体よりも6.8ポイント高くなっている。

今の生活の悩み(全体、経済的な困窮経験の有無別):複数回答

		(%)										
		自分の健康	仕事の拘束時間	家事的負担	食生活・栄養	家が狭い・快適でない	周囲の理解不足	ひとり親家庭への経済的負担の増加	物価高騰による経済的負担の増加	その他	特にない	無回答
全	体 (N=296)	59.1	23.6	28.7	28.4	35.1	13.2	83.4	7.1	4.1	0.3	
経	あ	62.9	26.5	32.6	34.8	47.7	19.7	90.2	8.3	0.8	0.8	
経	な	55.8	21.5	25.8	22.7	24.5	7.4	77.9	6.1	6.7	0.0	

## 第2章 調査結果

将来の不安は、全体では、「子どもの教育費や将来のこと(80.1%)」が最も高く、「生活費が足りなくなる(73.0%)」、「自分の老後のこと(59.8%)」が続いている。「特にない」は3.7%である。

経済的な困窮経験の有無別にみると、経験がある人は「生活費が足りなくなる(89.4%)」が全体よりも16.4ポイント高くなっており、「就職・転職できるかどうか(33.3%)」が全体よりも13.3ポイント高くなっている。

将来の不安(全体、経済的な困窮経験の有無別):複数回答

		(%)									
		生活費が足りなくなる	就職・転職ができるかどうか	今の仕事が続けられるかどうか	自分の親の介護	子どもの教育費や将来のこと	再婚	自分の老後のこと	その他	特にない	無回答
全	体 (N=296)	73.0	23.0	37.5	40.2	80.1	11.5	59.8	2.7	3.7	0.0
経済的 な困窮 経験 あり	る (n=132)	89.4	33.3	40.2	42.4	84.1	15.2	60.6	2.3	0.8	0.0
経済的 な困窮 経験 なし	い (n=163)	59.5	14.7	35.0	38.7	76.7	8.6	58.9	3.1	6.1	0.0

### ◆子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無(問34)

子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無は、全体では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる(41.2%)」が最も高く、「緊急時もしくは用事の際には友人・知人にみてもらえる(19.3%)」が続いている。「いずれもない」は、31.8%である。

経済的な困窮経験の有無別にみると、経験がある人は「日常的に祖父母、兄弟等の親族にみてもらえる(9.1%)」が全体よりも6.4ポイント低くなっている。

子どもを保護者に代わってみてくれる親族・知人の有無

(全体、経済的な困窮経験の有無別):複数回答

		(%)						
		日常的に親族に祖父母・兄弟等	緊急時には祖父母・兄弟等の親族	緊急時には友人・知人	日常的に友人・知人	緊急時には友人・知人	いずれもない	無回答
全	体 (N=296)	15.5	41.2	2.7	19.3	31.8	1.4	
経済的 な困窮 経験 あり	る (n=132)	9.1	43.2	1.5	15.9	34.1	2.3	
経済的 な困窮 経験 なし	い (n=163)	20.9	39.9	3.7	22.1	29.4	0.6	

## 資料編 アンケート調査票及び集計結果



## 中央区ひとり親家庭実態調査

### 調査について

- この調査票は、区内にお住まいの児童育成手当を受給されている世帯を対象に、お送りしています。
- この調査は、**無記名方式**で行います。回答者個人が特定されることはありません。
- 調査結果は、今後のひとり親家庭への支援事業を検討する際の基礎資料とします。ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理し、調査の目的以外に使用することは一切ございません。
- この調査票は 16 ページ、42 問あります。
- 調査回答に要する時間は概ね 30 分程度です。

### ご記入にあたってのお願い

- ご記入は、個人を対象にしていますので、ご本人（封筒のあて名の方）に回答をお願いいたします。
- 鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。
- 「その他」に○をつけた場合は、〔 〕内に具体的にその内容をご記入ください。
- 調査票は同封の返信用封筒に入れてポストに投函してください（切手は不要です）。また、インターネット（パソコン、スマートフォン等）での回答も可能です。  
※パソコン、スマートフォン等から回答いただいた場合は、本調査票の記入・提出は不要です。

**【回答期限】** 郵送：11月24日（金）までにポストに投函  
インターネット：11月24日（金）午後11時59分まで

### インターネット(パソコン、スマートフォン等)での回答方法 ※詳細は別紙参照

- 1 以下のURLか二次元コードを読み取り、インターネット回答のサイトにアクセスしてください。
- 2 下記のパスワード・IDを使ってログインして回答をお願いします。（ログインできない場合は問い合わせ先までご連絡ください。）

URL : <https://jp.surveymonkey.com/r/hitorioyakatei>



パスワード:

ID :

（パスワードは無作為に配布されていますので、回答者が特定されることはありません。）

### 【問い合わせ先】

#### ★調査の目的・内容について

中央区福祉保健部子育て支援課計画推進等担当係長 TEL 03-3546-5444  
受付時間 午前8時30分～午後5時（土日・祝日を除く。）

#### ★調査方法・インターネット回答等について

株式会社 生活構造研究所 TEL 03-6261-7304  
受付時間 午前10時～午後5時（土日・祝日を除く。）

（この調査は中央区から株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。）

# 1. あなたご自身について、おうかがいします。

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○) (N=296)

1. 男性	4.1%	2. 女性	95.6%	3. その他	0.3%	無回答	0.0%
-------	------	-------	-------	--------	------	-----	------

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和5年10月1日現在) (□内に数字を記入) (N=296)

□ 歳 平均 45.1 歳

問3 あなたがお住まいになっている地域および地区はどこですか。(それぞれ1つに○) (N=296)

(1) 地域	(2) 地区									
1. 京橋地域 20.3% (n=60)	1. 八雲町	0.0%	2. 京橋	0.0%	3. 銀座	8.3%	4. 新富	3.3%	5. 入船	11.7%
	6. 湊	16.7%	7. 明石町	8.3%	8. 築地	21.7%	9. 濱崎宮	1.7%	10. 八丁堀	5.0%
	11. 新川	20.0%	無回答	3.3%						
2. 日本橋地域 28.0% (n=83)	1. 本石町	0.0%	2. 室町	1.2%	3. 本町	0.0%	4. 小舟町	3.6%	5. 小伝馬町	0.0%
	6. 大伝馬町	3.6%	7. 堀留町	2.4%	8. 富沢町	1.2%	9. 人形町	7.2%	10. 小網町	1.2%
	11. 蛸殻町	10.8%	12. 箱崎町	6.0%	13. 馬喰町	1.2%	14. 横山町	3.6%	15. 東日本橋	10.8%
	16. 久松町	1.2%	17. 浜町	30.1%	18. 中洲	13.3%	19. 八雲町	0.0%	20. 日本橋	1.2%
	21. 茅場町	1.2%	22. 兜町	0.0%	無回答	0.0%				
3. 月島地域 51.7% (n=153)	1. 佃	15.0%	2. 月島	18.3%	3. 勝どき	41.8%	4. 豊海町	0.7%	5. 晴海	24.2%
										無回答

無回答 0.0%

問4 あなたは、いつから中央区にお住まいですか。転入してきた方は( )の①～⑥も教えてください。

(1つに○) (N=296)

1. 生まれてからずっと住んでいる	12.2%
2. 中央区に転入してきた(転入してから:	
① 1年未満	3.8%
② 1～3年未満	10.0%
③ 3～5年未満	11.5%
④ 5～10年未満	21.5%
⑤ 10～15年未満	21.5%
⑥ 15年以上	31.5%
無回答	0.0%

※「2. 中央区に転入してきた」には、生まれ育ちは中央区で、転出したがその後中央区へ転入してきて再び住むようになった場合も含む。

問5 あなたの現在のお住まいは次のどれですか。(1つに○) (N=296)

1. 自分名義の持家(共同名義を含む)	22.3%	5. 社宅・会社の寮	5.4%
2. 自分名義以外の持家(親等の名義)	17.6%	6. 間借り・住み込み	2.0%
3. 都営・区営等公営賃貸住宅	14.2%	7. その他〔 〕	2.0%
4. 民間賃貸住宅	35.8%	無回答	0.7%

問6 あなたの世帯について教えてください。( (1) 数字を記入、(2) あてはまるものすべてに○)

(N=296)

(1) 世帯人数	あなたを含めて( )人		平均 2.6 人	
(2) 同居者	1. 子ども	98.6%	4. あなたの兄弟姉妹	3.0%
	2. あなたの父	4.1%	5. 孫	0.0%
	3. あなたの母	9.8%	6. その他〔 〕	1.7%
	無回答			
	0.7%			

## 問7 現在、どのような収入等で生計を立てていますか。(あてはまるものすべてに○) (N=296)

1. 就労収入	87.2%	8. 母子・父子福祉資金等の公的な福祉資金の貸付	
2. 子どもの親(相手側)からの養育費	18.9%		2.0%
3. 児童扶養手当等の公的手当	56.8%	9. 金融機関からの借入れ	4.1%
4. 高等職業訓練促進給付金等の公的支援	0.0%	10. 親や兄弟姉妹等からの支援	9.5%
5. 生活保護	1.0%	11. 知人・友人等からの支援	0.3%
6. 年金(遺族年金を含む)	7.1%	12. 貯えを取り崩す	33.4%
7. 生命保険	1.7%	13. その他〔 〕	3.0%
		無回答	0.3%

## 問8 あなたの家庭(世帯)全員の方の、昨年(令和4年1月~12月)の年間収入(税込み)はいくらですか。(1つに○) (N=296)

※収入には、勤労収入(パート、アルバイトを含む)、事業収入(自営業等)、農業収入、不動産収入、利子・配当金、個人年金、仕送りや元配偶者等からの養育費を含みます。

1. 収入はない(0円)	6.1%	6. 300~400万円未満	16.9%
2. 100万円未満	11.8%	7. 400~600万円未満	15.9%
3. 100~200万円未満	19.3%	8. 600~800万円未満	4.4%
4. 200~250万円未満	11.5%	9. 800~1,000万円未満	0.7%
5. 250~300万円未満	12.2%	10. 1,000万円以上	0.3%
		無回答	1.0%

## 問9 あなたがひとり親になられたのは、どのようなご事情でしたか。(1つに○) (N=296)

1. 離婚	73.0%	→ 問9-1へ
2. 死別	7.1%	
3. 消息不明	1.0%	→ 問10へ
4. 未婚	18.2%	
5. その他〔 〕	0.3%	
無回答	0.3%	

※問9で「離婚」に○をつけた方におうかがいします。

## 問9-1 離婚は、どのように成立しましたか。(1つに○) (n=216)

1. 協議離婚*	73.6%	2. 調停離婚	20.4%	3. 審判離婚	0.9%	4. 離婚裁判	4.6%	無回答	0.5%
----------	-------	---------	-------	---------	------	---------	------	-----	------

※裁判等を利用せず、夫婦の話し合いで決定する離婚

## 問9-2 離婚成立までに、どれくらいの期間を要しましたか。(□内に数字を記入) (n=216)

□ か月 平均10.9か月

## 問9-3 離婚成立までの間、どのようなことでお困りになりましたか。(あてはまるものすべてに○) (n=216)

1. 離婚協議が中々進まなかった	32.9%	5. 弁護士費用が支払えないため、弁護士に相談できなかった	11.1%
2. 養育費を受け取れるまでの間の生活費	21.3%	6. 相手に勝手に別居された	9.7%
3. 通帳やキャッシュカードを相手に持ち出されて使えなかった	5.6%	7. 離婚後の住居の確保	31.5%
4. 児童手当や児童扶養手当等の公的な支援が受けられなかった	33.3%	8. 誰(どこ)に相談すればいいかわからなかった	21.3%
		9. その他〔 〕	13.9%
		10. 特にない	17.6%
		無回答	1.9%

## 問10 あなたがひとり親になられたときの年齢を教えてください。(□内に数字を記入) (N=296)

□ 歳 平均37.9歳

## 2. お子さんのことについておうかがいします。

問11 あなたのお子さんの令和5年4月1日現在の年齢・通学（就職）先・学年・同別居の状況についておうかがいします。通学・就職状況については、下表の中からあてはまる番号を選んで枠の中に番号を記入してください。また、学校に通学している場合は、学年の欄に数字を記入してください。

(数字を記入、○は1つずつ)

※お子さんが5人以上いらっしゃる場合は、第5子までをお答えください。

	年 齢 (令和5年4月1日現在)		性 別		※通学・ 就職状況	学 年 (通学の場合)		同別居	
			男	女				同居	別居
第1子		歳	1	2			年	1	2
第2子		歳	1	2			年	1	2
第3子		歳	1	2			年	1	2
第4子		歳	1	2			年	1	2
第5子		歳	1	2			年	1	2



〔※通学・就職状況〕 下の表からあてはまる番号を選んで枠の中に数字を記入してください。

01. 保育所	05. 高等学校	09. 大学院
02. 幼稚園	06. 専門学校*	10. 常勤の就職
03. 小学校	07. 高等専門学校・短期大学	11. パート・アルバイト
04. 中学校	08. 大学	12. その他

※専門学校は高等学校卒業後に進学する学校のこと

※お子さんが複数いらっしゃる場合は、最年長のお子さんについてお答えください。

問12 あなたのご希望として、お子さんにどの段階の学校まで進学してほしいですか。また、現実的にはどの段階までの進学になるとお考えですか。(すでに進学・卒業された方は、どの段階まで進学しましたか)

(それぞれ1つに○)

(N=296)

	中学校 卒業	高等学校 卒業	専門学校 卒業*	高等専門学校 ・短期大学 卒業	大学 卒業	大学院 卒業	わからない	無回答
(1) 希望	0.0%	4.1%	4.4%	4.1%	76.0%	5.4%	4.4%	1.7%
(2) 現実	4.1%	10.5%	5.1%	2.7%	30.7%	20%	29.1%	15.9%

※専門学校は高等学校卒業後に進学する学校のこと

問12-1 問12でそう考える最大の理由を教えてください。(1つに○)

(N=296)

1. 子どもが希望しているから	30.7%	6. できるだけ早く働いてもらいたいから	0.3%	
2. 自分もそうであったから	9.5%	7. 家に経済的な余裕がないから	12.2%	
3. 子どもの学力から考えた結果	6.1%	8. 学歴は重要だと思うから	30.7%	
4. 子どもの兄弟姉妹もそうするから	0.0%	9. その他〔	〕	7.8%
5. 子どもの仲の良い友達もそうするから	0.3%	無回答		2.4%



問13 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。

(それぞれ1つに○) (N=296)

項目	ある	ない			無回答
		金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で	
① 海水浴に行く	22.6%	14.9%	22.6%	38.2%	1.7%
② 博物館・科学館・美術館などに行く	42.2%	11.1%	18.2%	27.0%	1.4%
③ キャンプやバーベキューに行く	24.0%	18.2%	20.6%	34.8%	2.4%
④ スポーツ観戦や劇場に行く	41.9%	17.9%	13.9%	24.0%	2.4%
⑤ 遊園地やテーマパークに行く	55.1%	17.6%	10.1%	16.6%	0.7%
⑥ 旅行(国内・海外)に行く	50.7%	31.8%	8.8%	8.8%	0.0%

### 3. お仕事に関することをおうかがいします。

問14 あなたの最終学歴を教えてください。(1つに○)

(N=296)

1. 中学校卒業	5.4%	5. 大学卒業	32.4%
2. 高等学校卒業	23.3%	6. 大学院卒業	3.7%
3. 専門学校(高等学校卒業後に進学するもの)卒業	15.2%	7. その他〔 〕	0.3%
4. 高等専門学校・短期大学卒業	19.6%	無回答	0.0%

問15 ひとり親になる前、仕事をしていたか。(1つに○)

(N=296)

※育児休業など休業中だった方は「ひとり親になる前、仕事をしていた」に○をつけてください。

1. ひとり親になる前、仕事をしていた	→	問15-1、15-2へ	77.0%
2. ひとり親になる前、仕事をしていなかった	→	問15-3(P.94)へ	23.0%
無回答			0.0%

※問15で「1. ひとり親になる前、仕事をしていた」を選んだ方におうかがいします。

問15-1 どのような雇用形態でしたか。(1つに○)

(n=228)

1. 常勤(正社員)	47.4%	4. 派遣・契約社員	9.2%
2. パート・アルバイト	25.9%	5. その他〔 〕	1.3%
3. 自営業・自営業手伝い	16.2%	無回答	0.0%

問15-2 ひとり親になったことにより転職しましたか。(あてはまるものすべてに○)

(n=228)

1. 収入増をめざして転職した	22.4%	4. 契約終了のため転職した	3.9%
2. 家事・育児との両立のため転職した	20.6%	5. 転職しなかった(続けた)	46.1%
3. 引っ越したため転職した	6.1%	6. その他〔 〕	8.3%
		無回答	2.2%

→問16(P.94)へ

※問15で「2. ひとり親になる前、仕事をしていなかった」を選んだ方におうかがいします。

問15-3 仕事をしていなかった理由を教えてください。(1つに○)

(n=68)

1. 家事・育児に専念したかったから	30.9%
2. 働きたかったが、家事・育児との両立ができなかったから	20.6%
3. 働きたかったが、子どもの親(相手方)に働くことを反対されたから	13.2%
4. 働きたかったが、仕事が見つからなかったから	5.9%
5. 働く必要がなかったから	8.8%
6. その他〔 〕	20.6%
無回答	0.0%

※すべての方におうかがいします。

問16 あなたは、現在働いていますか。(1つに○)

(N=296)

1. 働いている	————→ 問17へ	90.9%
2. 働いていない	————→ 問20(P.97)へ	9.1%
無回答		0.0%

問17 問16で「1. 働いている」を選んだ方にあなたのお仕事のことについておうかがいします。

(1) あなたのお仕事は次のどれにあたりますか。(1つに○)

(n=269)

1. 常勤(正社員)	50.2%	4. 派遣・契約社員	13.0%
2. パート・アルバイト	19.3%	5. その他〔 〕	1.5%
3. 自営業・自営業手伝い	15.6%	無回答	0.4%

(2) 現在の仕事の勤務時間などの状況について、教えてください。

(n=269)

※①及び②の空欄には数字を、②は午前と午後のいずれかに○も記入、③～⑥のあてはまる番号それぞれ1つに○を、それぞれご記入ください。

①就労日数	週に( )日 平均4.9日				
②平日の出勤及び帰宅時刻 ※最も多い時間帯をお書きください	出勤時刻【午前 午後】( )時( )分頃 帰宅時刻【午前 午後】( )時( )分頃 例：【午前】午後(9)時(00)分頃				
③22時以降の深夜勤務	1. 定期的にある 7.4%	2. 不定期にある 10.8%	3. なし 80.7%	無回答	1.1%
④土曜日勤務	1. 定期的にある 25.3%	2. 不定期にある 31.6%	3. なし 42.0%	無回答	1.1%
⑤日曜・祝日勤務	1. 定期的にある 14.9%	2. 不定期にある 26.0%	3. なし 57.6%	無回答	1.5%
⑥副業(主な仕事以外にしているアルバイト、内職等の数)	1. 1つしている 10.8%	2. 2つ以上している 3.0%	3. していない 無回答		85.5% 0.7%

**(3) 現在の勤務地はどの地域ですか。(1つに○) (n=269)**

1. 中央区内	51.3%
2. 隣接区(千代田区、港区、台東区、墨田区、江東区)	34.2%
3. 中央区・隣接区以外の区	11.2%
4. 東京23区外	3.3%
無回答	0.0%

**(4) 自宅から職場までの通勤時間は、片道どのくらいですか。(1つに○) (n=269)**

1. 10分以内	19.3%	3. 30分~1時間未満	29.4%
2. 10~30分以内	48.3%	4. 1時間以上	3.0%
		無回答	0.0%

**(5) 現在のお仕事の勤務年数はどのくらいですか。(1つに○) (n=269)**

1. 1年未満	12.3%	3. 3~5年未満	16.7%	5. 10年以上	25.7%
2. 1~3年未満	20.4%	4. 5~10年未満	24.2%	無回答	0.7%

**(6) 就職する際に利用した相談窓口等についてお答えください。(あてはまるものすべてに○) (n=269)**

1. ハローワーク	21.2%	5. 就職情報誌、求人広告	13.8%
2. マザーズハローワーク	4.8%	6. インターネットの求人情報サイト	43.9%
3. 東京しごとセンター	3.7%	7. 友人・知人からの紹介	21.6%
4. 東京都ひとり親家庭支援センター「はあと」	3.0%	8. その他〔 〕	18.6%
		無回答	5.2%

**(7) あなたが仕事を探しているときの問題点は何でしたか。(あてはまるものすべてに○) (n=269)**

1. 就職活動中の子どもの預け先がない	15.6%
2. 希望する就労先の募集条件に合う資格・技能・経験がない	25.3%
3. 希望する就労先の募集条件に合う学歴がない	13.4%
4. 希望する条件に合う就労先がない	31.6%
5. 希望する就労先の募集条件の年齢制限を超えてしまっている	16.4%
6. 子どもの年齢が低いことを問題にされた	14.1%
7. 仕事探しを相談できる場所がない	4.1%
8. ひとり親というだけで不採用となってしまう	8.9%
9. その他〔 〕	7.4%
10. 問題点は特にない	27.9%
無回答	5.2%

**(8) あなたが仕事を探しているとき、どのような就労支援があれば良かったですか。****(あてはまるものすべてに○) (n=269)**

1. 条件の合う仕事があっせん	28.6%	7. 履歴書の書き方の指導など	7.1%
2. 職業訓練の機会が増えること	13.4%	8. ハローワーク等への同行(就業支援	
3. 職業訓練中の経済的支援	25.3%	専門員)	1.1%
4. 就職活動や職業訓練中の子どもの保育	17.5%	9. 就職まで寄り添って支援してくれる	
5. 就職のための適性診断	11.9%	相談員(就業支援専門員など)	11.5%
6. 表計算ソフト等のパソコンのスキルアップ		10. その他〔 〕	5.6%
などの講座	23.0%	11. 特にない	27.1%
		無回答	6.3%

**(9) 現在、あなたは転職を希望していますか。(1つに○)** (n=269)

1. 強く転職を希望している	52%	3. 転職は考えていない	61.0%
2. できれば転職をしたい	32%	無回答	1.1%

**(10) 転職したい主な理由は何ですか。(1つに○)** (n=102)

1. 賃金(収入)が安いから	49.0%	5. 正社員でないから	5.9%
2. 仕事の内容に不満があるから	9.8%	6. 休暇が取得しにくいから	3.9%
3. 職場の人間関係に不満があるから	7.8%	7. その他〔 〕	18.6%
4. 通勤時間が長いから	4.9%	無回答	0.0%

**問18 仕事と子育てを両立するうえで、大変だと感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)**

(n=269)

1. 急に残業が入ってしまうこと	30.1%
2. 子育てのため、就業時間を長く取れないこと	34.6%
3. 子どもが急に病気になったときに代わりに面倒をみってくれる人がいないこと	61.7%
4. 子育てしながら働くことについて職場の理解が得られないこと	7.8%
5. 子どもとのコミュニケーションの時間が十分に取れないこと	56.5%
6. その他〔 〕	16.7%
7. 特にない	10.8%
無回答	0.0%

**問19 今後、仕事と子育ての両立が可能な環境を整備・充実していくために、行政(国・都・区)にどのような取組を望みますか。(あてはまるものすべてに○)**

(n=269)

1. 労働時間の短縮	32.0%
2. 育児休業などの取得促進	13.0%
3. 子どもの看護休暇制度の義務化と取得促進	48.0%
4. 男性の育児参加の促進(男性の育児休業の取得促進など)	7.1%
5. 保育サービスの拡充(定員の拡大、時間の延長など)	23.0%
6. 幼稚園での預かり保育※1の充実	10.4%
7. 病児・病後児保育※2の充実	36.8%
8. 一時預かり保育※3の充実	26.0%
9. 学童クラブなど放課後の居場所の充実	46.1%
10. その他〔 〕	15.6%
11. 特にない	10.8%
無回答	0.7%

—————> 問22 (P.97)へ

※1 幼稚園での預かり保育：区立幼稚園のうち3園(令和6年度より全園で実施、久松幼稚園は9月から実施)で幼稚園在園児を対象に、通常の幼稚園教育時間終了後、空き教室等を利用して保育を行います。給食はありません。(令和6年4月より全園で弁当給食を開始)

【開設時間】月～金曜日：幼稚園教育時間終了後から午後4時30分まで  
夏季・冬季・春季休業日 午前9時から午後4時30分まで

(年末年始、土日祝日を除く)

※2 病児・病後児保育：病気の回復期等により、保育施設での集団保育ができず、保護者も家庭で看護することできない場合に、一時的に子どもを預かる事業です。

※3 一時預かり保育：保護者が冠婚葬祭やリフレッシュなどの理由により一時的に子どもを預かる事業です。また、保護者の出産や入院などの緊急の理由により利用できる「緊急保育」があります。

**問 20、21 は、問 16 で、現在「2. 働いていない」を選んだ方におうかがいします。**

**問20 あなたが現在働いていないのは、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）**

(n=27)

1. 希望する条件に合う仕事がないため	25.9%	7. 子どもの預け先がないため	11.1%
2. 勉強中（資格取得、在学等）のため	7.4%	8. 新型コロナウイルス感染症拡大による雇い止	
3. 子育てに専念するため	11.1%	にあつたため	0.0%
4. 家族の介護のため	14.8%	9. 経済的理由で働く必要がないため	3.7%
5. 自分の健康上の理由	33.3%	10. その他〔	〕
6. 子どもの健康上の理由	11.1%	無回答	0.0%

**問21 就業意向についてお答えください。（1つに○）**

(n=27)

1. 現在、求職中である	33.3%	3. 当面、働く意思はない	7.4%
2. 現在、職業訓練中または学校に通学中	7.4%	4. 働く意思はあるが事情があつて働けない	44.4%
		無回答	7.4%

**※すべての方におうかがいします。**

**問22 今後、どのような資格、技能を習得したいですか。（あてはまるものすべてに○）** (N=296)

1. コンピュータ・OA機器に関する資格	37.8%	7. 建築・土木・不動産に関する資格	7.4%
2. 社会福祉に関する資格*	17.9%	8. 語学に関する資格	32.4%
3. 医療・衛生に関する資格	18.6%	9. 自動車運転免許	6.8%
4. 司法に関する資格	8.4%	10. その他〔	〕
5. 経営・労務・金融に関する資格	22.6%	11. 特にな	19.3%
6. 営業・販売・サービスに関する資格	4.1%	無回答	3.4%

※社会福祉に関する資格：保育士、社会福祉士、介護士 等

※問23は、問9で「2. 死別」「3. 消息不明」以外を選んだ方におうかがいします。

#### 4. 養育費について、おうかがいします。

問23 養育費の支払いについて、あなたはどのような約束をしましたか。(1つに○) (n=271)

1. 特に取り決めをしなかった	→ 問23-1へ	36.5%	
2. 書面を取り交わした		37.3%	
3. 口頭で約束した		15.1%	→ 問23-2へ
4. その他〔 無回答	〕	6.3%	4.8%

※問23で「1. 特に取り決めをしなかった」を選んだ方におうかがいします。

問23-1 養育費について「特に取り決めをしなかった」理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

(n=99)

1. 取り決めの交渉をしたがまとまらなかったから	17.2%	
2. 相手と関わりたくなかったから	44.4%	
3. 取り決めの交渉がわずらわしいから	14.1%	
4. 相手に養育費を請求できるとは思わなかったから	24.2%	
5. 自分の収入で経済的に問題がないから	8.1%	
6. 相手に支払う意思や能力がないと思ったから	34.3%	
7. 子どもを引き取った方が、養育費を負担するものだと思っていたから	4.0%	
8. 自分で選んだ道なので最初からあてにできなかったから	43.4%	
9. 現在交渉中または交渉予定である	4.0%	
10. その他〔 無回答	〕	10.1%
	1.0%	

→ 問24 (P.99) へ

※問23で「2. 書面を取り交わした」「3. 口頭で約束した」「4. その他」を選んだ方におうかがいします。

問23-2 現在、あなたは養育費を受け取っていますか。(1つに○) (n=159)

1. 受け取っている	→ 問23-3へ	54.1%
2. 受け取っていない	→ 問23-4へ	45.9%
無回答		0.0%

問23-3 問23での約束は守られていますか。(1つに○) (n=86)

1. きちんと守られている	53.5%	3. あまり守られていない	11.6%
2. 大体守られている	32.6%	4. まったく守られていない	2.3%
		無回答	0.0%

※問23-2で「2.受け取っていない」を選んだ方におうかがいします。

問23-4 養育費を受け取っていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○) (n=73)

1. 請求する相手がない	2.7%	4. 相手に支払い能力がなくなった	41.1%
2. 自ら受け取りを拒否した	9.6%	5. 履行期間が終了した(子が成長した)	0.0%
3. 取り決めた約束が破棄された	34.2%	6. その他〔 無回答	〕
			28.8%
			1.4%

※問24は、問9で「2. 死別」「3. 消息不明」以外を選んだ方におうかがいします。

## 5. 面会交流について、おうかがいします。

問24 離別した(あるいは未婚)の夫(妻)と子どもの面会交流について、あなたはどのような約束をしましたか。(1つに○) (n=271)

1. 特に取り決めをしなかった	→ 問24-1へ	48.3%
2. 書面を取り交わした		25.8%
3. 口頭で約束した	→ 問24-2へ	14.4%
4. その他〔 〕		4.1%
無回答		7.4%

※問24で「1. 特に取り決めをしなかった」を選んだ方におうかがいします。

問24-1 面会交流について「特に取り決めをしなかった」理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○) (n=131)

1. 取り決めの交渉をしたがまとまらなかったから	84%
2. 相手と関わりたくなかったから	42.7%
3. 取り決めの交渉がわずらわしいから	16.8%
4. 取り決めの方法が分からなかったから	4.6%
5. 面会交流を行うことが好ましくないと思ったから	12.2%
6. 元夫(妻)が面会交流を望まなかったから	15.3%
7. 面会交流の必要性を感じなかったから	16.8%
8. 現在交渉中または交渉予定である	2.3%
9. その他〔 〕	22.1%
無回答	0.0%

→ 問25 (P.100)へ

※問24で「2. 書面を取り交わした」「3. 口頭で約束した」「4. その他」を選んだ方におうかがいします。

問24-2 現在、子どもとの面会交流を行っていますか。(1つに○) (n=120)

1. 現在も面会交流を行っている	→ 問24-3へ	46.7%
2. 面会交流を行っていたことがある		23.3%
3. 面会交流を行ったことがない	→ 問25 (P.100)へ	27.5%
無回答		2.5%

問24-3 子どもとの面会交流の実施頻度はどの程度ですか。(1つに○) (n=84)

1. 月2回以上	19.0%	5. 子どもの夏休み中・冬休み中などの長期休暇中	
2. 月1回以上2回未満	25.0%		11.9%
3. 2~3か月に1回以上	11.9%	6. 別途協議で決めている	4.8%
4. 4~6か月に1回以上	10.7%	7. その他	15.5%
		無回答	12%

※すべての方におうかがいします。

**6. 子育てについて、おうかがいします。**

問25 あなたが子育てをされていて良かったと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

(N=296)

1. 子どもを持つ喜びが実感できたこと	78.4%
2. 子どもが成長すること	84.1%
3. 子育てを通じて自分も成長できたこと	78.7%
4. 家族間の会話が増えたこと	40.2%
5. 家庭が明るくなったこと	47.3%
6. 子育てを通じて自分の友人が増えたこと	38.9%
7. 自分の親への感謝の気持ちが生まれたこと	58.4%
8. その他〔 〕	6.1%
9. 特にない	2.4%
無回答	0.3%

問26 子育ての悩みや子どもに関する悩みはどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

(N=296)

(1) 子育ての悩み		(2) 子どもに関する悩み	
1. 子どものしつけ・教育	63.2%	1. 子どもの健康・障害	32.8%
2. 子どもと遊ぶ時間がない	33.8%	2. 子どもの学力	49.0%
3. 勉強を教えてあげられない	40.2%	3. 子どもの進学・就職	56.4%
4. 子どもの悩みを聞いてあげられない	15.9%	4. 子どもの友達関係・いじめ	25.0%
5. 子どもにきつくあたってしまうことがある	42.6%	5. 子どもの素行	16.2%
6. 親同士の関係	14.5%	6. 不登校・引きこもり	13.9%
7. その他〔 〕	5.4%	7. その他〔 〕	3.4%
8. 特にない	10.8%	8. 特にない	17.6%
無回答	1.7%	無回答	2.0%

問27 今の生活の悩みや将来の不安はどんなことですか。(あてはまるものすべてに○)

(N=296)

(1) 今の生活の悩み		(2) 将来の不安	
1. 自分の健康	59.1%	1. 生活費が足りなくなること	73.0%
2. 仕事の拘束時間	23.6%	2. 就職・転職ができるかどうか	23.0%
3. 家事の負担	28.7%	3. 今の仕事が続けられるかどうか	37.5%
4. 食生活・栄養	28.4%	4. 自分の親の介護	40.2%
5. 家が狭い・快適でない	35.1%	5. 子どもの教育費や将来のこと	80.1%
6. ひとり親家庭への周囲の理解不足	13.2%	6. 再婚	11.5%
7. 物価高騰による経済的負担の増加	83.4%	7. 自分の老後のこと	59.8%
8. その他〔 〕	7.1%	8. その他〔 〕	2.7%
9. 特にない	4.1%	9. 特にない	3.7%
無回答	0.3%	無回答	0.0%



## 問28 子育てに関する悩みや不安をどなたに、または、どこの機関に相談していますか。

(あてはまるものすべてに○) (N=296)

1. 祖父母・兄弟等の親族	45.3%	14. 子ども発達支援センター	ゆりのき	24%
2. 友人や知人	55.7%	15. 児童館		0.7%
3. 近所の人	3.0%	16. 福祉センター		0.0%
4. 職場の人	17.9%	17. 教育センター		2.4%
5. 保育所・幼稚園、学校等の他の保護者	8.1%	18. 社会福祉協議会(地域福祉コーディネーター)		0.3%
6. 保育所・幼稚園、学校等の他の担任等	13.5%	19. 児童相談所		1.7%
7. 学童クラブや子どもの居場所「プレディ」の職員等	3.0%	20. 子育て支援を行うNPO等		1.4%
8. 民生・児童委員	0.3%	21. 子どもほっとライン		0.3%
9. 区の区民相談(女性相談・家庭相談等)	1.7%	22. インターネット上で相談する		1.0%
10. 子育て支援課のひとり親家庭相談	2.0%	23. その他〔	〕	4.7%
11. 保健所・保健センター等の保健師	0.7%	24. 相談相手がいらない		7.4%
12. かかりつけ医師・看護師等	3.7%	25. 相談する機関がわからない		3.0%
13. 子ども家庭支援センター きらら中央	3.7%	26. 相談することがない		7.4%
		無回答		0.3%

## 問29 過去1年間における毎月の家賃や住宅ローンなどの住宅費は、次のどれにあたりますか。(1つに○)

(N=296)

※住宅ローンのボーナス払い分は毎月の住宅費に上乗せしてください。

1. 負担額なし	18.9%	6. 11~14万円未満	13.5%
2. 2万円未満	3.7%	7. 14~17万円未満	9.1%
3. 2~5万円未満	13.2%	8. 17~20万円未満	4.1%
4. 5~8万円未満	9.8%	9. 20万円以上	9.1%
5. 8~11万円未満	18.6%	無回答	0.0%

## 問30 あなたの家庭(世帯)では、過去1年間に、経済的な理由による次のような経験がありましたか。

(それぞれ1つに○) (N=296)

項目	まったくない	何度かあった	頻繁にあった	無回答
① 必要な食料が買えなかった	66.9%	24.3%	7.8%	1.0%
② 必要な衣料が買えなかった	60.8%	26.7%	11.5%	1.0%
③ 電気料金の滞納	88.2%	6.8%	3.4%	1.7%
④ 電話料金の滞納	89.5%	6.4%	2.4%	1.7%
⑤ ガス料金の滞納	88.2%	6.1%	3.4%	2.4%
⑥ 水道料金の滞納	87.8%	6.8%	3.0%	2.4%
⑦ 家賃や住宅ローンの滞納	84.8%	10.8%	3.4%	1.0%

## 問31 現在の暮らしの状況を経済的な面でどのように感じていますか。(1つに○)

(N=296)

1. 大変ゆとりがある	0.0%	4. やや苦しい	44.6%
2. ややゆとりがある	5.1%	5. 大変苦しい	23.6%
3. 普通	26.4%	無回答	0.3%

**問32 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、必要なときに利用したいと思うものをお答えください。（①～⑬の事業ごとに、それぞれ1つに○）**

※P106【中央区の主なひとり親向け支援事業一覧】を参照のうえ、ご回答ください。

(N=296)

事業名	制度を知っていた			制度を知らなかった		無回答
	知っており、 利用している (いた)	知っており、 今後利用したい	知っているが、 今後利用する つもりはない	知らなかったが、 今後利用したい	知らなかったが、 今後利用する つもりはない	
① ひとり親家庭親子観劇会	31.8%	22.3%	27.7%	7.8%	8.4%	20%
② ひとり親家庭日帰りバス研修	13.5%	25.0%	43.9%	8.4%	6.8%	2.4%
③ ひとり親家庭等医療費助成	66.9%	14.5%	6.4%	9.5%	1.4%	1.4%
④ ひとり親家庭休養ホーム事業 (日帰り施設・宿泊施設利用料助成)	17.2%	24.7%	19.3%	27.7%	8.8%	2.4%
⑤ ひとり親家庭ホームヘルプサービス	2.7%	11.5%	25.3%	34.1%	24.7%	1.7%
⑥ ひとり親家庭相談	1.7%	13.2%	24.7%	32.8%	25.7%	2.0%
⑦ 子どもの学習・生活支援事業	15.2%	16.6%	15.9%	40.2%	10.8%	1.4%
⑧ 母子及び父子福祉資金・女性福祉資金の貸付	2.7%	16.2%	30.7%	26.4%	22.3%	1.7%
⑨ ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金	2.7%	19.3%	31.4%	27.7%	16.9%	2.0%
⑩ ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金	1.4%	16.6%	30.4%	30.4%	18.9%	2.4%
⑪ 母子生活支援施設（他区の施設）	1.4%	7.1%	30.4%	27.4%	31.8%	2.0%
⑫ ひとり親世帯への住宅支援	2.7%	19.9%	22.6%	36.1%	16.2%	2.4%
⑬ その他〔 〕	0.7%	1.4%	4.7%	17.2%	13.5%	62.5%

**問33 あなたが子育てするうえで足りていないと感じていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）**

(N=296)

1. 子どもが十分に学習、勉強できる環境	46.6%	8. 子どもが自由に遊ぶ時間	18.9%
2. 子どもが安全に生活できる環境	24.0%	9. 子どもが思いきり体を動かして遊ぶ環境	41.6%
3. 子どもにとって危険の無い生活	18.6%	10. 親子で過ごせる場所やイベント	23.0%
4. 子どもが家族と過ごす時間	39.5%	11. 子どものゆとりある生活	43.2%
5. 子どもの自立を促す取組	29.4%	12. 保護者が自由に過ごせる時間	31.8%
6. 子どもたちが自分たちのことを自分たちで 決める機会	19.6%	13. 地域での支え合い	11.5%
7. 子どもにとって充実した食生活	31.8%	14. 子育て経験者からのアドバイス	5.1%
		15. その他〔 〕	5.4%
		無回答	4.7%

## 問34 日頃、お子さんを保護者に代わってみてくれる親族・知人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

(N=296)

1. 日常的に祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる	15.5%
2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる	41.2%
3. 日常的に友人・知人にみてもらえる	2.7%
4. 緊急時もしくは用事の際には友人・知人にみてもらえる	19.3%
5. いずれもない	31.8%
無回答	1.4%

## 問35 ひとり親になられた後で、お子さんを次のようなところに預けたり、通わせたりしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○) (N=296)

1. 保育所	51.4%	7. 子ども家庭支援センター きらら中央	12.5%
2. 幼稚園	13.5%	8. 児童館(学童クラブを含む)	30.1%
3. 認定こども園	5.7%	9. プレディ(放課後子ども教室)	38.9%
4. 事業所内保育施設、ベビーホテルなどの 認可外保育所	5.7%	10. その他 〔 〕	5.4%
5. ベビーシッター	8.1%	11. <u>どれも利用したことはない</u>	14.9%
6. 祖父母や親せきの家	29.4%	無回答	1.4%

→ 問36 (P.104) へ

※問35で「11. どれも利用したことはない」以外を選んだ方におうかがいします。

## 問35-1 お子さんを預けたり、通わせたりした主な理由は何ですか。(3つまで選んで○) (n=248)

1. 自分の仕事のため	65.7%	5. 近所の遊び相手不足のため	5.6%
2. 自営・家業の仕事のため	5.6%	6. 子どもの養育に不安があるため	3.2%
3. 自分や家族が病気のため	10.1%	7. 子どもの教育のため	12.1%
4. 近所の遊び場不足のため	4.8%	8. その他〔 〕	3.6%
		無回答	27.0%

## 問35-2 お子さんを預けたり通わせたりして、あなたが不満に思ったことはありますか。

(あてはまるものすべてに○) (n=248)

1. 保育や教育の時間が短い	16.1%	9. 給食がない	10.1%
2. 保育や教育の内容が良くない	6.9%	10. 給食の内容が良くない	1.6%
3. 夜間に預かってもらえない	14.1%	11. 専門の施設・設備ではない	1.6%
4. 土曜・日曜など、休日に預かってもらえない	20.2%	12. 安全管理の体制が不十分	4.0%
5. 家から遠い(30分~60分未満)	2.4%	13. 子どもが病気のとくに預かってくれない	29.0%
6. 家からとても遠い(60分以上)	0.8%	14. その他〔 〕	4.8%
7. 費用がかかる	23.4%	15. 特にない	35.5%
8. 先生や保育者との交流が少ない	1.6%	無回答	4.0%

## 問36 近所や地域の人とおつきあいは、どの程度ありますか。(1つに○) (N=296)

1. あいさつする程度	47.3%	4. 食事に行ったり、家族ぐるみでつきあっている	8.4%
2. 時々立ち話をする	23.0%	5. 困っているときに相談したり助け合ったりしている	2.7%
3. 家に上がって話をする	1.4%	6. ほとんどつきあいはない	16.2%
		無回答	1.0%

## 問37 あなたは、中央区に今後も住み続けたいと思いますか。(1つに○) (N=296)

1. 子どもの小学校入学前まで住み続けたい	3.0%	5. 子どもの大学卒業まで住み続けたい	11.5%
2. 子どもの小学校卒業まで住み続けたい	6.1%	6. ずっと住み続けたい	62.2%
3. 子どもの中学校卒業まで住み続けたい	7.8%	7. 転出したい	2.7%
4. 子どもの高等学校卒業まで住み続けたい	5.4%	無回答	1.4%

## 問38 子育てに関する情報をどのように入手されていますか。(あてはまるものすべてに○) (N=296)

1. 祖父母・兄弟等の親族	20.6%	10. 保健所・保健センター	2.7%
2. 友人や知人	49.7%	11. 子育てガイドブック	1.0%
3. 近所の人	8.1%	12. こどもすくすくナビ	0.0%
4. SNSで知り合った友人	6.4%	13. インターネット	55.1%
5. 保育所、認定こども園、幼稚園、学校	26.0%	14. テレビ、ラジオ、新聞	16.2%
6. 区役所や区の機関の窓口	14.2%	15. 子育て雑誌	2.4%
7. 「区のおしらせ ちゅうおう」やパンフレット	30.1%	16. その他〔 〕	2.0%
8. 子ども家庭支援センター きらら中央	1.7%	17. 情報の入手先がわからない	3.4%
9. 児童館	3.0%	18. 情報を必要としていない	2.7%
		無回答	1.0%

## 問39 あなたは、子育てに関するどのような情報がほしいですか。(3つまで選んで○) (N=296)

1. 子どもの発達や育児、しつけについて	22.3%	7. 病気や障害に関する相談窓口	13.9%
2. 子ども向けイベント情報	31.8%	8. アレルギーのある子ども向けの情報	5.1%
3. 医療機関情報	27.4%	9. 子育てに優しい、子育てしやすい住まいに関する情報	20.6%
4. 保育所、幼稚園、学校の紹介・特徴	12.2%	10. 地域の伝統行事(祭り等)などの情報	28.7%
5. 経済的支援制度に関する情報	63.9%	11. その他〔 〕	4.1%
6. 公園などの遊び場の情報	14.2%	無回答	2.7%

## 問40 あなたは、他のひとり親家庭と交流をしたいと思いますか。(1つに○) (N=296)

1. ぜひ交流したい	6.4%	2. できれば交流したい	14.9%	3. どちらともいえない	45.6%	4. あまり交流したくない	14.5%	5. 交流したくない	17.6%	無回答	1.0%
------------	------	--------------	-------	--------------	-------	---------------	-------	------------	-------	-----	------

## 問41 あなたが必要と思うひとり親家庭への支援等は何のようなものですか。(3つまで選んで○)

(N=296)

1. 就職・転職に関する情報提供や相談、面接のアドバイスなどの就職できるまでの寄り添った支援を受けられること	12.5%
2. 就労のための教育訓練・資格取得の費用などを助成してくれること	28.4%
3. 在宅ワーク(パソコンを使うITやWeb関連の仕事)のスキルを習得するための支援を受けられること	30.7%
4. 家計管理や子どものしつけ・育児や養育費の取得手続等に関する講習会や、個別相談が受けられること	9.8%
5. 子どものことや生活のことなど気軽に話(相談)ができること	16.9%
6. 求職活動中、スキル習得中に保育所、学童等を利用できること	8.8%
7. 理由を問わずに子どもを一時的に預けられる場所が充実すること	28.4%
8. ひとり親が定期的に集い、情報交換などを行える場を開催してくれること	5.4%
9. 低家賃の「ひとり親世帯住宅」の整備や、家賃助成などの住宅のための支援を受けられること	49.7%
10. 一時的に必要な資金を借りられること	14.5%
11. 夫の暴力からの避難などの緊急時、一時的に施設で保護してもらえること	5.1%
12. 施設で母子家庭を保護し、子育て支援を進めながら、母子の生活と自立を支援してくれること	3.0%
13. 子どもの学習支援や進路相談を受けられること	25.0%
14. 子どもの学費等の奨学金を受けられること	49.0%
15. 高等学校卒業程度認定試験に合格等のための講座開催など、ひとり親の再チャレンジを支援してくれること	6.1%
16. その他〔	6.8%
17. 特にない	3.4%
無回答	0.7%

## 問42 質問は以上で終わりです。区のひとり親家庭支援施策に関してご意見などがございましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。11月24日(金)までに、投函してください。(切手不要)

## 中央区の主なひとり親向け支援事業一覧

事業名	事業の内容
① ひとり親家庭親子観劇会	ひとり親家庭の親子を対象とした「親子観劇会」を年1回実施しています。
② ひとり親家庭日帰りバス研修	ひとり親家庭の親子を対象に、相互の交流やレクリエーションを目的とした研修を、中央区社会福祉協議会および中央区ひとり親家庭福祉協議会が共催で年1回実施しています。
③ ひとり親家庭等医療費助成	ひとり親家庭などの方が病気やケガなどをしたとき、安心して病院などで受診できるように医療費の自己負担分の一部を助成しています。
④ ひとり親家庭休養ホーム事業 (日帰施設・宿泊施設利用料助成)	ひとり親家庭の方がレクリエーションや休養のために区の指定した施設を利用する際に、利用料金を助成します。
⑤ ひとり親家庭ホームヘルプサービス	ひとり親家庭で日常生活を営むのに著しく支障が生じたときに、ホームヘルパーを派遣します。
⑥ ひとり親家庭相談	専任の相談員(母子父子自立支援員兼家庭・婦人相談員)がひとり親家庭の方々の生活のこと等各種のご相談に応じています。また、必要に応じて各種関係機関と連携しています。
⑦ 子どもの学習・生活支援事業	ひとり親家庭等の子どもを対象とした無料の学習会を実施しています。ボランティアによる学習の支援や、進路や生活に関する相談を行い、子どもの自立に向けた支援を行います。
⑧ 母子及び父子福祉資金・女性福祉資金の貸付	母子家庭または父子家庭の生活の安定と、その児童の福祉を図るために、各種資金の貸し付けを行っています。
⑨ ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金	母子家庭の母または父子家庭の父の就労促進のため、区が指定する教育訓練講座を受講する場合に、費用の一部を助成しています。
⑩ ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金	母子家庭の母または父子家庭の父の就業に有利な資格取得のため、1年以上養成機関で修業する場合に、訓練促進給付金を支給します。
⑪ 母子生活支援施設(他区の施設)	母子家庭のための施設として、生活上の問題を抱えているため子どもの養育が十分にできない場合に、母子で入所することができます。
⑫ ひとり親世帯への住宅支援	住宅に困窮しているひとり親家庭を対象に設置している区立住宅です。あき家が発生した場合に募集しています。

中央区  
ひとり親家庭実態調査  
調査報告書

令和6(2024)年3月発行  
発行:中央区 福祉保健部 子育て支援課  
〒104-8404  
東京都中央区築地一丁目1番1号  
電話 03-3546-5444  
調査:株式会社生活構造研究所  
〒102-0083  
東京都千代田区麴町2丁目5番地4  
電話 03-5275-7861

刊行物登録番号

5-108